NEC

PC98-NX

活用ガイド
ハードウェア編

本機の機能

周辺機器を使う

システムの設定

PC98-NX SERIES

VersaPro

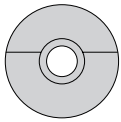
VA11J/DF・VA10J/DF

主な内容

このパソコンには、次のマニュアルが用意されています。

●『はじめにお読みください』
このパソコンの接続方法やWindowsのセットアップ手順について説明しています。
- 型番の確認
- 添付品の接続
- Windowsのセットアップ
- マニュアル紹介

●『活用ガイド 再セットアップ編』
このパソコンを再セットアップする場合の方法について説明しています。
- 再セットアップの方法



◎『アプリケーションCD-ROM/マニュアル CD-ROM』
『活用ガイド ハードウェア編』、『活用ガイド ソフトウェア編』が収録されています。利用方法については『はじめにお読みください』をご覧ください。

●『活用ガイド ハードウェア編』
このパソコンの取り扱い方法などを説明しています。
- キーボード、ハードディスク、CD-ROMドライブなどの取り扱い
- 周辺機器の接続と利用方法
- システム設定について

●『活用ガイド ソフトウェア編』
アプリケーションの利用方法、追加と削除の方法について説明しています。また、さまざまなトラブルへの対応方法をQ&A形式で説明しています。
- 添付アプリケーションの概要と追加/削除
- パソコンのメンテナンスと管理
- トラブル解決Q&A

はじめに

　このマニュアルは、パソコンの取り扱い方法について説明するものです。

　周辺機器やオプションを接続してパソコンを拡張する場合、パソコンの設定を変更する場合などに、このマニュアルをご利用ください。

2001年 8 月　初版

対象機種

VA11J/DF、VA10J/DF

853-810028-170-A

このマニュアルの表記について

◆このマニュアルでは、パソコンを安全にお使いいただくための注意事項を次のように記載しています。

⚠警告	注意事項を守っていただけない場合、人が死亡または重傷を負う可能性が想定されることを示します。
⚠注意	注意事項を守っていただけない場合、人が傷害を負う可能性が想定されること、または物的損害のみの発生が想定されることを示します。
感電注意	注意事項を守っていただけない場合、発生が想定される障害または事故の内容を表しています。左のマークは感電の可能性が想定されることを示しています。このほかに、毒物注意、破裂注意、高温注意についても、それぞれ記載しています。

◆このマニュアルで使用している記号や表記には、次のような意味があります。

チェック!!	してはいけないことや、注意していただきたいことを説明しています。よく読んで注意を守ってください。場合によっては、作ったデータの消失、使用しているアプリケーションの破壊、パソコンの破損の可能性があります。
用語	パソコンを使うときに知っておいていただきたい用語の意味を解説しています。
	利用の参考となる補足的な情報をまとめています。
参照	マニュアルの中で関連する情報が書かれている所を示しています。

◆このマニュアルで使用している表記の意味

CD-ROMモデル	CD-ROMドライブを内蔵しているモデルのことです。
CD-R/RWモデル	CD-R/RWドライブを内蔵しているモデルのことです。
CD-R/RW with DVD-ROMモデル	CD-R/RW with DVD-ROMドライブを内蔵しているモデルのことです。
FAXモデム内蔵モデル	FAXモデムを内蔵しているモデルのことです。
ワイヤレスLAN（無線LAN）モデル	ワイヤレスLANインターフェイスを内蔵しているモデルのことです。
LAN内蔵モデル	LANインターフェイスを内蔵しているモデルのことです。
内蔵指紋センサモデル	指紋センサを内蔵しているモデルのことです。
暗証番号機能モデル	セキュリティ用の暗証番号入力機能を搭載したモデルのことです。
Windows Meモデル	セットアップ時にWindows Meを選んでセットアップしたモデルのことです。
Windows 98モデル	セットアップ時にWindows 98を選んでセットアップしたモデルのことです。
Windows 2000 Professionalモデル	セットアップ時にWindows 2000 Professionalを選んでセットアップしたモデルのことです。
Windows NTモデル	セットアップ時にWindows NT 4.0を選んでセットアップしたモデルのことです。
BIOSセットアップメニュー	本文中に記載されているBIOSセットアップメニューは、BIOSセットアップユーティリティを指します。
【　】	【　】で囲んである文字は、キーボードのキーを指します。
「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」→「メモ帳」	「スタート」ボタンをクリックし、現れたポップアップメニューから「プログラム」を選択し、横に現れるサブメニューから「アクセサリ」→「メモ帳」を順に選択する操作を指します。
「コントロールパネル」を開く	「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」をクリックする操作を指します。 Windows Meで「コントロールパネル」の画面に操作したいアイコンが表示されていない場合は、「すべてのコントロールパネルのオプションを表示する。」をクリックしてアイコンを表示させてください。

◆このマニュアルで使用しているアプリケーション名などの正式名称

本文中の表記	正式名称
Windows	次のいずれかを指します。 ・Microsoft® Windows® Millennium Edition operating system 日本語版 ・Microsoft® Windows® 98 Second Edition operating system 日本語版 ・Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system 日本語版 ・Microsoft® Windows NT® Workstation operating system Version 4.0 日本語版
Windows Me	Microsoft® Windows® Millennium Edition operating system 日本語版
Windows 2000、Windows 2000 Professional	Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system 日本語版
Windows 98	Microsoft® Windows® 98 Second Edition operating system 日本語版
Windows NT 4.0	Microsoft® Windows NT® Workstation operating system Version 4.0 日本語版
Outlook 2000	Microsoft® Outlook® 2000
Outlook 2002	Microsoft® Outlook® Version 2002
インターネットエクスプローラ	次のいずれかを指します。 ・Microsoft® Internet Explorer 5.5 ・Microsoft® Internet Explorer 5.01 ・Microsoft® Internet Explorer 4.01 SP2
BaySwapユーティリティ	Phoenix BaySwap™
StandbyDisk 2000 Pro	StandbyDisk™ 2000 Pro 日本語版 for Windows 2000 Professional

◆このマニュアルで使用しているイラストと画面

・本機のイラストや記載の画面は、モデルによって異なることがあります。

・本書に記載の画面は、実際の画面とは多少異なることがあります。

当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの基準に適合していると判断します。

> 国際エネルギースタープログラムは、コンピュータをはじめとしたオフィス機器の省エネルギー化推進のための国際的なプログラムです。このプログラムは、エネルギー消費を効率的に抑えた製品の開発、普及の促進を目的としたもので、事業者の自主判断により参加することができる任意制度となっています。対象となる製品は、コンピュータ、ディスプレイ、プリンタ、ファクシミリおよび複写機等のオフィス機器で、それぞれの基準ならびにマーク(ロゴ)は参加各国の間で統一されています。

■技術基準等適合認定について

このパーソナルコンピュータは、電気通信事業法第72条の2第1項規定に基づく端末機器の設計についての認証を受けています。申請回線と認証番号は次のとおりです。なお、専用回線等との接続は、一般のお客様には行えませんので、必ずご購入元にご相談ください。

対象機種	モデル	認証番号電話回線
VA11J/DF VA10J/DF	FAXモデム内蔵モデル	A01-0599JP
	ワイヤレスLAN(無線LAN)モデル	
	LAN内蔵モデル	

■電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

■漏洩電流自主規制について

この装置は、社団法人電子情報技術産業協会のパソコン業界基準(PC-11-1988)に適合しております。

■瞬時電圧低下について

[バッテリパックを取り付けていない場合]

本装置は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。
電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをおすすめします。

[バッテリパックを取り付けている場合]

本装置にバッテリパック実装時は、社団法人電子情報技術産業協会の定めたパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインを満足しますが、ガイドラインの基準を上回る瞬時電圧低下に対しては、不都合が生じることがあります。

■レーザ安全基準について

本機には、レーザに関する安全基準(JIS・C-6802、IEC825)クラス1適合のCD-ROMドライブ、CD-R/RWドライブ、CD-R/RW with DVD-ROMドライブのいずれかが内蔵されています。

ご注意

(1) 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁じられています。
(2) 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
(3) 本書の内容については万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載もれなどお気づきのことがありましたら、ご購入元、最寄りのBIT-INN、またはNECパソコンインフォメーションセンターへご連絡ください。落丁、乱丁本は、お取り替えいたします。ご購入元までご連絡ください。
(4) 当社では、本装置の運用を理由とする損失、逸失利益等の請求につきましては、(3)項にかかわらずいかなる責任も負いかねますので、予めご了承ください。
(5) 本装置は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器など、人命に関わる設備や機器、および高度な信頼性を必要とする設備や機器などへの組み込みや制御等の使用は意図されておりません。これら設備や機器、制御システムなどに本装置を使用され、人身事故、財産損害などが生じても、当社はいかなる責任も負いかねます。
(6) 海外における保守・修理対応は、海外保証サービス[NEC UltraCare℠ International Service]対象機種に限り、当社の定める地域・サービス拠点にてハードウェアの保守サービスを行います。サービスの詳細や対象機種については、以下のホームページをご覧ください。
http://www.ultracare.nec.co.jp/jpn/
(7) 本機の内蔵ハードディスクにインストールされているMicrosoft® Windows® Me、Microsoft® Windows® 98、Microsoft® Windows® 2000 Professional、Microsoft® Windows NT®は本機でのみご使用ください。また、本機に添付のCD-ROM、フロッピーディスクは、本機のみでしかご利用になれません(Intellisyncを除く。詳細は「ソフトウェアのご使用条件」および「ソフトウェア使用条件適用一覧」をお読みください)。
(8) ソフトウェアの全部または一部を著作権の許可なく複製したり、複製物を頒布したりすると、著作権の侵害となります。
(9) ハードウェアの保守情報をセーブしています。

Microsoft、MS、MS-DOS、Windows、Windows NT、Outlook、およびWindowsのロゴは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。
IntellisyncおよびIntellisyncロゴは、いくつかの法域で登録することができるPumatech, Inc.の商標です。
Pentiumは、Intel Corporationの登録商標です。
SpeedStepは、Intel Corporationの商標です。
Hayesは、米国Hayes Microcomputer Productsの登録商標です。
MNPは、Microcom, Inc.の登録商標です。
PS/2はIBM社が所有している商標です。
SymantecおよびpcAnywhereは、Symantec Corporationの米国における登録商標です。
IntelおよびLANDeskは、Intel Corporationの米国およびその他の国々における登録商標です。
Intel® LANDesk® Client Manager 6 (with NEC Extensions)は、Intel® LANDesk® Client Managerのテクノロジを使用しています。
cdmaOneは、CDGの登録商標です。
BaySwapは米国フェニックス テクノロジーズ社の米国における商標です。
StandbyDisk™は、(株)ネットジャパンの商標です。

その他、本マニュアルに記載されている会社名、商品名は各社の商標または登録商標です。

©NEC Corporation 2001
日本電気株式会社の許可なく複製・改変などを行うことはできません。

■輸出に関する注意事項

本製品(ソフトウェアを含む)は日本国内仕様であり、外国の規格等には準拠していません。
本製品を日本国外で使用された場合、当社は一切責任を負いかねます。
また、当社は本製品に関し海外での保守サービスおよび技術サポート等は行っていません。(ただし、海外保証サービス[NEC UltraCare℠ International Service]対象機種については、海外でのハードウェア保守サービスを実施致します。)

本製品の輸出(個人による携行を含む)については、外国為替および外国貿易法に基づいて経済産業省の許可が必要となる場合があります。
必要な許可を取得せずに輸出すると同法により罰せられます。
輸出に際しての許可の要否については、ご購入頂いた販売店または当社営業拠点にお問い合わせ下さい。

■Notes on export

This product(including software)is designed under Japanese domestic specifications and does not conform to overseas standards.NEC will not be held responsible for any consequences resulting from use of this product outside Japan.NEC does not provide maintenance service nor technical support for this product outside Japan.(Only some products which are eligible for NEC UltraCare℠ International Service can be provided with hardware maintenance service outside Japan.)

Export of this product(including carrying it as personal baggage)may require a permit from the Ministry of Economy, Trade and Industry under an export control law.Export without necessary permit is punishable under the said law.Customer shall inquire of NEC sales office whether a permit is required for export or not.

目　次

PART 1

本機の機能 15

各部の名称 16
- 本体前面 16
- 本体背面 17
- 本体底面 18

表示ランプ 19
- 表示ランプの名称と役割 19

ワンタッチスタートボタン 22
- ワンタッチスタートボタンを使う 22
- ワンタッチスタートボタンの設定を変更する 22

キーボード 25
- キーの名称 25
- キーの使い方 26
- キーボードの設定をする 28

NXパッド 29
- NXパッドの使い方 29
- スクロールスライドスイッチを使う 30
- NXパッドドライバをインストールする 31
- NXパッドの設定をする 35

ハードディスク 36
- ハードディスク使用上の注意 36
- 領域の確保とフォーマット 36
- FAT32ファイルシステムの利用 43
- セカンドハードディスクを使う 43
- ハードディスクのメンテナンス 45

フロッピーディスクドライブ 46
- 各部の名称と役割 46
- 使用できるフロッピーディスクの種類 46
- 使用上の注意 47

CD-ROMドライブ・CD-R/RWドライブ・CD-R/RW with DVD-ROMドライブ 48
- 各部の名称と役割 48
- 使用できるディスク 48
- 使用上の注意 49

液晶ディスプレイ 50
- 画面表示を調整する 50
- 表示できる解像度と表示色 51
- 解像度と表示色を変更する 52

バーチャルスクリーン(Windows Me、Windows 98のみ) 53
デュアルディスプレイ機能(Windows Me、Windows 98のみ) 55

バッテリ 57
バッテリで本機を使う場合の注意 57
充電のしかた 58
バッテリ残量の確認 59
バッテリリフレッシュ 60
バッテリパックの交換 62
バッテリ容量を増やす 65

省電力機能
(Windows Me／Windows 98／Windows 2000の場合) 66
省電力機能とは 66
省電力機能使用上の注意 67
スタンバイ状態(サスペンド)にする 69
休止状態(ハイバネーション)にする 70
スタンバイ状態または休止状態から復帰(レジューム)する 72
省電力機能の設定をする 72
休止状態の設定の解除と再設定(Windows 98のみ) 76
電源の自動操作 78
Intel® SpeedStep™テクノロジ 79

省電力機能(Windows NT 4.0の場合) 81
省電力機能とは 81
スタンバイモード 82
サスペンド 83
電源の自動操作 86
パワーマネージメント 86
Intel® SpeedStep™テクノロジ 87
PowerProfiler 88

セキュリティ機能 93
本機のセキュリティ機能 93
パスワード 93
ハードディスクのパスワード 96
指紋認証機能 100
指紋認証ユニット 100
暗証番号ボタン 101
その他のセキュリティ機能を使う 103

赤外線通信機能 104
赤外線通信を行う前に 104
機器の配置について 105
赤外線通信をする 106

サウンド機能 109
ボリュームコントロールを表示させる 109
表示項目を切り替える 109
内蔵モデム 111
電話回線との接続 111
ダイヤル設定のしかた 112
通信機能使用上の注意 115
インターネットへの通信環境を切り替える 117
携帯電話／PHS接続機能 122
携帯電話またはPHSとの接続 122
接続先を設定する 123
ダイヤル設定のしかた 124
携帯電話／PHS接続機能使用上の注意 126
いろいろなデータ通信を行う 126
LAN（ローカルエリアネットワーク） 128
LANへの接続 128
運用上の注意 129
本機の運用管理 130
ワイヤレスLAN（無線LAN） 136
ワイヤレスLAN（無線LAN）機能を使う 136

PART 2

周辺機器を使う 137

接続できる周辺機器 138
本体に接続できる周辺機器一覧 138
周辺機器の利用 140
周辺機器利用上の注意 140
周辺機器の取り外しと再接続 144
プリンタ 146
プリンタの接続 146
プリンタの設定 147
マウス 148
別売のマウスの設定方法 148
NXパッドを使用する設定に戻す 154
他社製のマウスドライバを使用する場合の注意 154
外部ディスプレイ 155
CRTディスプレイの接続 155
プロジェクタの接続 156
テレビの接続 157

外部ディスプレイの設定 158
PCカード 162
使用上の注意 162
PCカードのセットのしかたと取り出し方 163
PCカードの設定 165
メモリ 177
メモリ容量について 177
メモリの取り付け方と取り外し方 177
IEEE1394コネクタ 184
IEEE1394とは 184
IEEE1394対応機器を接続する 184
VersaBay IV 187
VersaBay IVで使用できる機器 187
VersaBay IVの機器を交換するための準備 187
VersaBay IVの機器を交換する 189
MultiBay 192
MultiBayで使用できる機器 192
MultiBayの機器を交換するための準備 192
MultiBayの機器を交換する 193
USBコネクタ 196
USBとは 196
USBコネクタに接続する 197
その他の機器 200
本機で使用できるその他の機器 200
シリアルコネクタ 201
パラレルコネクタ 201
マウス／テンキーボード用コネクタ 201

PART 3

システムの設定 203
BIOSセットアップメニュー 204
BIOSセットアップメニューを使ってできること 204
BIOSセットアップメニューを日本語表示にするには 204
BIOSセットアップメニューを使う 205
BIOSセットアップメニューを終了する 206
購入時の値に戻す 207
設定項目一覧 208
起動の設定 214

PART 4

付録 215

本機のお手入れ 216
- お手入れをはじめる前に 216
- お手入れをする 217

補足情報 218
- 別売のUSBポートバー使用時の設定 218
- サウンド機能について(Windows Meモデルのみ) 220

機能一覧 226
- 仕様一覧 226
- 内蔵FAXモデム機能仕様 229
- 携帯電話／PHS接続機能 231
- 内蔵LAN機能仕様 232

割り込みレベルとDMAチャネル 233
- 割り込みレベルとDMAチャネルについて 233

索引 237

PART

1

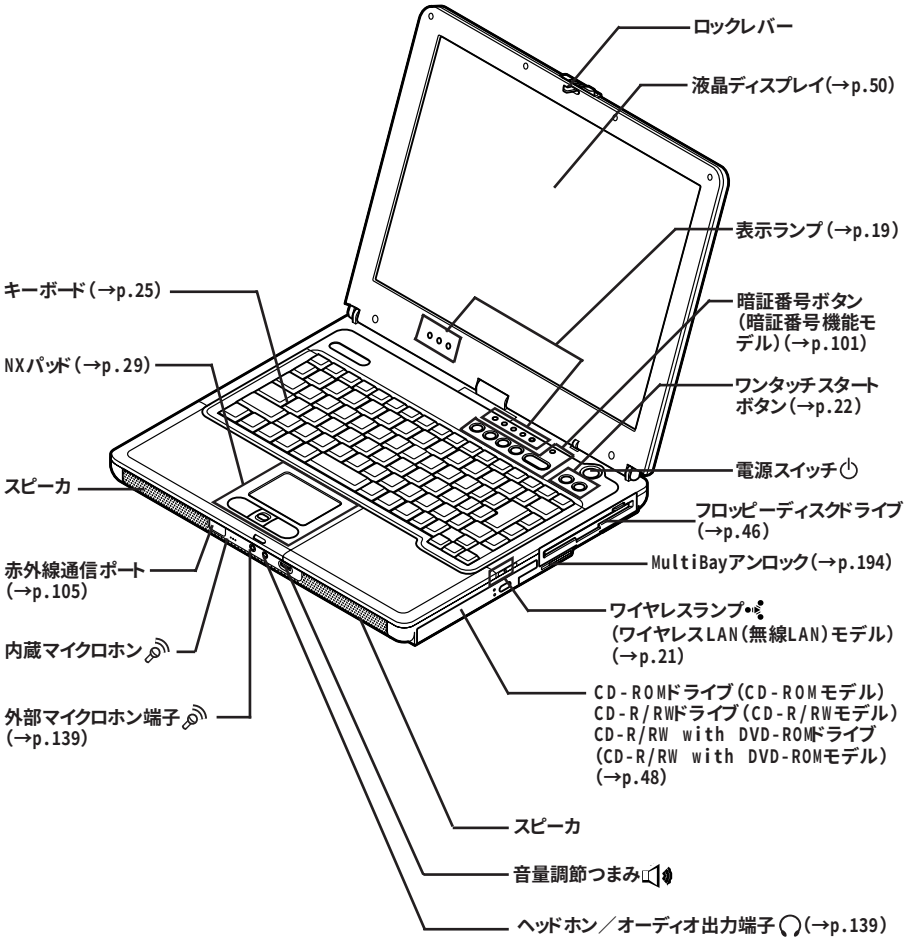
本機の機能

本機の各部の名称といろいろな機能について説明しています。

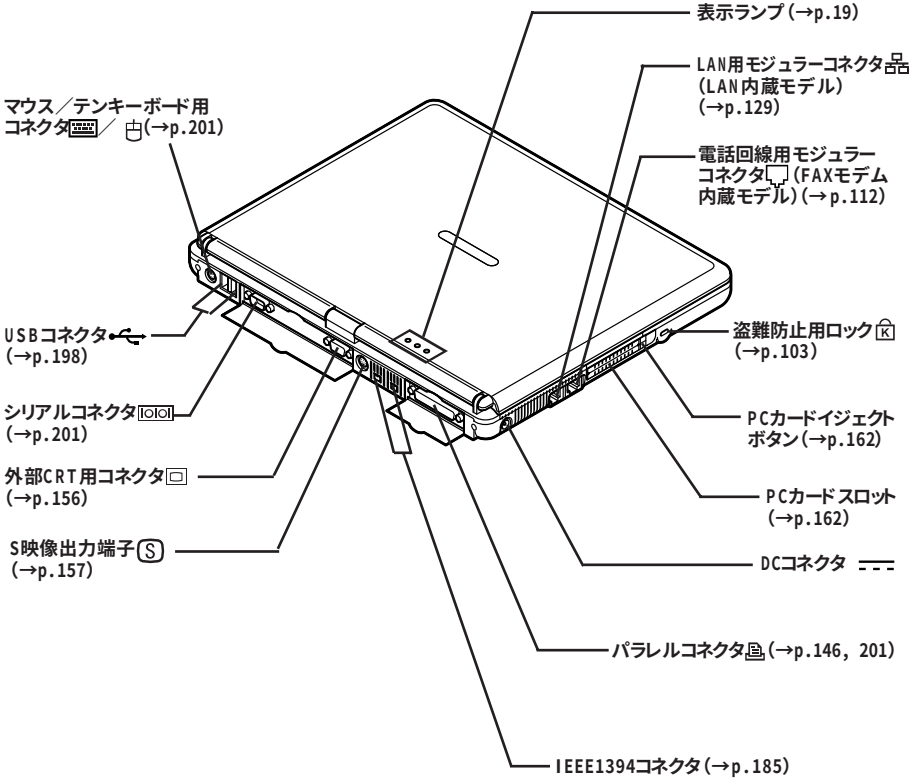
各部の名称

本機の各部の名称と配置について説明しています。それぞれの機能や取り扱い方については、参照ページをご覧ください。

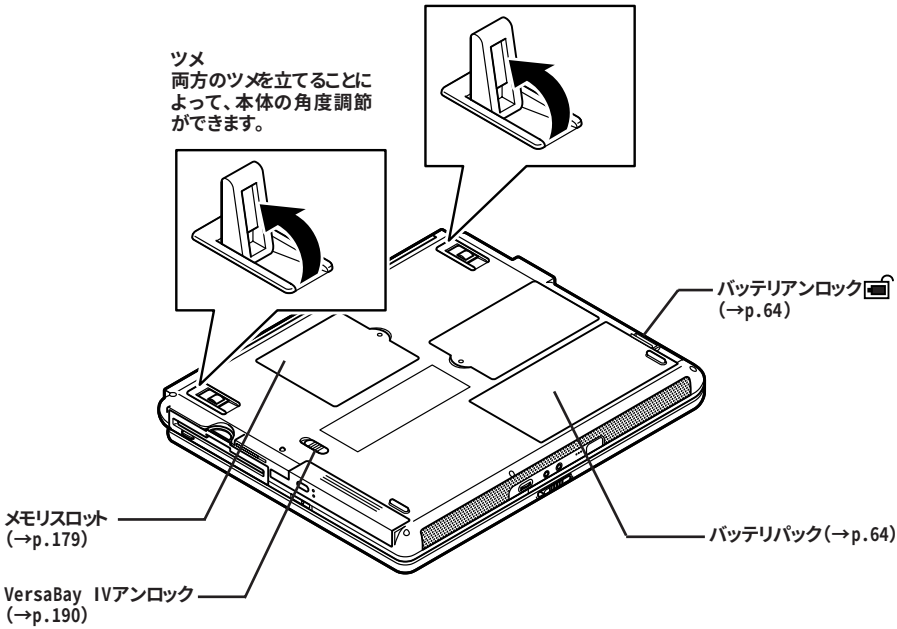
本体前面



本体背面


表示ランプ（→p.19）
LAN用モジュラーコネクタ
（LAN内蔵モデル）
（→p.129）
マウス／テンキーボード用
コネクタ／（→p.201）
電話回線用モジュラー
コネクタ（FAXモデム
内蔵モデル）（→p.112）
USBコネクタ
（→p.198）
盗難防止用ロック
（→p.103）
シリアルコネクタ
（→p.201）
PCカードイジェクト
ボタン（→p.162）
外部CRT用コネクタ
（→p.156）
PCカードスロット
（→p.162）
S映像出力端子
（→p.157）
DCコネクタ
パラレルコネクタ（→p.146，201）
IEEE1394コネクタ（→p.185）

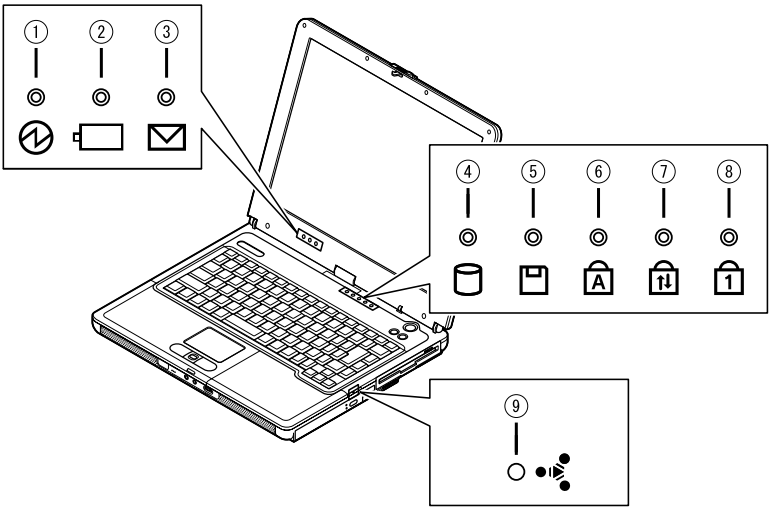
本体底面



本体底面の形状は、お使いの機種によってイラストと多少異なる場合があります。

表示ランプ

表示ランプの名称と役割



①電源ランプ(⏻)

ランプ		状態
緑	点灯	電源が入っている
	点滅	スタンバイ状態(サスペンド)
黄色	点灯	バッテリ容量が少ない
	点滅	スタンバイ状態(サスペンド)でバッテリ容量が少ない
オレンジ	点灯	バッテリ容量が残りわずか
	点滅	スタンバイ状態(サスペンド)でバッテリ容量が残りわずか
消灯		電源が切れている、または休止状態

②バッテリ充電ランプ(▭)

ランプ		状態
オレンジ	点灯	バッテリ充電中
	点滅	バッテリのエラー※1
緑※2	点灯	セカンドバッテリ充電中
	点滅	セカンドバッテリのエラー※1
消灯		ACアダプタが接続されていない、または充電完了

※1:バッテリを取り付けなおしてもエラーが出る場合は、バッテリリフレッシュを行ってください(→p.60)。

※2:セカンドバッテリ接続時のみ。

③メール着信ランプ(✉)

ランプ	状態
緑点灯	メール着信あり
消灯	メール着信なし

④アクセスランプ(⛁)

ランプ	状態
緑点灯	ハードディスクやCD-ROMなどのディスクにアクセス中
消灯	ハードディスクやCD-ROMなどのディスクにアクセスしていない

⑤フロッピーディスクアクセスランプ(💾)

ランプ	状態
緑点灯	アクセス中
消灯	アクセスしていない

⑥キャップスロックキーランプ(🔒A)

ランプ	状態
緑点灯	【Caps Lock】がロックされている 英字を入力すると大文字になります。
消灯	【Caps Lock】がロックされていない 英字を入力すると小文字になります。

⑦スクロールロックキーランプ（⇅）

ランプ	状態
緑点灯	【Scr Lock】がロックされている
消灯	【Scr Lock】がロックされていない

⑧ニューメリックロックキーランプ（1）

ランプ	状態
緑点灯	【Num Lock】がロックされている キーを押すとキー前面の文字が入力されます。
消灯	【Num Lock】がロックされていない キーを押すとキー上面の文字が入力されます。

⑨ワイヤレスランプ（）（ワイヤレスLAN（無線LAN）モデルのみ）

ランプ	状態
緑点灯	ワイヤレスLAN（無線LAN）機能が使用可能
消灯	ワイヤレスLAN（無線LAN）機能が使用不可

ワンタッチスタートボタン

ワンタッチスタートボタンを使うと、ボタンを押すだけで、あらかじめ設定したアプリケーションを起動することができます。

ワンタッチスタートボタンを使う

◎【Ⅰ】ボタン、【Ⅱ】ボタン

【Ⅰ】ボタン、【Ⅱ】ボタンを押すと、本機の電源のオン／オフにかかわらず、すぐにアプリケーションを起動するように設定できます。
購入時は、それぞれのボタンを押すと、「インターネット接続ウィザード」が起動します。

起動するアプリケーションを変更したい場合は、「ワンタッチスタートボタンの設定」で行います。

参照 **ワンタッチスタートボタン→「各部の名称」(p.16)**

チェック!!

- **Windows 98のMS-DOSモードで起動した場合や、セーフモードなどWindowsのキーボードドライバが動作しない状態では、ワンタッチスタートボタンの機能は使えません。**
- **Windows NT 4.0をお使いの場合、サスペンド中にワンタッチスタートボタンを押しても登録したアプリケーションは起動できません。**

ワンタッチスタートボタンの設定を変更する

「ワンタッチスタートボタンの設定」では、どのアプリケーションをワンタッチスタートボタンで起動させるかを設定できます。

> ワンタッチスタートボタンでは、アプリケーションを「同時」または「順次」に起動することもできます。「同時」は、ひとつのボタンに複数のアプリケーションを割り当てて一度に起動する方法です。「順次」は、はじめに登録したアプリケーションを終了すると次のアプリケーションが順次起動する方法です。

◎「ワンタッチスタートボタンの設定」を起動する

1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「ワンタッチスタートボタンの設定」→「ワンタッチスタートボタンの設定」をクリックする

「ワンタッチスタートボタンの設定」画面が表示されます。

インジケータ領域(タスクトレイ)にある をダブルクリックして起動することもできます。

参照 **ワンタッチスタートボタンの設定→「ワンタッチスタートボタンの設定　ヘルプ」**

「ワンタッチスタートボタンの設定　ヘルプ」は、「スタート」ボタン→「プログラム」→「ワンタッチスタートボタンの設定」→「ワンタッチスタートボタンの設定　ヘルプ」をクリックすると表示できます。

◎ アプリケーションを割り当てる

ここでは、例として【Ｉ】ボタンに「メモ帳」を割り当てる方法を説明します。

チェック!! **ショートカット(拡張子が.lnkのファイル)で、プロパティの「ショートカット」タブの「リンク先」に何も表示されていないファイルは、ワンタッチスタートボタンに登録してもショートカットが実行されません。**
登録後、正常に実行されない場合は、そのショートカットを右クリックし、プロパティの内容を確認してください。

1 「ワンタッチスタートボタンの設定」を起動する

2 「ボタン設定」タブをクリックし、「ボタン1」の下の(単独)をクリックする

「プログラム登録」画面が表示されます。

3 「スタートメニュー」タブをクリックし、「プログラム」フォルダをダブルクリックする

4 「アクセサリ」フォルダをダブルクリックし、「メモ帳.lnk」を「プログラム1」ボックスにドラッグ&ドロップする

5 「OK」ボタンをクリックする

6 **「OK」ボタンをクリックする**

「ユーザデータの更新」画面が表示されます。

7 **「はい」ボタンをクリックする**

◎ ワンタッチスタートボタンの有効／無効を切り替える

次の操作でワンタッチスタートボタンの有効／無効を切り替えることができます。

1 **「スタート」ボタン→「プログラム」→「ワンタッチスタートボタンの設定」→「ワンタッチスタートボタンを無効にする」または「ワンタッチスタートボタンを有効にする」をクリックする**

ワンタッチスタートボタンが無効の状態の場合は「ワンタッチスタートボタンを有効にする」が表示され、有効の状態の場合は「ワンタッチスタートボタンを無効にする」が表示されています。

2 **ワンタッチスタートボタンを有効または無効にするメッセージが表示されたら「はい」ボタンをクリックする**

3 **再起動のメッセージが表示されたら「はい」ボタンをクリックする**

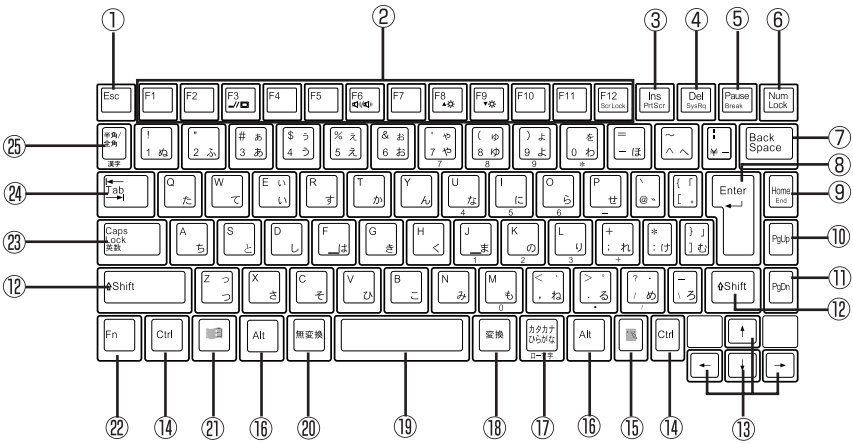
Windowsが再起動します。

再起動後、ワンタッチスタートボタンの有効／無効が切り替わります。

キーボード

キーボードの基本的な使い方を説明します。

キーの名称



① 【Esc】：エスケープキー
② 【F1】～【F12】：ファンクションキー
③ 【Ins】：インサートキー
④ 【Del】：デリートキー
⑤ 【Pause】：ポーズキー
⑥ 【Num Lock】：ニューメリックロックキー
⑦ 【Back Space】：バックスペースキー
⑧ 【Enter】：エンターキー(リターンキー)
⑨ 【Home】：ホームキー
⑩ 【PgUp】：ページアップキー
⑪ 【PgDn】：ページダウンキー
⑫ 【Shift】：シフトキー
⑬ 【↑】【↓】【→】【←】：カーソル移動キー
⑭ 【Ctrl】：コントロールキー
⑮ 【▤】：アプリケーションキー
⑯ 【Alt】：オルトキー
⑰ 【カタカナ ひらがな】：かなキー
⑱ 【変換】：変換キー
⑲ スペースキー
⑳ 【無変換】：無変換キー
㉑ 【⊞】：Windowsキー
㉒ 【Fn】：エフエヌキー
㉓ 【Caps Lock】：キャップスロックキー
㉔ 【Tab】：タブキー
㉕ 【半角／全角】：半角／全角キー

キーの使い方

◎ 特殊なキーの使い方

キー操作	説　明
【Num Lock】	一度押すとニューメリックロックキーランプが点灯し、キー前面に黄で表示されている数字や記号を入力できるようになります。 もう一度押すとニューメリックロックキーランプが消灯し、キー上面の文字が入力できるようになります。
【Shift】+【Caps Lock】	一度押すとキャップスロックキーランプが点灯し、アルファベットを入力すると大文字が入力されます。 もう一度押すとキャップスロックキーランプが消灯し、アルファベットを入力すると小文字が入力されます。
【Alt】+【半角／全角】 または 【半角／全角】 (MS-IME98、MS-IME2000、MS-IME2002使用時のみ)	一度押すと日本語入力システムがオンになり、日本語が入力できるようになります。 もう一度押すと日本語入力システムがオフになり、日本語が入力できなくなります。
【Alt】+【カタカナ　ひらがな】 (MS-IME97使用時を除く)	日本語入力システムがオンになっている場合、一度押すとかな入力モードになり、キー上面のかな文字で日本語を入力できるようになります。もう一度押すとローマ字入力モードになり、キー上面のアルファベットの組み合わせで日本語を入力できるようになります。
【Caps Lock】	日本語入力システムがオンになっている場合、一度押すと英数字が入力されるようになります。
【カタカナ　ひらがな】	日本語入力システムがオンになっていて英数字が入力されるモードになっている場合、一度押すとひらがなやカタカナを入力できるようになります。
【Fn】	他のキーと組み合わせて機能を実行します(→p.27)。

◎ ホットキー機能(【Fn】の使い方)

【Fn】と他のキーを組み合わせることで、本機の設定をキー操作で簡単に調整することができます。これをホットキー機能といいます。
組み合わせが可能なキーとその機能を表すアイコンは、【Fn】と同じ色(黄)でキー上面に印字されているものもあります。

キー操作	機　　能	説　　明
【Fn】+【F2】※1	ワイヤレスLAN(無線LAN)機能のオン/オフ( )	ワイヤレスLAN(無線LAN)機能を使用する/使用しないを切り替えます。
【Fn】+【F3】	ディスプレイの切り替え(/)	別売のCRTディスプレイが接続されている場合、キーを押すごとに「液晶ディスプレイとCRTの同時表示」→「テレビ」※2→「液晶ディスプレイ」→「CRT」の順に切り替わります。
【Fn】+【F4】	スタンバイモード	Windows NT 4.0使用時、スタンバイモードにします。
【Fn】+【F5】	画面の伸縮	低解像度時に、ディスプレイの画面を拡大表示する/しないを切り替えます。
【Fn】+【F6】	ビープ音量調節(/)	ビープ音の音量をオン/オフに設定します。
【Fn】+【F7】	省電力モード選択	Windows NT 4.0使用時、キーを押すごとに、省電力のモードを切り替えます。
【Fn】+【F8】	輝度を上げる( )	キーを押すごとに、液晶ディスプレイの輝度が増加します(8段階)。
【Fn】+【F9】	輝度を下げる( )	キーを押すごとに、液晶ディスプレイの輝度が低下します(8段階)。
【Fn】+【F12】	スクロールロック	【Scr Lock】の役割
【Fn】+【Ins】	プリントスクリーン	【Prt Scr】の役割
【Fn】+【Del】	システムリクエスト	【Sys Rq】の役割
【Fn】+【 】	右Windows	右【 】の役割
【Fn】+【Pause】	Break	【Break】の役割
【Fn】+【Home】	End	【End】の役割

※1: ワイヤレスLAN(無線LAN)モデルのみ
※2: テレビが接続されている場合のみ切り替わります。

【Fn】+【F3】~【F12】で設定した内容は、電源を切ったり再起動したりすると解除されます(【Fn】+【F7】~【F9】を除く)。

キーボードの設定をする

1 「コントロールパネル」を開き、「キーボード」アイコンをダブルクリックする

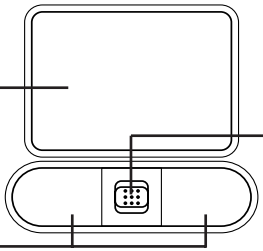
「キーボードのプロパティ」画面が表示されます。

「キーボードのプロパティ」画面では、画面左上の各タブを選択すると、キーボードの設定を行うことができます。
それぞれの設定について詳しくは、Windowsのヘルプをご覧ください。

NXパッド

本機には、ポインティングデバイスとしてNXパッドが内蔵されています。NXパッドは、コントロールパネルを使ってより使いやすいように設定できます。

NXパッドの使い方



- **クリックボタン**

  画面上のボタンやアイコンにポインタをあわせて左のクリックボタンを押すことを「クリック」、すばやく2回続けて押すことを「ダブルクリック」といいます。右のクリックボタンを1回押すことを「右クリック」といいます。

- **パッド**

  パッド上で指を動かすと、指の動きにあわせて画面上のポインタ(カーソル)が動きます。

  パッドを指先で軽くたたくと、クリックボタンを押した場合と同じ操作になります。また、2回連続してパッドをたたくと、ダブルクリックと同じ操作になります。パッドを軽くたたいて、クリックと同じ操作をすることを「タップ」といいます。

> ドラッグする場合は、アイコンやフォルダの上にポインタをあわせ、左クリックボタンを押したまま、パッドの上で指を動かします。
> クリックボタンを使わずに、アイコンやフォルダにポインタをのせた状態で、パッドを軽くたたき、そのまま指を動かしてドラッグすることもできます。

- **スクロールスライドスイッチ**

  画面に表示されていない部分をスクロールして表示させたり、画面を拡大したり縮小することができます。

◎ NXパッドの便利な使い方

タップやパッドのみでのドラッグなどのほかにも、次のような便利な使い方ができます。

・パッド上で指をすべらすことで画面をスクロールさせる(パッド上にスクロール領域を設定します)
・キーボードからの入力時に、間違えてタップしたりポインタが動くことがないようにNXパッドを無効にしておく

これらの機能を利用するためには、NXパッドドライバをインストールする必要があります。インストール手順については、「NXパッドドライバをインストールする」(→p.31)をご覧ください。

スクロールスライドスイッチを使う

スクロールスライドスイッチを使うと、画面を上下左右にスクロールさせたり、画面を拡大縮小させることができます。

チェック!!

・スクロールスライドスイッチの機能に対応していないアプリケーションではスクロールスライドスイッチを使用できません。

・アプリケーションによっては、ポインタの位置によって動作が異なる場合があります。

◎ 画面を上下方向にスクロールさせる

1 アプリケーションの上下スクロールバーがある画面をクリックする

2 スクロールスライドスイッチをパッド側、または手前側にスライドさせる

パッド側にスライドさせると画面が上にスクロールし、手前側にスライドさせると画面が下にスクロールします。
スクロールスライドスイッチをスライドさせたままにすると、連続して画面をスクロールさせることができます。

チェック!! **スクロールスライドスイッチを押した状態でスライドさせようとしてもスクロールしないことがあります。スクロールさせる場合は、スクロールスライドスイッチを押さずに軽く指をおいてスライドさせてください。**

◎ 画面を上下、左右方向にスクロールさせる

1 スクロールさせたい画面にポインタを移動する

2 スクロールスライドスイッチを押す

画面がスクロールできる方向に応じて、ポインタの形が⇕や⇔に変わります。

チェック!! スクロールスライドスイッチを押す場合は、スイッチをスライドさせないように注意してください。スライドさせた場合、通常の上下方向のスクロール機能が働きます。

3 ポインタの形が変わったら、パッドを使ってスクロールさせる

パッド上で指をすべらせた方向にスクロールします。
パッドによるスクロールを終了したい場合は、もう一度、スクロールスライドスイッチを押してください。ポインタの形が元に戻ります。

◎ ズーム機能を使う

1 拡大、縮小したい画面にポインタを動かす

2 キーボードの【Ctrl】を押したまま、スクロールスライドスイッチをパッド側、または手前側にスライドさせる

パッド側にスライドさせると画面の表示が拡大され、手前側にスライドさせると縮小します。

NXパッドドライバをインストールする

チェック!!
- **使用中のアプリケーションがある場合は、すべて終了しておいてください。**
- **Windows 2000またはWindows NT 4.0でNXパッドドライバをインストールする場合は、Administrator権限を持つユーザで本機にログオンしてください。**

■Windows Me／Windows 98／Windows 2000の場合

1 「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする

2 次の操作を行う

- **Windows Me／Windows 98の場合**
  「デバイス マネージャ」タブをクリックする
- **Windows 2000の場合**
  「ハードウェア」タブをクリックし、「デバイス マネージャ」ボタンをクリックする

3 次の項目の左の⊞をクリックする

- **Windows Me／Windows 98の場合**
  「マウス」
- **Windows 2000の場合**
  「マウスとそのほかのポインティング デバイス」

4 現在使用しているマウスをダブルクリックする

5 「ドライバ」タブをクリックし、「ドライバの更新」ボタンをクリックする

「デバイス ドライバの更新ウィザード」または「デバイス ドライバのアップグレード ウィザード」画面が表示されます。

6 次の操作を行う

- **Windows Meの場合**
  「ドライバの場所を指定する（詳しい知識のある方向け）」の○をクリックして◉にし、「次へ」ボタンをクリックする
- **Windows 98／Windows 2000の場合**
  「次へ」ボタンをクリックする

7 次の項目の○をクリックして◉にし、「次へ」ボタンをクリックする

- **Windows Meの場合**
  「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を表示し、インストールするドライバを選択する」
- **Windows 98の場合**
  「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を作成し、インストールするドライバを選択する」

- **Windows 2000の場合**
  「このデバイスの既知のドライバを表示して、その一覧から選択する」

8 「ディスク使用」ボタンをクリックする

9 次のように入力し、「OK」ボタンをクリックする

- **Windows Me／Windows 98の場合**
  C：¥NXPAD
- **Windows 2000の場合**
  C：¥WIN2K¥NXPAD

10 「モデル」欄から「NXPAD」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする

「NXPAD」が複数表示されている場合は、一番上の「NX PAD」を選択してください。

チェック!! 「ドライバ更新の警告」画面が表示された場合は、「はい」ボタンをクリックしてください。

11 「次へ」ボタンをクリックする

必要なファイルがコピーされます。
この操作以降は、マウスポインタが動かない場合があります。その場合は、キーボードで操作してください。

チェック!! 「デジタル署名が見つかりませんでした」画面が表示された場合は、「はい」ボタンをクリックしてください。

12 次の操作を行う

- **Windows Me／Windows 98の場合**
  「ハードウェア デバイス用に選択したドライバがインストールされました。」と表示されたら「完了」ボタンをクリックし、手順15に進んでください。
- **Windows 2000の場合**
  「デバイス ドライバのアップグレード ウィザードの完了」と表示されたら「完了」ボタンをクリックし、手順13に進んでください。

13 「閉じる」ボタンをクリックする

「システム設定の変更」画面が表示されます。

14 「はい」ボタンをクリックする

Windowsが再起動します。
Windows 2000をお使いの場合は、これで設定は完了です。

15 再起動のメッセージが表示された場合は、「いいえ」ボタンをクリックする

16 「NX PADのプロパティ」または「NX PADプロパティ」画面の「閉じる」ボタンをクリックする

17 「システムのプロパティ」画面の「閉じる」ボタンをクリックする

18 Windowsを再起動する

再起動後、設定が有効になります。

チェック!! 再起動後、ポインタが動かない場合は【Ctrl】を押しながら【Esc】を押して「スタート」メニューを表示させ、Windowsを起動しなおしてください。
項目の変更はカーソル移動キー、項目の選択は【Enter】で行うことができます。

■Windows NT 4.0の場合

1 「コントロールパネル」を開き、「マウス」アイコンをダブルクリックする

「マウスのプロパティ」画面が表示されます。

2 「全般」タブをクリックし、「変更」ボタンをクリックする

「デバイスの選択」画面が表示されます。

3 「ディスク使用」ボタンをクリックする

4 次のように入力し、「OK」ボタンをクリックする

C:¥NT40¥NXPAD

5 「モデル」欄から「NXPAD」を選択し、「OK」ボタンをクリックする

必要なファイルがコピーされます。
「デバイスのインストールの確認」画面が表示された場合は、「はい」ボタンをクリックしてください。

6 「名前」欄に「NX PAD」が表示されたら、「閉じる」ボタンをクリックする

「システム設定の変更」画面が表示されます。

7 「はい」ボタンをクリックする

Windowsが再起動します。

NXパッドの設定をする

WindowsでNXパッドをより使いやすく設定することができます。

1 「コントロールパネル」を開き、「マウス」アイコンをダブルクリックする

「マウスのプロパティ」画面が表示されます。

「マウスのプロパティ」画面では、画面左上の各タブを選択すると、NXパッドの設定を行うことができます。
それぞれの設定について詳しくは、Windowsのヘルプをご覧ください。

ハードディスク

ハードディスクとは、Windowsやアプリケーションなどのソフトウェアや、作成したデータを磁気的に記録して、読み出すための装置です。

ハードディスク使用上の注意

ハードディスクは、非常に精密に作られています。特に、データの読み書き中(アクセスランプの点灯中)には、少しの衝撃が故障の原因となる場合がありますので注意してください。
ハードディスクが故障すると、大切なデータが一瞬にして使えなくなってしまうことがあります。特に、自分で作成した大切なデータなどは、再セットアップしても元どおりにはできません。大切なデータは、フロッピーディスクやCD-R、CD-RWなどの、ハードディスク以外の媒体に定期的にバックアップ(コピー)をとっておくことをおすすめします。

領域の確保とフォーマット

ハードディスクの領域を削除した場合などには、ハードディスクの領域の確保とフォーマットが必要です。

■Windows Me/Windows 98の場合

◎ 領域の確保

1 「MS-DOSプロンプト」画面でFDISKと入力し【Enter】を押す

2 「大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか(Y/N)」と表示されたら「Y」を選んで【Enter】を押す

「FDISKオプション」画面が表示されます。
FAT32ファイルシステムで領域を作成します。より効率よく大容量ハードディスクを利用することができます。
FAT32について詳しくは、「FAT32ファイルシステムの利用」(→p.43)をご覧ください。
Nを入力した場合は、FAT16ファイルシステムで領域を作成します。最大2Gバイトまでの容量をひとつのドライブとして扱えます。

3 【1】を入力し、【Enter】を押す

領域を作成する画面が表示されます。

4 【2】を入力し、【Enter】を押す

「領域のサイズをMバイトか全体に対する割合(%)で入力してください.拡張MS-DOS領域を作ります」と表示されます。

チェック!! 確保される領域は入力した領域サイズより大きくなる場合があります。たとえば、FAT16で2,047Mバイトを取得しようとすると、2,052Mバイトなどの値になり、FAT16で取得できない場合があります。このような場合は、2,045Mバイトなど、2,047Mバイトより小さい値で入力してください。

5 【Enter】を押す

「拡張MS-DOS領域を作成しました.」と表示されます。

6 【Esc】を押す

「論理ドライブのサイズをMバイトか全体に対する割合(%)で入力してください」と表示されます。

7 サイズを入力して【Enter】を押す

「論理MS-DOSドライブを作成しました.ドライブ名は変更または追加されました」と表示されます。

8 拡張MS-DOS領域がなくなるまで手順7を繰り返し、すべての拡張MS-DOS領域を論理ドライブに割り当てる

「拡張MS-DOS領域の使用可能な領域はすべて論理ドライブに割り当てられています」と表示されます。

9 【Esc】を3回押す

「C:¥WINDOWS>」の表示に戻ります。

10 「EXIT」と入力し、【Enter】を押す

Windowsの画面に戻ります。

11 Windowsを再起動する

◎ フォーマット

領域を確保したら、続いてハードディスクをフォーマットします。

チェック!! すでに使用されているドライブをフォーマットすると、そのドライブに保存されていたデータがすべて消えてしまいます。フォーマットする際は、十分注意してください。

1 「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックする

2 新たに領域を確保したドライブをクリックする

3 「ファイル」メニューの「フォーマット」をクリックする

フォーマットの画面が表示されます。

4 「通常のフォーマット」をクリックする

5 「開始」ボタンをクリックする

確認の画面が表示されます。

6 「OK」ボタンをクリックする

フォーマットが始まります。
しばらくすると、フォーマットが終了してフォーマットの結果の画面が表示されます。

7 「閉じる」ボタンをクリックする

スキャンディスクの実行のメッセージとヘルプが表示されます。

参照 **スキャンディスクについて→『活用ガイド ソフトウェア編』の「パソコンのメンテナンスと管理」**

8 「OK」ボタンをクリックする

9 「フォーマット」の画面をクリックする

10 「閉じる」ボタンをクリックする

11 ヘルプの内容にしたがって、スキャンディスクを実行する

複数のドライブをフォーマットする場合は、手順2～11の操作を繰り返してください。

■Windows 2000の場合

ここでは、ハードディスクの拡張パーティションの作成と論理ドライブの作成について説明します。プライマリパーティションの作成方法などについては、「ディスクの管理」のヘルプをご覧ください。

◎ 領域の確保とフォーマット

1 「コントロールパネル」を開き、「管理ツール」アイコンをダブルクリックする

「管理ツール」画面が表示されます。

2 「コンピュータの管理」アイコンをダブルクリックする

「コンピュータの管理」画面が表示されます。

3 画面左側にある「ツリー」の中の「ディスクの管理」をクリックする

表示された画面で、ハードディスクの容量や領域、ファイルシステムを確認してください。

4 画面右下に表示されている「未割り当て」を選んで右クリックする

ハードディスクに未割り当ての部分がない場合は表示されません。すでに使用しているドライブのパーティションの削除などについては、「コンピュータの管理」のヘルプをご覧ください。

5 表示されたメニューから、「パーティションの作成」をクリックする

「パーティションの作成ウィザード」画面が表示されます。

6 「次へ」ボタンをクリックする

7 「拡張パーティション」の○をクリックして◉にし、「次へ」ボタンをクリックする

拡張パーティションとして使用できる最小サイズと最大サイズが表示されます。

8 作成する拡張パーティションのサイズを入力して「次へ」ボタンをクリックする

指定されたサイズのパーティションが作成されます。

9 「完了」ボタンをクリックする

ハードディスクの未割り当て領域がなくなるまで手順4〜9をくりかえし、すべての領域を割り当ててください。割り当てられた領域は、「ディスクの管理」画面では「空き領域」と表示されます。
続いてフォーマットを行います。

10 画面右下に表示されている「空き領域」を選んで右クリックする

チェック!! すでに使用しているドライブをフォーマットすると、そのドライブに保存していたデータがすべて消えてしまいます。フォーマットする際は、十分注意してください。

11 表示されたメニューから、「論理ドライブの作成」をクリックする

「パーティションの作成ウィザード」画面が表示されます。

12 「次へ」ボタンをクリックする

13 「次へ」ボタンをクリックする

論理ドライブとして使用できる最小サイズと最大サイズが表示されます。

14 作成する論理ドライブのサイズを入力し、「次へ」ボタンをクリックする

15 表示されたドライブ文字の割り当てを確認して「次へ」ボタンをクリックする

「パーティションのフォーマット」が表示されます。

16 フォーマットの設定を確認して「次へ」ボタンをクリックする

必要であれば、フォーマットの設定を変更してください。フォーマットがはじまります。

17 「完了」ボタンをクリックする

これで、フォーマットが完了しました。複数のドライブをフォーマットしたい場合は、手順10〜17をくりかえしてください。

チェック!! ・新たにパーティションの作成を行った後、「コンピュータの管理」画面を閉じると「ワトソン博士」のエラーメッセージが表示される場合がありますが、新たなパーティションは使用できます。

・「パーティションの作成ウィザード」の項目を入力し、「完了」ボタンをクリックすると、新しいパーティションの作成後、「ボリュームは開かれているか、または使用中です。要求を完了できません。」というようなメッセージが表示される場合があります。この場合は、以下の手順でパーティションの初期化を行ってください。

①新たに作成したパーティションを右クリックし、「フォーマット」をクリックする
②項目を設定し、「OK」ボタンをクリックする
③「OK」ボタンをクリックする

■Windows NT 4.0の場合

◎ 領域の確保とフォーマット

ディスクアドミニストレータによって、ハードディスクのパーティションと拡張パーティションの論理ドライブの作成、ボリュームのフォーマット、ボリュームラベル付けを行います。

チェック!! プライマリパーティションの作成方法やドライブ文字の割り当てなどについては、ディスクアドミニストレータのヘルプをご覧ください。

1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「管理ツール(共通)」→「ディスクアドミニストレータ」をクリックする

ディスクアドミニストレータが起動します。

2 ディスクの空き領域をクリックする

3 「パーティション」メニューの「拡張パーティションの作成」をクリックする

拡張パーティションとして使用できる最小サイズと最大サイズが表示されます。

4 作成する拡張パーティションのサイズを入力し、「OK」ボタンをクリックする

指定されたサイズのパーティションが作成されます。

5 **確認メッセージが表示された場合は「はい」ボタンをクリックする**

チェック!! **確保される領域は入力した領域サイズよりも大きくなる場合があります。たとえば、FAT16で2,047Mバイトを取得しようとすると、2,052Mバイトなどの値になり、FAT16で取得できない場合があります。このような場合は、2,047Mバイトより小さい値で入力してください。**

6 **作成する拡張パーティションの空き領域をクリックする**

7 **「パーティション」メニューの「作成」をクリックする**

論理ドライブとして使用できる最小サイズと最大サイズが表示されます。

8 **作成する論理ドライブのサイズを入力し、「OK」ボタンをクリックする**

ドライブ文字が割り当てられ、「未フォーマット」と表示されます。

9 **「パーティション」メニューの「今すぐ変更を反映」をクリックする**

「ディスク構成を変更しました。変更結果を保存しますか?」というメッセージが表示されます。

10 **「はい」ボタンをクリックする**

新しいシステム修復ディスクを作成するかどうかを確認するメッセージが表示されます。

11 **「OK」ボタンをクリックする**

12 **新しく作成したパーティションをクリックする**

13 **「ツール」メニューの「フォーマット」をクリックする**

「フォーマット」画面が表示されます。

14 **ファイルシステムを選択してボリュームラベルを入力したら、「開始」ボタンをクリックする**

ディスクのすべてのデータが消去されることを警告するメッセージが表示されます。

15 **「OK」ボタンをクリックする**

「フォーマットが完了しました。」というメッセージが表示されます。

16 「OK」ボタンをクリックする

17 「閉じる」ボタンをクリックする

FAT32ファイルシステムの利用

◎ FAT32を利用するには

FAT32を利用するには、「FDISK」コマンドを使用してFAT32ファイルシステムで領域を作成します。
また、Windows 98では「ドライブコンバータ(FAT32)」を利用することで、FAT16のドライブをFAT32に変換することもできます。「ドライブコンバータ(FAT32)」について詳しくは、Windowsのヘルプをご覧ください。

◆「FDISK」コマンドでFAT32の領域を作成する

1 「MS-DOSプロンプト」画面でFDISKと入力し【Enter】を押す

2 【Y】を押して【Enter】を押す

3 領域を作成する
512Mバイト以上の領域を作成すると、その領域にはFAT32が適用されます。作成した領域が512Mバイトよりも小さい場合には自動的にFAT16が適用されます。

4 「FDISK」を終了し、Windowsを再起動する

5 作成したドライブをフォーマットする

セカンドハードディスクを使う

セカンドハードディスクが添付されているモデルを購入された場合や、別売のセカンドハードディスク(PC-VP-WU13)を購入した場合は、本機のVersaBay IVにセカンドハードディスクを取り付けて、ハードディスクの容量を増やすことができます。セカンドハードディスクを取り付ける場合は、購入時にVersaBay IVに取り付けられている機器と交換する必要があります。機器の交換のしかたについては、PART2の「VersaBay IV」(→p.187)をご覧ください。

◎ セカンドハードディスクの領域の確保とフォーマット

購入時には、セカンドハードディスクはフォーマットされていません。セカンドハードディスクを使用する場合は、領域の確保とフォーマットを行う必要があります。次の手順で領域の確保とフォーマットを行ってください。

◆Windows Me／Windows 98の場合

1 **「領域の確保とフォーマット」の「Windows Me／Windows 98の場合」の「領域の確保」(→p.36)の手順1～2を行う**

2 **【5】を入力し、【Enter】を押す**

3 **領域を確保するハードディスクを選択して【Esc】を押す**

4 **「領域の確保とフォーマット」の「Windows Me／Windows 98の場合」の「領域の確保」(→p.36)の手順3～11を行う**

5 **「領域の確保とフォーマット」の「Windows Me／Windows 98の場合」の「フォーマット」(→p.38)の手順にしたがってフォーマットを行う**

◆Windows 2000の場合

「領域の確保とフォーマット」の「Windows 2000の場合」(→p.39)の手順で領域の確保とフォーマットを行ってください。

◆Windows NT 4.0の場合

「領域の確保とフォーマット」の「Windows NT 4.0の場合」(→p.41)の手順で領域の確保とフォーマットを行ってください。

ハードディスクのメンテナンス

本機には、ハードディスクの障害を検出したり、アクセス速度を保つためのメンテナンスソフトが組み込まれています。
ハードディスクに障害や断片化があった場合、可能な範囲で修復することができます。

参照 **ハードディスクのメンテナンス→『活用ガイド ソフトウェア編』の「パソコンのメンテナンスと管理」**

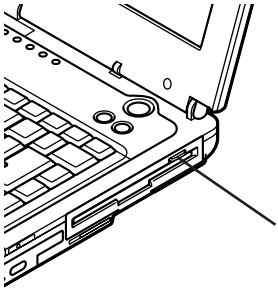
◎ StandbyDisk 2000 Proを利用する(Windows 2000のみ)

Windows 2000をお使いで、StandbyDisk 2000 Proに対応したセカンドハードディスクをお使いの場合は、StandbyDisk 2000 Proを利用することができます。StandbyDisk 2000 Proは2台のハードディスクのうち、一方のハードディスクをバックアップ元とし、もう一方のハードディスクを待機ディスクとして使用することで、稼動中のハードディスクに障害が起きた場合に、待機ディスクからシステムを起動しシステムを復旧することができるアプリケーションです。
StandbyDisk 2000 Proについて詳しくは、『活用ガイド ソフトウェア編』の「パソコンのメンテナンスと管理」をご覧ください。

フロッピーディスクドライブ

本機には3.5インチフロッピーディスクドライブがMultiBayに内蔵されています。セカンドバッテリパックが添付のモデルを購入された場合や、別売のセカンドバッテリパックを購入された場合は、フロッピーディスクドライブを取り外してセカンドバッテリパックを取り付けることができます(→p.192)。

各部の名称と役割



フロッピーディスクイジェクトボタン
セットしたフロッピーディスクを取り出すためのボタンです。

使用できるフロッピーディスクの種類

本機では、次の形式のフロッピーディスクを使うことができます。

ディスクの種類	容量	読み書き	フォーマット	ディスクコピー
フロッピーディスク(2DD)	640KB	×	×	×
	720KB	○	○	○
フロッピーディスク(2HD)	1.2MB	○※1※2	△※1	△※1
	1.44MB	○	○	○

○:使用可能
×:使用不可
△:Windows 2000、Windows NT 4.0でのみ使用可能
※1:Windows 2000で使用するには3モード対応フロッピーディスクドライバのセットアップが必要です。添付の「アプリケーションCD-ROM/マニュアルCD-ROM」の中に入っているSetup.txtをご覧になり、セットアップを行ってください。

Eドライブに CD-ROMをセットした場合

E:¥WIN2K¥SMC3FD¥Setup.txt

※2:Windows Meで使用するには3モード対応フロッピーディスクドライバのセットアップが必要です。添付の「アプリケーションCD-ROM/マニュアルCD-ROM」の中に入っているsetupme.txtをご覧になり、セットアップを行ってください。

Eドライブに CD-ROMをセットした場合

E:¥WIN98¥3MODEFD1¥setupme.txt

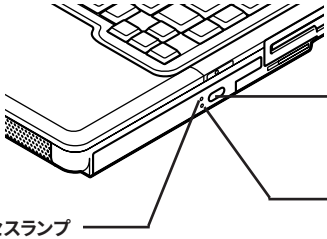
使用上の注意

- 本機では、PC-9800シリーズのパソコンでフォーマットされたフロッピーディスクを使ってシステムを起動することはできません。
- 「ディスクのコピー」のコピー先のフロッピーディスクは、コピー元のフロッピーディスクと同じ容量でフォーマットされたものを使用してください。
- フォーマットしていないフロッピーディスクをマイコンピュータなどで選択すると、フロッピーディスクドライブのアクセスランプが点灯し続けたり、フォーマットしようとするとフォーマット開始までの時間が長くかかる場合があります。これは、フロッピーディスクの種類を判別しているためなので、処理が開始されるまでしばらくお待ちください。
- Windows MeまたはWindows 98では、MS-DOS Ver.6.2以前のFORMATコマンドでフォーマットしたフロッピーディスクを、MS-DOSプロンプトからDISKCOPYコマンドでディスクコピーすることはできません。「マイコンピュータ」の「3.5インチFD」アイコンを右クリックし、メニューから「ディスクのコピー」を実行してください。
- Windows MeまたはWindows 98で、2DDのフロッピーディスクを720KBでフォーマットした場合は、いったんフロッピーディスクを取り出し、もう一度入れなおしてから使用してください。フォーマット後に、フロッピーディスクを入れなおさずにファイルを書き込もうとすると、フォーマットが正常に終了していても、エラーが発生する場合があります。クイックフォーマットされたフロッピーディスクの場合は、この手順は必要ありません。
- フロッピーディスクを書き込み、または読み取り中は、フロッピーディスクアクセスランプ(🖫)が点灯します。アクセスランプ点灯中は、絶対にフロッピーディスクを取り出さないでください。ドライブの故障やデータの不具合の原因となります。

CD-ROMドライブ・CD-R/RWドライブ・CD-R/RW with DVD-ROMドライブ

本機にはCD-ROMドライブ、CD-R/RWドライブ、CD-R/RW with DVD-ROMドライブのいずれかがVersaBay IVに内蔵されています。セカンドハードディスクが添付のモデルを購入された場合や、別売のVersaBay IV用の機器を購入された場合は、あらかじめ取り付けられている機器を取り外してセカンドハードディスクや別売の機器を取り付けることができます(→p.187)。

各部の名称と役割



ボタンやアクセスランプ、非常時ディスク取り出し穴の位置や形状は、モデルによってイラストと多少異なることがあります。

使用できるディスク

	再生		読み込み		書き込み	書き換え
	音楽CD、ビデオCD、フォトCD	DVD VIDEOディスク	CD-ROM、CD-R、CD-RW	DVD-ROM	CD-R、CD-RW	CD-RW
CD-ROMドライブ	○	×	○	×	×	×
CD-R/RWドライブ	○	×	○	×	○	○
CD-R/RW with DVD-ROMドライブ	○	○	○	○	○	○

○:使用可能
×:使用不可

チェック!! DVD VIDEOディスクは、リージョンコード（国別地域番号。日本は2です）によって管理されているため、リージョンコードが2もしくはフリーに設定されているディスクのみ再生することができます。海外で購入したDVD VIDEOディスクについては、特にこの点に注意してください。

使用上の注意

ここではCD-ROMドライブを例に説明しています。CD-R/RWドライブ、CD-R/RW with DVD-ROMドライブをお使いの場合は、「CD-ROMドライブ」をお使いのドライブに読み替えてください。

- CD-ROMドライブ内のレンズには触れないでください。指紋などの汚れによってデータが正しく読み取れなくなるおそれがあります。
- アクセスランプ点灯中は、ディスクを絶対に取り出さないでください。本機の故障の原因となります。
- ラベルが貼ってあるなど、重心バランスの悪いディスクを使用すると、本機の操作中に手に振動を感じることがあります。これは故障の原因となるため、ディスクの盤面にはラベルやテープなどを貼らないでください。
- Windows 98、Windows NT 4.0で「CDプレーヤー」を使用する場合、CD-ROMドライブにディスクをセットしていない状態では、「CDプレーヤー」の「取り出し」ボタンをクリックしてもCD-ROMドライブのトレイは出てきません。トレイを出すためには、CD-ROMドライブのイジェクトボタンを押すか、または、「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックして対象となるCD-ROMドライブのアイコンを右クリックし、「取り出し」メニューを選択してください。

◎ 非常時のディスクの取り出し方

ソフトウェアの暴走など不慮の原因で、CD-ROMドライブのイジェクトボタンを押してもディスクトレイが出てこなくなった場合は、非常時ディスク取り出し穴に太さ1.3 mm程の針金を押し込むと、トレイを手動で引き出すことができます。針金は太めのペーパークリップなどを引き伸ばして代用できます。

チェック!! CD-ROMドライブのイジェクトボタンを押してもディスクトレイが出てこない、といった非常時以外は、非常時ディスク取り出し穴を使って取り出さないようにしてください。

液晶ディスプレイ

本機の液晶ディスプレイの表示を調整する方法や、表示できる解像度と表示色について説明しています。

画面表示を調整する

◎ 表示を調整する

本機では、キーボードを使って輝度や画面の伸縮の調整を行います。輝度は8段階で調整することができます。

機　　能	キー操作	説　　明
画面の伸縮※	【Fn】+【F5】	低解像度時に、ディスプレイの画面を拡大表示する／しないを切り替えます。
輝度を上げる ▲☼	【Fn】+【F8】	キーを押すごとに、液晶ディスプレイの輝度が増加します。
輝度を下げる ▼☼	【Fn】+【F9】	キーを押すごとに、液晶ディスプレイの輝度が低下します。

※：購入時には拡大表示に設定されています。

表示できる解像度と表示色

本機の液晶ディスプレイは、標準で次の解像度と表示色を表示できます。

チェック!! 設定により、マニュアルに記載されていない解像度を選択することができる場合がありますが、動作を保証するものではありません。必ずマニュアルに記載されている解像度で使用してください。

解像度（ドット）	表示色	本機の液晶ディスプレイのみに表示	別売のCRTディスプレイのみに表示	本機の液晶ディスプレイと別売のCRTディスプレイの同時表示※1	TVのみ
640×480	26万色中256色	●	○	●	○
	65,536色	●	○	●	○
	1,677万色※2	●	○	●	○
800×600	26万色中256色	●	○	●	○
	65,536色	●	○	●	○
	1,677万色※2	●	○	●	○
1,024×768	26万色中256色	○	○	○	○
	65,536色※3	○	○	○	○
	1,677万色※2	○	○	○	○
1,280×1,024	26万色中256色	△	○	△	△
	65,536色	△	○	△	△
	1,677万色※2	△	○	△	△
1,600×1,200	26万色中256色	△	○	△	△
	65,536色	△	○	△	△
	1,677万色※2	△	○	△	△

●：【Fn】を押しながら【F5】を押して拡大／縮小切り替え可能（縮小画面の場合、画面のまわりが黒く表示される）
○：フルスクリーン表示可能
△：バーチャルスクリーンで表示可能（Windows Me、Windows 98のみ）
※1：別売のCRTディスプレイ未接続時は本機の液晶ディスプレイのみに表示される
※2：本機の液晶ディスプレイでは、グラフィックアクセラレータのディザリング機能により実現
※3：購入時の設定

320×200ドット、320×240ドット解像度対応のアプリケーションなどは、本機では画面のまわりが黒く表示されます。

解像度と表示色を変更する

ディスプレイの解像度と表示色はコントロールパネルで設定します。

1 「コントロールパネル」を開き、「画面」アイコンをダブルクリックする

「画面のプロパティ」画面が表示されます。

2 次の操作を行う

- **Windows Me／Windows 98／Windows 2000の場合**
  「設定」タブをクリックする
- **Windows NT4.0の場合**
  「ディスプレイの設定」タブをクリックする

3 解像度または表示色を変更する

解像度の変更をする場合

「画面の領域」欄または「デスクトップの領域」欄で、つまみを「大」の方向へドラッグすると高解像度に、「小」の方向へドラッグすると低解像度になります。

チェック!! 設定により、マニュアルに記載されていない解像度を選択することができる場合がありますが、動作を保証するものではありません。必ずマニュアルに記載されている解像度で使用してください。

表示色の変更をする場合

「色」「画面の色」「カラーパレット」欄のいずれかで ▼ をクリックし、選択一覧から変更します。この選択一覧には、使用している液晶ディスプレイとディスプレイアダプタが対応しているカラーパレットが一覧表示されます。

4 設定が終了したら、「OK」ボタンをクリックする

このあとは、画面の指示にしたがって操作してください。

バーチャルスクリーン(Windows Me、Windows 98のみ)

バーチャルスクリーンとは、実際に表示可能な解像度よりも大きい解像度を使用できるようにするための仮想画面のことです。バーチャルスクリーンでは、仮想画面全体のサイズが実際のディスプレイの画面より大きくなるので、ディスプレイには常に仮想画面の一部が表示されている状態となります。画面をスクロールすると、ディスプレイの画面上で見えていない部分を表示することができます。

> バーチャルスクリーンでは、「スタート」ボタンがディスプレイの画面上から外れ、表示されないことがあります。ディスプレイの画面上の見えていない部分を見るには、ポインタをディスプレイの画面の端に移動させます。ポインタの移動した方向に画面がスクロールし、見えなかった部分が表示されます。

◎ バーチャルスクリーンモードの設定方法

バーチャルスクリーンモードを使用する場合には、次の設定が必要です。

1 「コントロールパネル」を開き、「画面」アイコンをダブルクリックする

「画面のプロパティ」画面が表示されます。

2 「設定」タブをクリックし、「詳細」ボタンをクリックする

3 「モニタ」タブをクリックし、「変更」ボタンをクリックする

「デバイス ドライバの更新ウィザード」画面が表示されます。

4 次の操作を行う

- **Windows Meの場合**
  「ドライバの場所を指定する(詳しい知識のある方向け)」の○をクリックして◉にし、「次へ」ボタンをクリックする
- **Windows 98の場合**
  「次へ」ボタンをクリックする

5 **次の項目の○をクリックして◉にし、「次へ」ボタンをクリックする**

- **Windows Meの場合**
  「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を表示し、インストールするドライバを選択する」
- **Windows 98の場合**
  「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を作成し、インストールするドライバを選択する」

6 **「すべてのハードウェアを表示」の○をクリックして◉にする**

7 **「製造元」欄で「(標準モニタの種類)」を選択し、「モデル」欄の「Super VGA 1600×1200」をクリックし、「次へ」ボタンをクリックする**

8 **「次へ」ボタンをクリックする**

9 **「完了」ボタンをクリックする**

10 **「閉じる」ボタンをクリックする**

11 **「OK」ボタンをクリックする**
これで設定が完了しました。

この後は、画面の指示にしたがって操作してください。上記の設定をした後は、「設定」タブで、次の解像度を設定できるようになります。
640×480ドット／800×600ドット／1,024×768ドット／1,280×1,024ドット／1,600×1,200ドット

デュアルディスプレイ機能(Windows Me、Windows 98のみ)

デュアルディスプレイ(Dual Display)とは、CRTディスプレイなどの外部ディスプレイを接続時に、本体の液晶ディスプレイと外部ディスプレイを使ってひとつの画面として表示できる機能です。液晶ディスプレイと外部ディスプレイを続き画面として利用できるので、表示できる範囲が広くなります。

> デュアルディスプレイ機能は、同じ画面を2つのディスプレイに表示する機能とは異なります。

チェック!! 画面の解像度によっては、デュアルディスプレイ表示にならない場合があります。

参照 別売のCRTディスプレイなどを接続するには→「外部ディスプレイ」(p.155)

◎ デュアルディスプレイ機能を使う準備をする

画面を表示するディスプレイのオン／オフ、プライマリ／セカンダリを次の手順にしたがって設定します。

1 別売のディスプレイを接続し、電源を入れる(→p.156)

2 本機の電源を入れる

3 「コントロールパネル」を開き、「画面」アイコンをダブルクリックする
「画面のプロパティ」画面が表示されます。

4 「設定」タブをクリックし、「詳細」ボタンをクリックする

5 「ATI画面」タブをクリックする
「モニタ」「パネル」「テレビ」の接続状態が表示されます。

6 「モニタ」の左上のボタンをクリックする
接続したモニタへの表示がオンになります。

チェック!! 表示をすべてオフにすることはできません。どれかひとつはオンの状態になっています。

7 **「モニタ」「パネル」の下のボタンをクリックする**

「プライマリ」ディスプレイ、「セカンダリ」ディスプレイが指定されます。

チェック!! すべてをセカンダリに設定することはできません。

接続が認識され、ディスプレイの表示がオンに設定されると、解像度とリフレッシュレート(水平同期周波数)が表示されます。

8 **「OK」ボタンをクリックする**

9 **「OK」ボタンをクリックする**

◎ デュアルディスプレイ機能を使う

1 **「コントロールパネル」を開き、「画面」アイコンをダブルクリックする**

「画面のプロパティ」画面が表示されます。

2 **「設定」タブをクリックする**

3 **「2」と表示されたディスプレイのイラストをクリックする**

モニタの使用を確認するメッセージが表示されます。

4 **「はい」ボタンをクリックする**

5 **「適用」ボタンをクリックする**

これでデュアルディスプレイ機能を使うことができます。

◎ デュアルディスプレイ機能を解除する

1 **「デュアルディスプレイ機能を使う」の手順1〜2を行う**

2 **「2」と表示されたディスプレイのイラストを右クリックする**

3 **表示されたメニューから「使用可能」をクリックする**

4 **「適用」ボタンをクリックする**

これでデュアルディスプレイ機能は解除されました。

バッテリ

本機は、ACアダプタを使用せずに、添付または別売のバッテリパックだけで駆動することができます。

バッテリで本機を使う場合の注意

チェック!!

- **バッテリが充分に充電されている場合は、特に必要でないかぎり、バッテリパックの取り付けや取り外しをしないでください。 故障の原因となります。**
- **充電を行う際にはできるだけフル充電するようにしてください。バッテリ残量が少ない場合などに少量の充放電を何度も繰り返して本機を使用すると、バッテリ残量に誤差が生じることがあります。**
- **ハードディスクやフロッピーディスクなどへの読み書き中にバッテリ残量がなくなり、電源が切れてしまうと、作成中のデータが失われたり、ハードディスクやフロッピーディスクなどのデータが失われたり、壊れたりすることがあります。**

◎ バッテリパックを長持ちさせるには

次のような点に気を付けると、バッテリパックを長持ちさせることができます。

- バッテリの残量をできるだけなくしてから充電する
- 充電はフル充電(バッテリ充電ランプが消灯)になるまで中断しない
- 定期的にバッテリリフレッシュを実行する(→p.60)
- 本機を1カ月以上使わない場合は、バッテリパックを取り外して、涼しいところに保管する

◎ バッテリの上手な使い方

- バッテリだけで本機を長時間使用する場合は、本機の省電力機能を使用してください。

参照 **省電力機能について→このPARTの「省電力機能」(p.66, 81)**

- バッテリは、自然放電しています。 本機を長期間使用しない場合でも、2〜3カ月に一度は充電することをおすすめします。

◎ バッテリ駆動中にバッテリ残量が少なくなった場合は

バッテリ残量が少なくなると、電源ランプ(⏻)が黄色に点灯します。この場合は、状況に応じて次の操作を行ってください。

◆ACコンセントから電源を供給できる場合

ACアダプタを接続してACコンセントから電源を供給してください。ACコンセントから電源を供給すると、バッテリ充電ランプ(▭)が点灯し、バッテリの充電がはじまります。また、バッテリを充電しながら本機を使用することもできます。

◆ACコンセントが使えない場合

使用中のソフトウェアを終了して、本機の電源を切ってください。

上記の操作を行わずにそのままにしておくと、次のような状態になります。

- **Windows Me、Windows 98、Windows 2000の場合**
  「コントロールパネル」の「電源の管理」または「電源オプション」で設定してある状態になります。
- **Windows NT 4.0の場合**
  再度バッテリ残量が少ないというメッセージが表示され、しばらくすると「PowerProfiler」で設定してある状態になります。

◎ バッテリが少なくなった場合の動作の設定をする

バッテリ残量が少なくなったりバッテリ残量がなくなった場合に、本機をどのような動作や状態にするかを設定することができます。設定は「コントロールパネル」の「電源の管理」アイコンまたは「電源オプション」アイコンをダブルクリックすると表示される画面の「アラーム」タブで行うことができます。

充電のしかた

チェック!!

- **バッテリの充電中は、バッテリパックを本機から取り外さないでください。ショートや接触不良の原因になります。**
- **購入直後や長時間放置したバッテリでは、バッテリ駆動ができないことや動作時間が短くなること、バッテリ残量が正しく表示されないことなどがあります。必ずフル充電してから使用してください。**

◎ バッテリの充電のしかた

本機にバッテリパックを取り付けてACアダプタをACコンセントに接続すると、自動的にバッテリの充電が始まります。
電源を入れて本機を使用している場合も充電されます。

> 充電できる電池容量は、周囲の温度によって変わります。また、高温になると充電が中断されることがありますので、18～28℃での充電をおすすめします。

参照 **バッテリの充電時間について→PART4の「機能一覧」(p.226)**

◎ 充電状態を表示ランプで確認する

バッテリの充電状態を、バッテリ充電ランプ( )で確認することができます(→p.20)。

参照 **バッテリの充電ランプについて→PART1の「表示ランプ」(p.19)**

バッテリ残量の確認

バッテリ残量は、インジケータ領域(タスクトレイ)の や、コントロールパネルで確認することができます。

チェック!! フル充電されている状態では、バッテリ残量表示に多少の誤差が生じる場合があります。

> ACコンセントから電源を供給中は、 は に変わります。Windows NT 4.0の場合は、 は に変わります。

◎ インジケータ領域(タスクトレイ)で確認する

1 インジケータ領域(タスクトレイ)にある の上にマウスポインタを合わせる

バッテリ残量が表示されます。

◎ インジケータ領域(タスクトレイ)で詳細な情報を確認する

1 インジケータ領域(タスクトレイ)の をダブルクリックする

バッテリ残量やバッテリに関する詳しい情報が表示されます。

◎ 電源のプロパティで詳細な情報を確認する

◆Windows Me／Windows 98／Windows 2000の場合

1 「コントロールパネル」を開き、次のアイコンをダブルクリックする

- **Windows Me／Windows 98の場合**
  「電源の管理」アイコン
- **Windows 2000の場合**
  「電源オプション」アイコン

「電源の管理のプロパティ」または「電源オプションのプロパティ」画面が表示されます。

2 「電源メーター」タブをクリックする

◆Windows NT 4.0の場合

1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「PowerProfiler」をクリックする

「PowerProfiler」画面が表示されます。

2 「バッテリ」タブをクリックする

バッテリリフレッシュ

バッテリリフレッシュは、一時的に低下したバッテリの性能を回復させる場合に行います。次のような場合には、バッテリリフレッシュを実行してください。

- **バッテリでの駆動時間が短くなった**
  バッテリを完全に使い切らない状態で充電を繰り返していると、バッテリの充電可能容量が目減りして、駆動時間が短くなる場合があります。これを「バッテリのメモリ効果」と呼びます。
- **購入直後や長期間、バッテリを使用しなかったため、バッテリの性能が一時的に低下した**
- **バッテリの残量表示に誤差が生じている**
  バッテリの充電が完了し、バッテリ充電ランプ（▭）が消えてしばらくしても、バッテリの残量表示が95%以上にならない場合は、バッテリの残量表示に誤差が生じていると考えられます。

◎ バッテリリフレッシュの実行

1 **本機を使用中の場合は、本機の電源を切る**

2 **バッテリパックを取り付けていない場合は、バッテリパックを本体に取り付ける**

3 **パソコンにACアダプタを接続していない場合は、ACアダプタを接続し、電源コードをACコンセントに接続する**

4 **バッテリ充電ランプが点滅している場合は、一度バッテリパックを本体から外して、再度取り付ける**

5 **バッテリをフル充電(バッテリ充電ランプが消灯した状態)まで充電する**

6 **BIOSセットアップメニューを起動する(→p.205)**

7 **電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタを本体から取り外す**

8 **「終了(Exit)」メニューの「バッテリリフレッシュ(Battery Refresh)」を選択し、【Enter】を押す**

9 **「実行しますか?(Refresh your battery now?)」と表示されたら、「はい(Yes)」を選択し【Enter】を押す**

次のような画面が表示されます。

```
Refresh battery program
Press Y to start refresh, N to exit
<ESC> to shutdown system
```

10 【Y】を押す

次のような画面が表示され、バッテリリフレッシュが始まります。

チェック!!

- **バッテリリフレッシュ中は、液晶ディスプレイを開いたままにしてください。**
- **バッテリリフレッシュの所要時間の目安は、ニッケル水素バッテリで約100分、リチウムイオンバッテリで約150分、セカンドバッテリパックで約130分です。バッテリリフレッシュの所要時間は、使用環境により異なる場合があります。**

バッテリリフレッシュが完了し、バッテリ内の電力がなくなると自動的に本機の電源が切れますので、本機の電源が切れるまでお待ちください。

◆ バッテリリフレッシュを中断する

バッテリリフレッシュを中断する場合は、次の手順で行ってください。

1 【Ctrl】+【Alt】+【Del】を押す

Windowsが再起動します。

電源スイッチを4秒以上押し続けてもバッテリリフレッシュを中断することができます。この場合、本機の電源が切れます。

バッテリパックの交換

◎ 交換の目安

フル充電(バッテリを充電してバッテリ充電ランプが消灯した状態)にしても使用できる時間が短くなったら、バッテリリフレッシュ(→p.60)を行ってください。
それでも使用できる時間が回復しない場合は、新しいバッテリパックを購入して交換してください。

本機に取り付けられる交換用バッテリパックは次の2種類です。

- **PC-VP-WP21　　バッテリパック(ニッケル水素)**
- **PC-VP-WP22　　バッテリパック(リチウムイオン)**

リチウムイオンバッテリパックを取り付けると、ニッケル水素バッテリパックを取り付けた場合よりも、バッテリ駆動時間が110%程度長くなります。

バッテリスロットのバッテリパックと併用できるセカンドバッテリパックに次のものがあります。

・PC-VP-WP33　セカンドバッテリパック(リチウムイオン)
セカンドバッテリパックは、本機のMultiBayに取り付けます(→p.192)。

チェック!!
- **特に必要でない限り、バッテリパックの取り付けや取り外しをしないでください。故障の原因になります。**
- **バッテリパックは消耗品です。放充電をくりかえすと、充電能力が低下します。**

◎ バッテリパックの交換のしかた

⚠警告

感電注意

●雷が鳴りだしたら、本機や電源コードに触れないでください。また、機器の接続や取り外しを行わないでください。 落雷による感電のおそれがあります。

破裂注意

毒物注意

● 使用を終えたバッテリパックを分解したり、火気に投じることは危険です。絶対にしないでください。破裂したり、液漏れしたりすることがあります。

⚠注意

感電注意

●濡れた手で電源コードを抜き差ししないでください。感電の原因となります。

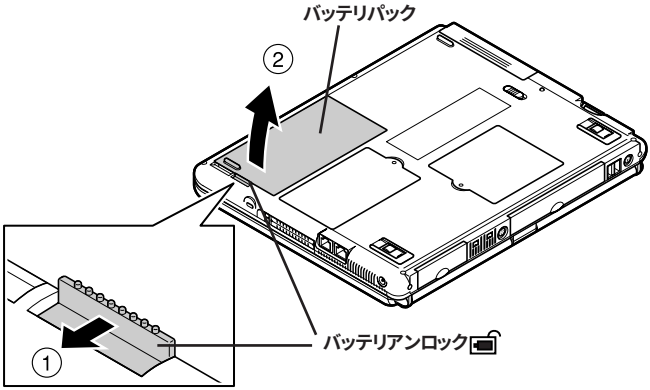
チェック!!
- **バッテリスロットの端子部分には絶対に触れないでください。 接触不良の原因となります。**
- **電源が入っている場合やスタンバイ状態(サスペンド)中にバッテリパックを交換すると、作業中のデータが失われます。 電源ランプ(⏻)が点滅している場合は、一度スタンバイ状態(サスペンド)から復帰し、作業中のデータを保存してからWindowsを終了し、本機の電源を切ってください。**

1 **本機を使用中の場合は、本機の電源を切る**

2 **電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタを本機から取り外す**

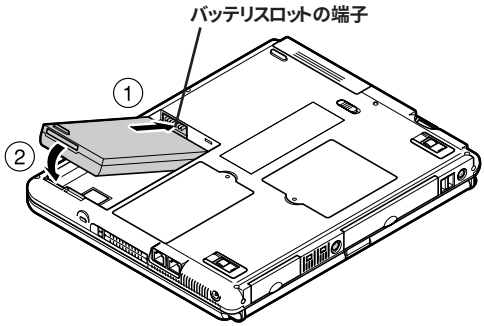
3 **液晶ディスプレイを閉じて、本機を裏返す**

4 **バッテリアンロック(🔓)を矢印の方向にスライドさせたまま、バッテリパックを取り外す**



5 **新しいバッテリパックを取り付ける**

バッテリパックの端子をバッテリスロットの端子の位置に合わせ、カチッと音がするまでしっかり取り付けてください。



バッテリ容量を増やす

セカンドバッテリパックが添付のモデルを購入された場合や、別売のセカンドバッテリパック(PC-VP-WP33)を購入された場合は、本機のMultiBayにセカンドバッテリパックを取り付けて、バッテリ容量を増やすことができます。

◎ セカンドバッテリパック

セカンドバッテリパックは本体のMultiBayに取り付けるバッテリパックです。MultiBayにあらかじめ取り付けられているフロッピーディスクドライブを取り外してセカンドバッテリパックを取り付けます。
セカンドバッテリパックは、バッテリスロットに取り付けたバッテリパックと併用できるので、バッテリ容量を増やしたい場合に便利です。

参照 **セカンドバッテリパックの取り付け方→PART2の「MultiBay」(p.192)**

省電力機能
(Windows Me／Windows 98／Windows 2000の場合)

省電力機能とは

省電力機能とは、CPUやハードディスク、ディスプレイといった、パソコンの主要な部分への電力供給を停止することで、本体の消費電力を抑える機能です。また、作業を一時的に中断したい場合や、中断した作業をすぐに再開したい場合にも便利な機能です。

◎ 本機の省電力機能

本機の省電力機能には、「スタンバイ状態(サスペンド)」「休止状態(ハイバネーション)」「Intel® SpeedStep™テクノロジ」があります。「スタンバイ状態」と「休止状態」を合わせて「スリープ状態」と呼ぶこともあります。
省電力機能の設定は、Windows Me／Windows 98の場合は「コントロールパネル」の「電源の管理」で行います。Windows 2000の場合は「コントロールパネル」の「電源オプション」で行います。

◆ スタンバイ状態(サスペンド)

作業中のデータを一時的にメモリに保存し、消費電力を抑える機能です。スタンバイ状態のことを「サスペンド」と呼ぶこともあります。データはメモリに保存されているため、すぐに元の状態に戻すことができます。元の状態に戻すことを「復帰(レジューム)」と呼びます。

参照 スタンバイ状態にする→「スタンバイ状態(サスペンド)にする」(p.69)

◆ 休止状態(ハイバネーション)

作業中のデータをハードディスクに保存し、電源を切る機能です。休止状態のことを「ハイバネーション」と呼ぶこともあります。普通に電源を切るのとは異なり、次に電源を入れるときに、Windowsを起動する操作をせずに、すぐに元の状態に戻すことができます。元の状態に戻すことを「復帰(レジューム)」と呼びます。
データを保持するための電力を消費しないので、長時間作業を中断する場合などに便利です。

参照 休止状態にする→「休止状態(ハイバネーション)にする」(p.70)

◆ Intel® SpeedStep™テクノロジ

電源の種類やCPUの動作負荷によって、動作性能を切り替えることができます。

参照 **Intel® SpeedStep™テクノロジの設定をする→「Intel® SpeedStep™テクノロジ」(p.79)**

省電力機能使用上の注意

◎ スタンバイ状態または休止状態を利用できないとき

次のような場合には、スタンバイ状態または休止状態にしないでください。本機が正常に動かなくなったり、正しく復帰できなくなることがあります。

- プリンタへ出力中
- Windows Me／Windows 98で赤外線通信をしている(赤外線通信アプリケーションなどを実行中)
- 通信用アプリケーションを実行中
- 電話回線を使って通信中
- 音声または動画を再生中
- ハードディスク、CD-ROM、フロッピーディスクなどにアクセス中
- 「システムのプロパティ」画面を表示中
- Windowsの起動／終了処理中
- スタンバイ状態または休止状態に対応していないアプリケーションを使用中
- スタンバイ状態または休止状態に対応していないPCカード、USB対応機器、IEEE1394対応機器を使用中

◎ スタンバイ状態または休止状態を使用する場合の注意

スタンバイ状態または休止状態にする場合は、次のことに注意してください。

- スタンバイ状態では、ネットワーク機能がいったん停止します。ネットワークを使用するアプリケーションによっては、スタンバイ状態になったときにデータが失われることがあります。ネットワークを使用するアプリケーションを使う場合には、システム管理者に確認のうえ、スタンバイ状態を使用してください。
- バッテリのみで使用する場合は、あらかじめバッテリの残量を確認しておいてください。また、バッテリ残量が少なくなってきた場合の本機の動作について設定しておくこともできます(→p.58)。

・スタンバイ状態または休止状態への移行中は、各種ディスクやPCカードの入れ替えなどを行わないでください。データが正しく保存されないことがあります。
・スタンバイ状態または休止状態中に、PCカードを入れ替えるなどの機器構成の変更をすると、スタンバイ状態から正しく復帰できなくなることがあります。
・SCSI PCカードを使用している場合、SCSI PCカードと接続されている機器の組み合わせによっては、スタンバイ状態または休止状態から正しく復帰できない場合があります。このような場合は、スタンバイ状態または休止状態にしないでください。
・Windows Me／Windows 98で、「MS-DOSプロンプト」使用時にもディスプレイの省電力機能を使用する場合には、スクリーンセーバー機能もあわせて使用してください。
・Windows Me／Windows 98の場合、ATAカードをセットした状態では、スタンバイ状態または休止状態になるまでに時間がかかることがあります。
・Windows Meの場合、「コントロールパネル」を開き、「画面」アイコンをダブルクリックすると表示される「画面のプロパティ」の「Web」タブで、「Active DesktopにWebコンテンツを表示」が☑になっていると、自動的にスタンバイ状態または休止状態にできない場合があります。この場合は、「Active DesktopにWebコンテンツを表示」の☑をクリックして□に設定してください。
・Windows 98の場合、「スタート」ボタン→「設定」→「アクティブデスクトップ」の「Webページで表示」にチェックマークが入っていると、自動的にスタンバイ状態または休止状態にできない場合があります。この場合は、「Webページで表示」のチェックマークをはずしてください。
・本機にフォトCDをセットしたままスタンバイ状態または休止状態にすると、復帰に時間がかかることがあります。
・Windows Me／Windows 2000で、フロッピーディスクやCD-ROMをセットしたまま休止状態から復帰すると、正しく復帰できずにフロッピーディスクやCD-ROMから起動してしまうことがあります。休止状態にする場合は、フロッピーディスクやCD-ROMを取り出してから休止状態にしてください。また、フロッピーディスクを使用している場合は、必要なファイルを保存してからフロッピーディスクを取り出してください。

◎ スタンバイ状態または休止状態から復帰する場合の注意

スタンバイ状態または休止状態から復帰する場合は、次のことに注意してください。

・スタンバイ状態または休止状態にしてからすぐに復帰する場合は、本機に負担がかからないよう、スタンバイ状態または休止状態になった後、約5秒以上たってから操作してください。
・スタンバイ状態または休止状態中にPCカードの入れ替えや周辺機器の取り付け／取り外しなどの機器構成の変更をすると、正常に復帰できなくなることがあります。
・タイマ、LAN、FAXモデムの自動操作でのスタンバイ状態からの復帰を行った場合、本機はスタンバイ状態から復帰していても液晶ディスプレイに何も表示されない状態になります。この場合はNXパッドを操作するかキーボードのキーを押すことによって液晶ディスプレイに表示できます。
・Windows 2000でスタンバイ状態から復帰後、モデムについての「デバイスの取り外しの警告」画面が表示されることがあります。その場合は「OK」ボタンをクリックしてください。警告が発生したデバイスは、そのまま使用できます。

スタンバイ状態（サスペンド）にする

購入時の状態では、次のいずれかの方法でスタンバイ状態にすることができます。スタンバイ状態になると、電源ランプ（⏻）が緑色に点滅します。

◆Windowsの終了メニューで「スタンバイ」を選択し、スタンバイ状態にする

・Windows Me／Windows 98の場合

「スタート」ボタン→「Windowsの終了」で「スタンバイ」を選択し、「OK」ボタンをクリックする

・Windows 2000の場合

「スタート」ボタン→「シャットダウン」で「スタンバイ」を選択し、「OK」ボタンをクリックする

◆バッテリ駆動時、キーボードやNXパッドからの入力がなくなってから一定時間経過後、自動的にスタンバイ状態にする

◆液晶ディスプレイを閉じる

ほかにも、設定を行うことにより、次の方法でスタンバイ状態にできます。

◆ 電源スイッチを押す

電源スイッチを押してスタンバイ状態にするには設定が必要です。「省電力機能を設定する」の「液晶ディスプレイや電源スイッチで行う省電力機能の設定」(→p.73)の手順で設定を行ってください。

休止状態(ハイバネーション)にする

◎ 休止状態にする(Windows Meの場合)

購入時の状態では、次のいずれかの方法で休止状態にすることができます。休止状態になると、電源ランプ(⏻)が消灯し、本機の電源が切れます。

◆「スタート」ボタン→「Windowsの終了」で「休止状態」を選択し、「OK」ボタンをクリックする

◆ バッテリ駆動時、キーボードやNXパッドからの入力がなくなってから一定時間経過後、自動的に休止状態にする

ほかにも、設定を行うことにより、次の方法で休止状態にすることができます。

◆ 液晶ディスプレイを閉じる

◆ 電源スイッチを押す

液晶ディスプレイを閉じたり、電源スイッチを使って休止状態にできるようにするには、「液晶ディスプレイや電源スイッチで行う省電力機能の設定」(→p.73)の手順で設定を行ってください。

◎ 休止状態にする(Windows 98の場合)

購入時の状態では休止状態の機能は利用できませんが、設定を行うことにより次の方法で休止状態にすることができます。

参照 **休止状態を利用できるようにする→「液晶ディスプレイや電源スイッチで行う省電力機能の設定」(p.73)**

休止状態になると、電源ランプ(⏻)が消灯し、本機の電源が切れます。

◆ 電源スイッチを押す

「Suspend to Disk」の表示とともに、作業状況を示す棒グラフが表示されます。

◆ 液晶ディスプレイを閉じる

◎ 休止状態にする(Windows 2000の場合)

購入時の状態では、次の方法で休止状態にすることができます。
休止状態になると、電源ランプ(⏻)が消灯し、本機の電源が切れます。

◆「スタート」ボタン→「シャットダウン」で「休止状態」を選択し、「OK」ボタンをクリックする

「休止中...」の表示とともに、作業状況を示す棒グラフが表示されます。

ほかにも、設定を行うことにより次の方法で休止状態にすることもできます。

◆ 液晶ディスプレイを閉じる

◆ 電源スイッチを押す

液晶ディスプレイを閉じたり、電源スイッチを使って休止状態にするには、「液晶ディスプレイや電源スイッチで行う省電力機能の設定」(→p.73)の手順で設定を行ってください。

スタンバイ状態または休止状態から復帰(レジューム)する

スタンバイ状態や休止状態から元の状態に戻すことを「復帰」または「レジューム」といいます。

◎ スタンバイ状態から復帰する

スタンバイ状態からの復帰は次の方法で行うことができます。

◆ 電源スイッチを押す

スタンバイ状態にする前の元の状態が表示されます。

> 液晶ディスプレイを閉じてスタンバイ状態にした場合、液晶ディスプレイを開けることで復帰することができます。また、タスクスケジューラで時刻を指定してスタンバイ状態から復帰することもできます。タスクスケジューラについて詳しくはWindowsのヘルプをご覧ください。

> Windows 2000でログオンパスワードを入力する画面が表示された場合は、パスワードを入力してください。

◎ 休止状態から復帰する

休止状態からの復帰は次の方法で行います。

◆ 電源スイッチを押す

復帰(レジューム)中を表すメッセージと作業状況を示す棒グラフが表示されます。
復帰が完了すると、元の状態(休止状態に入る前)の画面が表示されます。

> Windows 2000でログオンパスワードを入力する画面が表示された場合は、パスワードを入力してください。

省電力機能の設定をする

省電力機能の設定は、Windows Me/Windows 98の場合は「コントロールパネル」の「電源の管理」で行います。Windows 2000の場合は「コントロールパネル」の「電源オプション」で行います。

チェック!! BIOSセットアップメニューでも省電力機能の設定項目がありますが、BIOSセットアップメニューでの設定は無効になります。

「電源の管理」や「電源オプション」では、省電力機能を実行するときの操作方法や実行するまでの時間を変更したり、ACアダプタ駆動時にも省電力機能が働くように設定できます。また、あらかじめ設定されている電源設定モードから選択することもできます。

◎ 液晶ディスプレイや電源スイッチで行う省電力機能の設定

液晶ディスプレイを閉じたり、電源スイッチを操作したときに、スタンバイ状態または休止状態にする場合や、Windows 98で休止状態を利用する場合は、次の設定を行ってください。

1 「コントロールパネル」を開き、次のアイコンをダブルクリックする

- **Windows Me／Windows 98の場合**
  「電源の管理」アイコン
- **Windows 2000の場合**
  「電源オプション」アイコン

2 次の操作を行う

- **休止状態を利用するための設定を行う場合**
  「休止状態」タブをクリックして、手順3に進んでください。
- **スタンバイ状態を利用するための設定を行う場合**
  手順4に進んでください。

3 「休止状態をサポートする」が☑になっていることを確認する

4 次のタブをクリックする

- **Windows Meの場合**
  「詳細設定」タブ
- **Windows 98／Windows 2000の場合**
  「詳細」タブ

5 「電源ボタン」欄で、設定したい動作と機能を選ぶ

- **電源スイッチを押して行う場合**
  「コンピュータの電源ボタンを押したとき」で「スタンバイ」または「休止状態」を選択する

- **液晶ディスプレイを閉じて行う場合**
  「ポータブル コンピュータを閉じたとき」で「スタンバイ」または「休止状態」を選択する

6 「適用」ボタンをクリックして、「OK」ボタンをクリックする

◎ 電源設定のモードを選択する

1 「コントロールパネル」を開き、次のアイコンをダブルクリックする

- **Windows Me／Windows 98の場合**
  「電源の管理」アイコン
- **Windows 2000の場合**
  「電源オプション」アイコン

「電源の管理のプロパティ」または「電源オプションのプロパティ」画面が表示されます。

2 「電源設定」タブをクリックする

3 「電源設定」欄でモードを選択する

- **Windows Meの場合**
  購入時には「LaVie/VersaPro」に設定されています。
- **Windows 98の場合**
  購入時には「常にオン」に設定されています。
- **Windows 2000の場合**
  購入時には「ポータブル／ラップトップ」に設定されています。

4 「適用」ボタンをクリックして、「OK」ボタンをクリックする

画面の下段の「＊＊の電源の設定」の「＊＊」には、上段の「電源設定」欄で選んだモード名が表示され、それぞれの項目欄には、モードの設定時間が表示されます。また、「電源設定」欄で新しいモードを作成することもできます。

◎ 時間を個別に設定する

1 「電源設定のモードを選択する」(→p.74)の手順1〜2を行う

2 画面の下段でそれぞれの時間を設定する

項目	説明
モニタの電源を切る	入力が何も行われないまま指定した時間が経過すると、モニタの電源を切ります。
ハード ディスクの電源を切る	指定した時間、ハードディスクへのアクセスがないと、ハードディスクの電源を切ります。
システム スタンバイ	指定した時間何の入力もなく、ハードディスクへのアクセスがないと、パソコンがスタンバイ状態になり、消費電力を抑えます。
システム休止状態※	指定した時間何の入力もなく、またハードディスクへのアクセスがないと、パソコンが休止状態になり、電源が切れます。

※:Windows Me/Windows 2000のみ

3 「適用」ボタンをクリックして、「OK」ボタンをクリックする

◆Windows 98で時間を設定する場合の注意

「システム スタンバイ」の設定時間を「モニタの電源を切る」の設定時間よりも後にした場合、「システム スタンバイ」が実行されるのは、「モニタの電源を切る」が実行されてからの時間になります。
「モニタの電源を切る」を「15分後」、「システム スタンバイ」を「20分後」に設定した場合、実際に「システム スタンバイ」が実行されるのは、モニタの電源が切れてから、さらに20分経過した35分後となります。

・入力がなくなってから「システム スタンバイ」を20分後に設定したい場合

例1:「システム スタンバイ」→15分後
「モニタの電源を切る」→5分後

例2:「システム スタンバイ」→20分後
「モニタの電源を切る」→なし

◎ 新しいモードを作成する

パソコンの利用状態に合わせて、モードを新たに登録することができます。

1 **「電源設定のモードを選択する」(→p.74)の手順1〜2を行う**

2 **画面の下段でそれぞれの時間を設定する**

3 **「名前を付けて保存」ボタンをクリックする**

4 **任意の保存名を入力し、「OK」ボタンをクリックする**
これで、新しいモードが登録されました。

5 **「適用」ボタンをクリックして、「OK」ボタンをクリックする**

作成したモードは「電源設定」欄で選択できるようになります。

休止状態の設定の解除と再設定(Windows 98のみ)

休止状態中は、元の状態をハードディスクにファイルとして保存しています。このファイルのことを「ハイバネーション用ファイル」と呼び、購入時には、すでに作成された状態になっています。このハイバネーション用ファイルをいったん削除することを「休止状態の設定の解除」と呼び、メモリの取り付け/取り外しを行ったり、Cドライブの圧縮/圧縮解除を行った場合は、この「休止状態の設定の解除」を行う必要があります。
設定を解除したあと、再び休止状態を利用したい場合には、「休止状態の再設定」でハイバネーション用ファイルを作成する必要があります。

◎ 休止状態の設定を解除する

休止状態の設定を解除するには、「ハイバネーション設定ユーティリティ」を使います。

チェック!! **「ハイバネーション設定ユーティリティ」は、MS-DOSモードで起動します。「MS-DOSプロンプト」画面では実行できません。**

1 **「スタート」ボタン→「Windowsの終了」で「MS-DOSモードで再起動する」の○をクリックして◉にする**

2 「OK」ボタンをクリックする

MS-DOSモードで再起動します。

3 次のように入力する

HIBEROFF【Enter】

4 次のようなメッセージが表示されたら、何かキーを押す

```
The system will now be reset to allow the BIOS to
recognize the changes.

Press any key to reset the system.....
```

Windowsが自動的に再起動します。

メッセージが表示されない場合には、次のように入力します。

CD C:¥NECUTILS¥PHDISK【Enter】
HIBEROFF【Enter】

> すでに休止状態の機能を使うためのファイルが削除されている状態で「ハイバネーション設定ユーティリティ」を実行すると、「There is no S2D file to delete.」と表示されます。

これで休止状態の機能を使うためのファイル(ハイバネーション用ファイル)が削除され、休止状態の設定を解除することができました。

◎ 休止状態を再設定する

休止状態の設定を解除した場合や、休止状態のためのファイルを削除してしまった場合は、休止状態の再設定を行ってください。

チェック!! 「ハイバネーション設定ユーティリティ」は、MS-DOSモードで起動します。「MS-DOSプロンプト」画面では実行できません。

1 「スタート」ボタン→「Windowsの終了」で「MS-DOSモードで再起動する」の○をクリックして◉にする

2 「OK」ボタンをクリックする

MS-DOSモードで再起動します。

3 次のように入力する

HIBERON【Enter】

しばらくの間、ハイバネーション用ファイルの作成画面が表示されることがあります(お使いの機器のメモリ容量によって異なります)。
ハードディスクの空き容量不足についてのメッセージが表示された場合は、不要なファイルを削除するなどしてハードディスクの空き領域を確保した後、手順1からやり直してください。必要なハードディスクの空き領域の目安は、本機に搭載されているメモリ容量＋8Mバイトです。

4 次のようなメッセージが表示されたら、何かキーを押す

```
The system will now be reset to allow the BIOS to
recognize the changes.

Press any key to reset the system.....
```

Windowsが自動的に再起動します。

メッセージが表示されない場合には、次のように入力します。

CD C:¥NECUTILS¥PHDISK【Enter】
HIBERON【Enter】

電源の自動操作

タイマ、LAN、回線からのアクセスによって自動的に電源の操作を行うことができます。

チェック!! タイマ、LAN、FAXモデムの自動操作によるスタンバイ状態からの復帰を行った場合、本体はスタンバイ状態から復帰しているのに、ディスプレイには何も表示されない状態になることがあります。この場合、ポインティングデバイスを動かすかキーボードのキーを押すことによってディスプレイが表示されます。

◎ タイマ機能

設定した時間を経過しても、ポインティングデバイスやキーボードからの入力、またはハードディスクへのアクセスなどがない場合に、自動的にディスプレイの電源を切ったり、スタンバイ状態や休止状態にする機能です。
「省電力機能の設定をする」の「電源設定のモードを選択する」(→p.74)や、「時間を個別に設定する」(→p.75)の手順で時間を設定してください。

チェック!! Windows 98では休止状態にするまでの時間を設定することはできません。

◎ リモートパワーオン機能(内蔵LAN機能による電源操作)

LAN経由で、離れたところにあるリモートパワーオンに対応したパソコンの電源を操作する機能です。

参照 リモートパワーオン機能について→「LAN(ローカルエリアネットワーク)」の「本機の運用管理」(p.130)

◎ リング機能(FAXモデムによる電源の自動操作)

FAXモデム内蔵モデルでは、FAXや電話を受信した場合にスタンバイ状態から復帰することができます。ただし、この機能で本機の電源を入れることはできません。

Intel® SpeedStep™テクノロジ

◎ Intel® SpeedStep™テクノロジのセットアップ

Intel® SpeedStep™ テクノロジを使用するには、次の手順でセットアップを行う必要があります。

チェック!! Windows 2000でIntel® SpeedStep™テクノロジをセットアップする場合は、Administrator権限を持つユーザで本機にログオンしてください。

1 デスクトップ上の(SpeedStep)をダブルクリックする

「ようこそ」画面が表示されます。

2 「次へ」ボタンをクリックする

「製品ライセンス契約」画面が表示されます。

3 「製品ライセンス契約」の内容を読み、内容に同意できる場合には「はい」ボタンをクリックする

「セットアップの完了」画面が表示されます。

4 「はい、直ちにコンピュータを再起動します。」が◉になっていることを確認して「完了」ボタンをクリックする

自動的にWindowsが再起動します。

◎ Intel® SpeedStep™テクノロジの設定をする

1 次の操作を行う

•Windows Me／Windows 98の場合

「コントロールパネル」を開き、「電源の管理」アイコンをダブルクリックする

•Windows 2000の場合

「コントロールパネル」を開き、「電源オプション」アイコンをダブルクリックする

2 「Intel(R) SpeedStep(TM) technology」タブをクリックする

インジケータ領域(タスクトレイ)の をダブルクリックして起動することもできます。

3 設定を行う

本機をバッテリのみで使用する場合と、AC電源で使用する場合のそれぞれの設定を行うことができます。 をクリックして選択してください。

モード	機能
最大パフォーマンス※1	パソコンの最高性能で常に動作します。
自動	必要に応じてパソコンの最高性能に自動的に切り替えます。
バッテリに合わせたパフォーマンス※2	バッテリ最適性能で常に動作します。
バッテリの最長寿命	必要に応じてパソコンの最低性能に自動的に切り替えます。

※1:「AC電源の場合」のセットアップ直後の設定
※2:「バッテリで実行している場合」のセットアップ直後の設定

チェック!! バッテリのみで使用する場合のモード設定は、最大パフォーマンス時の高負荷状態が与えるバッテリへの負担を考えて、初期設定の「バッテリに合わせたパフォーマンス」か「バッテリの最長寿命」を選択するようにしてください。

省電力機能(Windows NT 4.0の場合)

省電力機能とは

省電力機能とは、CPUやハードディスク、ディスプレイといった、パソコンの主要な部分への電力供給を停止することで、本体の消費電力を抑える機能です。また、作業を一時的に中断したいときや、中断した作業をすぐに再開したいときにも便利な機能です。

◎ 本機の省電力機能

本機の省電力機能には、「スタンバイモード」「サスペンド」「パワーマネージメント」「Intel® SpeedStep™テクノロジ」の機能があります。「スタンバイモード」「サスペンド」「パワーマネージメント」は、BIOSセットアップメニューまたはPowerProfilerで設定できます。これらの機能をBIOSセットアップメニューとPowerProfilerの両方で設定した場合は、PowerProfilerの設定が優先されます。
「Intel® SpeedStep™テクノロジ」は、BIOSセットアップメニューまたはIntel® SpeedStep™Technology Appletで設定を行うことができます。

参照 ・PowerProfilerの設定→「PowerProfiler」(p.88)

・省電力の設定→PART3の「BIOSセットアップメニュー」(p.204)

◆ スタンバイモード

液晶ディスプレイのバックライトをオフにするなど、電力消費の多い部分を節電する機能です。キーボードやポインティングデバイスを使用するとすぐに元の状態に戻るので、作業中に少しだけ席を外す場合などに手軽に利用できます。

参照 スタンバイモードを利用する→「スタンバイモード」(p.82)

◆ サスペンド

作業中のデータを一時的にメモリに保存して、消費電力を抑える機能です。データはメモリに保存されているため、すぐに元の状態に戻すことができます。元の状態に戻すことを「レジューム」と呼びます。

参照 サスペンドを利用する→「サスペンド」(p.83)

◆ パワーマネージメント

バッテリ駆動時などに、無駄な電力の消費を抑える機能です。BIOSセットアップメニューで設定します。

参照 パワーマネージメントを利用する→「パワーマネージメント」(p.86)

◆ Intel® SpeedStep™テクノロジ

電源の種類やCPUの動作負荷によって、動作性能を切り替えることができます。

参照 Intel® SpeedStep™テクノロジの設定する→「Intel® SpeedStep™テクノロジ」(p.87)

チェック!! Windows NT 4.0でのハイバネーションはサポートしておりません。

スタンバイモード

◎ スタンバイモードにする

一定の時間何も操作しないと、自動的にスタンバイモードになります。

スタンバイモードになると、画面の表示が消えます。

◎ 元の状態に戻す

・キーボードやポインティングデバイスを使う

PowerProfilerのパワーマネージメントの設定によっては、この機能が使えない場合があります。PowerProfilerの「標準」タブの「パワーマネージメント」が次のように設定されていることを確認してください。

電源の状態	PowerProfilerの設定
AC電源使用時	「通常」
バッテリ使用時	「通常」または「バッテリのみ」

サスペンド

◎ サスペンドにする前に

◆ サスペンドを利用できないとき

次のような場合にはサスペンドにしないでください。本機が正常に動かなくなったり、サスペンドから正しくレジュームできなくなることがあります。

・プリンタへ出力中
・赤外線通信をしている(赤外線通信アプリケーションを実行中)
・通信用アプリケーションを実行中
・電話回線を使って通信中
・音声または動画を再生中
・CD-ROMやフロッピーディスクなどの媒体やハードディスクにアクセス中
・「システムのプロパティ」画面を表示中
・Windows NT 4.0の起動／終了処理中
・サスペンドに対応していないアプリケーションを使用中
・サスペンドに対応していないPCカードを使用中

◆ サスペンド中の注意

本機がサスペンド中の場合は、次のことに注意してください。

・サスペンド中は、ネットワーク機能がいったん停止します。ネットワークを使用するアプリケーションによっては、サスペンドになったときにデータが失われることがあります。ネットワークを使用するアプリケーションを使う場合には、システム管理者に確認のうえ、サスペンドを使用してください。
・サスペンドへの移行中は、各種ディスクやPCカードの入れ替えなどを行わないでください。データが正しく保存されないことがあります。
・サスペンド中に、PCカードを入れ替えるなどの機器構成の変更をすると、正しくレジュームできなくなることがあります。
・サスペンド中にバッテリの残量がなくなると、データが消えてしまいます。バッテリのみで本機を使用している場合は、あらかじめバッテリの残量を確認しておいてください。

◎ サスペンドにする

次のいずれかの方法で、本機をサスペンドにすることができます。

- **【Fn】＋【F4】を押す**
- **Windows NT 4.0の「スタート」ボタン→「サスペンド」をクリックする**

サスペンドになると、電源ランプ(⏻)が緑色に点滅します。

> Windows NT 4.0の「スタート」メニューに「サスペンド」が表示されていない場合は、PowerProfilerで「スタートメニューへ[サスペンド]コマンドを表示」の□をクリックして ☑ にしてください。

ほかにも、設定を行うことにより、次のような方法でサスペンドにできます。

> 次の設定を行う場合は、BIOSセットアップメニューの「省電力管理(Power)」メニューの「スリープモード(Suspend Mode)」を「サスペンド(Suspend)」に設定しておいてください。購入時、本機は「サスペンド(Suspend)」に設定してありますので、設定を変更していない場合は、特に設定する必要はありません。

サスペンドにする方法	設定方法
液晶ディスプレイを閉じる	BIOSセットアップメニューの「省電力管理(Power)」メニューの「LCD連動スリープ(Lid Switch)」を「使用する(Suspend)」に設定
電源スイッチを押す	BIOSセットアップメニューの「省電力管理(Power)」メニューの「電源スイッチ(Power Switch)」を「スリープ(Suspend/Resume)」に設定

> PowerProfilerで設定しておくと、このほかの方法でサスペンドすることもできます。

参照 **PowerProfilerの設定→「PowerProfiler」(p.88)**

◎ サスペンドからレジュームする場合の注意

本機をサスペンドからレジュームする場合は、次のことに注意してください。

- サスペンドにしてからすぐにレジュームしたい場合は、本機に負担がかからないよう、サスペンドしてから約5秒以上たってから操作してください。
- サスペンド中にPCカードの入れ替えや周辺機器の取り付け／取り外しなどの機器構成の変更をすると、正常にレジュームできなくなることがあります。

・CD-ROMドライブ、CD-R/RWドライブ、CD-R/RW with DVD-ROMドライブにフォトCDを入れたままサスペンドにした場合、レジュームに時間がかかることがあります。

◎ レジュームする

レジュームは次の方法で行うことができます。

- **電源スイッチを押す**
- **液晶ディスプレイを開く**

レジュームすると、元の状態(サスペンドに入る前)の画面が表示されます。

次の設定を行うことにより、時刻を指定して自動でレジュームさせることもできます。

レジュームする方法	設定方法
時刻指定によるレジューム	① BIOSセットアップメニューの「省電力管理(Power)」メニューの「レジューム時刻(Resume On Time)」を「オン(On)」に設定 ② 「レジューム時刻(Resume Time)」で時刻を設定

> LAN内蔵モデルで、バッテリで駆動中にサスペンドする場合は、「リモート電源制御(Remote Power On)」の設定を「使用しない(Disabled)」に設定しておくと、サスペンド保持時間を延ばすことができます。

ほかにも、PowerProfilerで設定しておくと、上記以外の方法でレジュームすることもできます。

参照 **PowerProfilerで設定する→「PowerProfiler」(p.88)**

電源の自動操作

タイマ、LAN、回線からのアクセスによって自動的に電源の操作を行うことができます。

◎ タイマ

BIOSセットアップメニューの「省電力管理(Power)」メニューの「省電力(Power Savings Level)」を「使用しない(Disabled)」以外に設定しておくと、設定した時間を経過しても、ポインティングデバイスやキーボードからの入力、またはハードディスクへのアクセスなどがない場合に、自動的にサスペンドにすることができます。

参照 **BIOSセットアップメニューの設定→PART3の「BIOSセットアップメニュー」(p.204)**

◎ リモートパワーオン機能(内蔵LAN機能による電源操作)

LAN経由で、離れたところにあるリモートパワーオンに対応したパソコンの電源を操作する機能です。

参照 **リモートパワーオン機能について→「LAN(ローカルエリアネットワーク)」の「本機の運用管理」(p.130)**

パワーマネージメント

モードの種類と切り替え方

パワーマネージメントには、次の各モードがあります。
設定されているモードがどのモードかは、PowerProfilerを起動すると確認できます。また、モードの切り替えもPowerProfilerを使って行うことができます。

モード	機　能
パフォーマンス優先	節電をしながら高性能で使いたい場合に選びます。節電効果はやや低めです。
省電力優先	性能を控えることにより節電効果を高めたい場合に選びます。
ユーザー設定	節電する機能を自分で選ぶことができるモードです。どの機能を使うかは、PowerProfilerで設定します。

Intel® SpeedStep™テクノロジ

◎ Intel® SpeedStep™テクノロジのセットアップ

Intel® SpeedStep™ テクノロジを使用するには、セットアップを行う必要があります。セットアップは、「省電力機能(Windows Me／Windows 98／Windows 2000の場合)」の「Intel® SpeedStep™ テクノロジ」の「Intel® SpeedStep™ テクノロジのセットアップ」(→p.79)の手順で行ってください。

チェック!! Intel® SpeedStep™ テクノロジをセットアップする場合は、Administrator権限を持つユーザで本機にログオンしてください。

◎ Intel® SpeedStep™テクノロジの設定をする

◆ Intel® SpeedStep™ Technology Appletで設定する

1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「Intel SpeedStep technology Applet」をクリックする

「Intel® SpeedStep™ テクノロジ」が起動します。

インジケータ領域(タスクトレイ)の をダブルクリックして起動することもできます。

2 設定を行う

本機をバッテリのみで使用する場合と、AC電源で使用する場合のそれぞれの設定を行うことができます。 をクリックして選択してください。

モード	機能
最大パフォーマンス※1	パソコンの最高性能で常に動作します。
バッテリに合わせたパフォーマンス※2	バッテリ最適性能で常に動作します。

※1:「AC電源の場合」のセットアップ直後の設定
※2:「バッテリで実行している場合」のセットアップ直後の設定

チェック!! バッテリのみで使用する場合のモード設定は、最大パフォーマンス時の高負荷状態が与えるバッテリへの負担を考えて、初期設定の「バッテリに合わせたパフォーマンス」を選択するようにしてください。

「電源の変更時にパフォーマンスを自動的に変更する。」が☑になっているとバッテリ駆動からAC駆動に変更した場合、自動的に「AC電源の場合」で設定した動作に変わります。

「パフォーマンスを自動変更する前に確認する。」が☑になっているとバッテリ駆動からAC駆動に変更した場合に、パフォーマンスを自動的に変更するかを確認するメッセージが表示されます。

PowerProfiler

PowerProfilerを使って、サスペンド、レジューム、バッテリ管理、省電力など本機の使用環境を設定することができます。

チェック!! 「Microsoft Windows NT 4.0日本語版Service Pack 6a」を再インストールする場合には、PowerProfilerをいったん、アンインストールする必要があります。詳しくは、『活用ガイド ソフトウェア編』の「 トラブル解決Q&A」をご覧ください。

◎ PowerProfilerを操作する

1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「PowerProfiler」をクリックする

「PowerProfiler」画面が表示されます。

2 「標準」タブをクリックする

3 「パワーマネージメント」の種類を選択する

項目	機能
通常	パワーマネージメント機能は、バッテリまたはACアダプタなど電源の種類にかかわらず有効です。パワーマネージメントタイマーおよびI/Oポートのオン／オフ設定は、このオプションが選択されている場合のみ有効です。
バッテリーのみ	パワーマネージメント機能は、システム電源がバッテリの場合のみ有効です。電源がACアダプタの場合でこのオプションが選択されている場合は、パワーマネージメント機能は無効です。
オフ	パワーマネージメントタイマーおよびI/Oポートのオン／オフ設定は、すべて無効です。

4 「タイマ/デバイス コントロール」と「サスペンド コントロール」の設定をする

5 「詳細」タブをクリックする

レジュームに関する設定項目が表示されます。

6 レジュームの設定をする

7 「バッテリ」タブをクリックする

バッテリに関する設定項目が表示されます。

8 バッテリの設定をする

9 設定が終了したら「更新」ボタンをクリックしてから「OK」ボタンをクリックする

チェック!! 設定をした後は、必ず「更新」ボタンをクリックしてください。

◎ 省電力の設定一覧

チェック!! 本機のPowerProfilerとBIOSセットアップメニューには、それぞれ省電力に関する同等機能があります。省電力に関しては、PowerProfilerでの設定が優先されますので、BIOSセットアップメニューでは「省電力(Power Savings Level)」を「使用しない(Disabled)」に設定しておくことをおすすめします。

参照 省電力の設定→PART3の「BIOSセットアップメニュー」(p.204)

◆タイマ/デバイス コントロール

このグループには、ディスプレイタイムアウト、ハードディスクタイムアウト、およびCOM/LPTポートパワーコントロールの設定が含まれています。

チェック!!

- **「COM LPT」ボタンをクリックすると、シリアル/パラレルポートの電源をオン/オフする設定がありますが、実際に電源制御をすることはできません。**
- **ディスプレイタイムアウトとスクリーンセーバーを同時に使用することはできません。**

・省電力優先プロファイル

チェック!! このプロファイルは、ユーザーが変更することはできません。

ディスプレイタイムアウト、ハードディスクタイムアウト、およびCOM/LPTポートパワーコントロールに、あらかじめ構成された設定をロードします。このプロファイルではデバイスがアイドル状態になってから電源を切るまでの時間が短く設定されているため、パフォーマンス優先プロファイルよりバッテリ電力を節約できます。

・パフォーマンス優先プロファイル

チェック!! このプロファイルは、ユーザーが変更することはできません。

ディスプレイタイムアウト、ハードディスクタイムアウト、およびCOM/LPTポートパワーコントロールに、あらかじめ構成された設定をロードします。このプロファイルではデバイスがアイドル状態になってから電源を切るまでの時間が省電力優先プロファイルより長く設定されます。したがって、マシンをより高いパフォーマンスで使用できますが、バッテリはより早く放電します。

・ユーザー設定プロファイル

ディスプレイタイムアウト、ハードディスクタイムアウト、およびCOM/LPTポートパワーコントロールに、ユーザー設定値をロードします。ユーザー設定値を登録するには、設定値を「ユーザー設定への保存」を使って保存します。

・ユーザー設定プロファイルの保存

ディスプレイタイムアウト、ハードディスクタイムアウト、およびCOM/LPTポートパワーコントロールの現在の設定を、ユーザー設定プロファイルに保存します。

◎ サスペンドの設定一覧

◆ サスペンド

「標準」タブの「サスペンド コントロール」の「サスペンド」ボタンをクリックすると、直ちにシステムをサスペンドします。

◆「スタート」メニューへ[サスペンド]コマンドを表示

「標準」タブの「サスペンド コントロール」の「スタートメニューへ[サスペンド]コマンドを表示」をチェックします。
Windows NT 4.0の「スタート」メニューに「サスペンド」コマンドを追加します。

◎ レジュームの設定

◆ 電話が鳴ったらレジューム

本機では使用できません。

◆ 自動レジューム

「詳細」タブの「レジューム オプション」の「アラームが鳴ったらレジューム」の☐をクリックして☑にします。「時刻」と「日付」に指定された時刻になると、サスペンド状態のシステムがレジュームします。

> 淡色表示されている場合は、この機能はシステムでサポートされていません。

◆ アラームでレジュームした場合にアプリケーションを起動

「詳細」タブの「レジュームオプション」の「アラームでレジュームした場合にアプリケーションを起動」の☐をクリックして☑にします。システムがアラーム レジュームイベントによって起動した場合に、このオプションの下に表示されたボックスで指定されたアプリケーションを、自動的に起動します。

> 淡色表示されている場合は、この機能はシステムでサポートされていません。

◎ バッテリの設定

◆ アラーム アクション

このグループには、ユーザへの警告、またはローバッテリ時のシステムのサスペンドを行う場合のオプションが含まれます。

> このグループのオプションは、「バッテリーの選択」で「すべてのバッテリ」が設定されている場合のみ変更できます。「すべてのバッテリ」以外が設定されている場合は、オプションは淡色表示されていて使用できません。

・ローバッテリアラームの通知

ローバッテリが検出されると、警告メッセージが表示され、ビープ音が鳴ります。ローバッテリレベルは、「バッテリ状態／アラームレベルの設定」グループの「ローバッテリアラームスライダ」で指定します。

・緊急ローバッテリアラームの通知

バッテリ電力の極度の不足を検出した場合、警告メッセージが表示され、ビープ音が鳴ります。緊急ローバッテリ時かどうかを判断するレベルは、「バッテリ状態／アラームレベルの設定」グループの「緊急ローバッテリアラームスライダ」で指定します。

・緊急ローバッテリ時にシステムをサスペンド

「緊急ローバッテリアラームの通知」が設定されている場合のみ有効です。

バッテリの電力が極度に不足した場合に、システムをサスペンドします。緊急ローバッテリ時かどうかを判断するレベルは、「バッテリ状態／アラームレベルの設定」グループの「緊急ローバッテリアラームスライダ」で指定します。

◆ バッテリメーターをタスクバーへ表示

「バッテリ」タブの「バッテリメーターをタスクバーへ表示」の□をクリックして☑にすると、Windows NT 4.0のタスクバーに現在のバッテリ充電状態を示すアイコンを表示します。

・アイコンをダブルクリックすると、バッテリページが表示されます。

・アイコンを右クリックすると、詳細アクションのポップアップメニューが表示されます。

・アイコンをポイントすると、バッテリの残りの容量が表示されます。

◆ バッテリ状態／アラームレベルの設定

このグループには、バッテリの残りの容量の表示とローバッテリアラームレベルの設定を行うためのオプションが含まれています。

・ローバッテリアラームスライダ

・緊急ローバッテリアラームスライダ

◆ バッテリーの選択

本機では使用できません。

セキュリティ機能

本機には、本機の不正使用やデータなどの盗難を予防するためのセキュリティ機能が搭載されています。

本機のセキュリティ機能

本機のセキュリティ機能には、次のようなものがあります。

- **パスワード**
- **ハードディスクのパスワード**
- **指紋認証機能(内蔵指紋センサモデルのみ)**
- **暗証番号ボタン(暗証番号機能モデルのみ)**
- **指紋認証ユニット(別売)**

チェック!! **セキュリティ機能を使用している場合でも、「絶対に安全」ということはありません。重要なデータなどの管理、取り扱いには十分注意してください。**

パスワード

パスワードを設定することで、本機の使用者を制限するとともに、本機の不正使用を防止することができます。本機のパスワードはBIOSセットアップメニューで設定します。パスワードを設定することにより、次のような機能を制限することができます。

・本機の起動

・BIOSセットアップメニューの起動と設定変更

チェック!! **ご購入元、NECフィールディングの各支店、営業所などに本機の修理を依頼される際は、設定したパスワードは解除しておいてください。**

◎ パスワードの種類

本機で設定可能なパスワードには、「スーパバイザパスワード」と「ユーザパスワード」があります。

◆ スーパバイザパスワード

スーパバイザパスワードは、おもに本機の管理者用のパスワードで、管理者以外の不正な使用や設定の変更を防止したり、本機の使用者を制限するために設定します。
パスワードを設定しておくと、BIOSセットアップメニュー起動時にパスワードの入力画面が表示され、パスワードを入力しないかぎりBIOSセットアップメニューを起動できなくなります。また、スーパバイザパスワード入力のタイミングを、起動時に設定しておくこともできます。

◆ ユーザパスワード

ユーザパスワードは、スーパバイザパスワードが設定されていないと設定できないパスワードです。おもに本機の使用者のためのパスワードで、スーパバイザパスワードで本機を管理している管理者が、本機の使用者の使用できる機能を制限するためのものです。

◎ パスワードを使った管理

たとえば、管理者がスーパバイザパスワードとユーザパスワードの両方を設定し、通常の利用者にはユーザパスワードのみを通知するようにします。このように設定しておくと、管理者以外はBIOSセットアップメニューの設定を変更できなくなります。また、どちらのパスワードも通知されていない人は、本機を起動することもできません。

◎ パスワードを設定／変更する

スーパバイザパスワード、またはユーザパスワードの設定／変更は、BIOSセットアップメニューで行います。パスワードを設定後にBIOSセットアップメニューを起動する場合は、設定したスーパバイザパスワードを入力しなければ、BIOSセットアップメニューの一部の設定を起動できなくなります。

1 BIOSセットアップメニューを起動する（→p.205）

2 「セキュリティ（Security）」メニューを選択する

3 「スーパバイザパスワード設定（Set Supervisor Password）」または「ユーザパスワード設定（Set User Password）」を選択して【Enter】を押す

パスワード設定の画面が表示されます。

チェック!! スーパバイザパスワードを設定していないと、ユーザパスワードを設定することはできません。

4 パスワードを入力して【Enter】を押す

チェック!! ニューメリックロックキーランプ(1)が消灯していることを確認し、パスワードの文字列を8文字以内で設定してください。使用できる文字は、半角英字のA～Z(大文字／小文字の区別はありません)と半角数字の0～9だけです。

5 手順4で入力したパスワードを、もう一度入力して【Enter】を押す

6 「セットアップ通知(Setup Notice)」画面が表示されるので、いずれかのキーを押す

7 設定を保存して、BIOSセットアップメニューを終了する

チェック!! 設定したパスワードを忘れないようにしてください。パスワードは本機を再セットアップしても解除できません。パスワードは忘れないように控えておくことをおすすめします。

◎ パスワードを入力するタイミング

パスワードを設定しておくと、BIOSセットアップメニュー起動時にパスワードを入力するように要求されます。BIOSセットアップメニュー起動時以外にも、本機の起動時に設定することもできます。

◆本機の起動時

本機の起動時にパスワードを入力するように設定するには、次の手順を行います。

1 BIOSセットアップメニューを起動する(→p.205)

2 「セキュリティ(Security)」メニューの「起動時のパスワード(Password on boot)」を選択する

3 「使用する(Enabled)」を選択する

4 設定内容を保存して、BIOSセットアップメニューを終了する

◎ パスワードを入力する

◆ パスワードを設定している場合の電源の入れかた

BIOSセットアップメニューの「セキュリティ(Security)」メニューの「起動時のパスワード(Password on boot)」が「使用する(Enabled)」に設定されている場合は、次の手順で電源を入れます。

1 本機の電源を入れる

次のようなパスワードを入力する画面が表示されます。

```
パスワードを入力して下さい。        [_        ]
```

2 設定されているパスワードを入力して【Enter】を押す

正しいパスワードが入力されると、Windowsが起動します。

チェック!! 誤ったパスワードを入力すると、警告が表示されます。パスワードの入力に3回失敗すると、パスワードが入力できなくなります。このような場合は、電源スイッチを4秒以上押して電源を切ったあと、もう一度手順1からやりなおしてください。

◎ パスワードを忘れてしまったときは

設定したパスワードを忘れないようにしてください。パスワードは本機を再セットアップしても解除できません。パスワードは忘れないように控えておくことをおすすめします。パスワードを忘れてしまった場合には解除処置が必要です。

参照 解除処置について→『活用ガイド　ソフトウェア編』の「トラブル解決Q&A」

ハードディスクのパスワード

◎ ハードディスクのパスワードとは

ハードディスクにパスワードを設定することで、本機以外のパソコンでのハードディスクの不正使用を防止することができます。
パワーオンパスワードを併用することにより、ハードディスク内のデータへの不正アクセスを防ぐことが可能です。
ハードディスクのパスワードは、BIOSセットアップメニューで設定します。

チェック!! ・ハードディスクのパスワードを忘れてしまった場合、NECフィールディングの各支店、営業所などに持ち込んでもロックは解除できません。お客様ご自身で作成されたデータは二度と使用できなくなり、またハードディスクを有償で交換することになります。ハードディスクのパスワードは忘れないよう、十分注意してください。

・ハードディスクのパスワードは、他のセキュリティ機能と併用してください。ハードディスクのパスワードだけでは、十分に本機の不正使用を防止することができません。

◎ パスワードの種類

本機で設定可能なハードディスクのパスワードには、「マスタパスワード」と「ユーザパスワード」があります。

◆ マスタパスワード

マスタパスワードはロック解除専用のパスワードです。ハードディスクのパスワードを最初に設定するときに入力します。

◆ユーザパスワード

ユーザパスワードは、ハードディスク認証を行うために設定します。ユーザパスワードを設定することで、本機以外でのハードディスクの不正使用を防止できます。

チェック!! **マスタパスワードを設定しないとユーザパスワードを設定することはできません。**

◎ パスワードを設定／変更する

マスタパスワードの設定、ユーザパスワードの設定／変更は、BIOSセットアップメニューで行います。

チェック!! **マスタパスワードは、忘れないように控えておくことをおすすめします。パスワードを忘れてしまうと、パスワードの変更およびハードディスクのロックの解除ができなくなります。**

1 BIOSセットアップメニューを起動する(→p.205)

BIOSセットアップメニューのメイン画面が表示されます。

2 「セキュリティ(Security)」メニューを選ぶ

3 **「HDDパスワードの設定(Assign HDD Password)」を選んで、【Enter】を押す**

- **はじめて設定する場合**
  マスタパスワード画面が表示されるので手順5へ進んでください。
- **マスタパスワードがすでに設定済みで、ユーザパスワードが設定されていない場合**
  新しいユーザパスワードの入力画面が表示されるので手順7へ進んでください。
- **上記以外の場合**
  パスワード入力画面が表示されるので手順4へ進んでください。

4 **マスタパスワードまたはユーザパスワードを入力し【Enter】を押す**

- **ユーザパスワードを入力した場合**
  新しいユーザパスワード入力画面が表示されるので手順7へ進んでください。
- **マスタパスワードを入力した場合**
  新しいマスタパスワード入力画面が表示されるので手順5へ進んでください。

5 **新しいマスタパスワードを入力し【Enter】を押す**

チェック!! **ニューメリックロックキーランプ(1)が消灯していることを確認し、パスワードの文字列を8文字以内で設定してください。使用できる文字は、半角英字のA～Z(大文字/小文字の区別はありません)と半角数字の0～9だけです。**

6 **手順5で入力したマスタパスワードをもう一度入力し【Enter】を押す**

ユーザパスワード入力画面が表示されます。

7 **新しいユーザパスワードを入力し【Enter】を押す**

8 **手順7で入力したユーザパスワードをもう一度入力し【Enter】を押す**

9 **「セットアップ通知(Setup Notice)」の画面が表示されるので、いずれかのキーを押す**

10 設定を保存して、BIOSセットアップメニューを終了する

パスワードを設定しただけではセキュリティは有効になりません。セキュリティを有効にするためには、次の「ハードディスクのパスワードによるセキュリティを有効にする」をご覧ください。

チェック!! 設定したユーザパスワードは忘れないようにしてください。ユーザパスワードは本機を再セットアップしても解除できません。パスワードを忘れないように控えておくことをおすすめします。

◎ ハードディスクのパスワードによるセキュリティを有効にする

マスタパスワードとユーザパスワードを設定してもハードディスクのセキュリティは有効になりません。ハードディスクのセキュリティを有効にするには、BIOSセットアップメニューの「セキュリティ(Security)」メニューで「内蔵HDDパスワードの設定(Internal HDD Password)」または「NXノートベイHDDの設定(Versabay HDD Password)」を「使用する(Enabled)」に設定してください。

チェック!!

- **ハードディスクのセキュリティを有効にしても、設定したマスタパスワードやユーザパスワードを本機の起動時に入力する必要はありません。**
- **本機でセキュリティを有効にしたハードディスクは、他機では使用できません。他機で使用する場合は「内蔵HDDパスワードの設定(Internal HDD Password)」または「NXノートベイHDDの設定(Versabay HDD Password)」を「使用しない(Disabled)」に設定してください。**

◎ ハードディスクのロックを無効にする

本機の起動時にハードディスクがロックされたという内容のメッセージが表示された場合は、次の手順でハードディスクのロックを無効にしてください。

1 BIOSセットアップメニューを起動する(→p.205)

BIOSセットアップメニューのメイン画面が表示されます。

2 「セキュリティ(Security)」メニューを選ぶ

3 「HDDパスワードの設定(Assign HDD Password)」を選んで、【Enter】を押す

ロック解除の画面が表示されます。

4 マスタパスワードを入力する

5 【Enter】を押す

以上でハードディスクのロックが無効になります。手順5の後にパスワード設定画面が表示されます。パスワードの設定／変更の手順にしたがって設定を行うか、【Esc】を押してキャンセルしてください。

指紋認証機能

ここでは、内蔵指紋センサモデルの指紋認証機能について説明しています。指紋認証機能とはパスワードの入力のかわりに、内蔵指紋センサを使って指紋による認証を行うシステムです。
本機では付属のユーティリティで、指紋認証によるBIOSLOCK機能や、Windowsへのログオン、スクリーンセーバのロック解除、各種アプリケーションのパスワード代替などを設定することができます。

参照 **指紋認証機能の詳細について→『内蔵指紋センサ ユーザーズ・ガイド』**

指紋認証ユニット

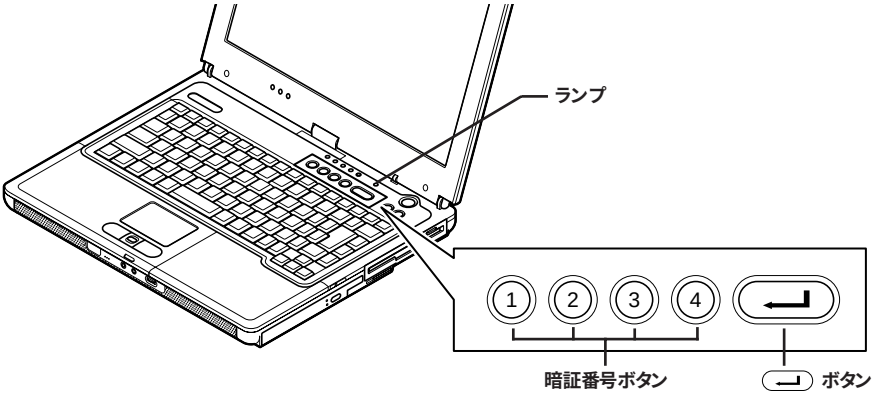
チェック!!

- **本機起動時の認証（BIOSロック）として、「指紋認証ユニット」「パスワード」をそれぞれ同時に使用することはできません。スタンバイ状態からの復帰に認証が有効になるのは、「パスワード」を選択した場合のみです。**
- **内蔵指紋センサモデルでは、PCカード用指紋認証ユニット（PK-FP001M）を使用することはできません。**

参照 **指紋認証について→PCカード用指紋認証ユニット（PK-FP001M）に添付のマニュアル**

暗証番号ボタン

この機能は、暗証番号機能モデルのみの機能です。
暗証番号ボタンとは、本体の暗証番号ボタンを押すことによってパスワード認証を行うもので、セキュリティを強化する機能の一つです。暗証番号ボタンを使ってパスワードを設定しておくと、正しいパスワードを入力しないかぎり本機を起動できなくなります。およそ800,000通り以上のパスワードが考えられますので、より強力なセキュリティを実現できます。



◎ パスワードを設定する

暗証番号ボタンのパスワード設定や変更は、暗証番号設定ユーティリティで行います。

チェック!! 暗証番号ボタンの機能や暗証番号設定ユーティリティの使い方については、「暗証番号設定ユーティリティ インストールディスク」をご覧ください。

◆ セキュリティモード

暗証番号ボタンのパスワードを設定したあとは、電源スイッチを押すと、本機がセキュリティモードに移行してランプが点灯するようになります。セキュリティモードになると、登録したパスワードを入力しないかぎり本機を起動することはできなくなります。

チェック!! 暗証番号ボタンのパスワードを設定してあると、電源スイッチを使ってスタンバイ状態から復帰する場合にもセキュリティモードになりますので、設定したパスワードを入力してセキュリティモードを解除してください。

◎ パスワードを忘れてしまった場合は

設定したパスワードを忘れないようにしてください。パスワードは本機を再セットアップしても解除できません。パスワードは忘れないように控えておくことをおすすめします。パスワードを忘れてしまった場合には解除処置が必要です。

参照 **解除処置について→『活用ガイド　ソフトウェア編』の「トラブル解決Q&A」**

◎ セキュリティモードを解除する

1 電源スイッチを押す

(↵) ボタン上部のランプが点灯します。

2 登録したパスワードを暗証番号ボタンを使って押し、最後に キーボード右上にある (↵) ボタンを押す

正しいパスワードが入力されると (↵) ボタン上部のランプが消灯し、Windowsが起動します。

チェック!!

- **(↵) ボタンは、キーボード右上にある暗証番号ボタンの隣にあるボタンのことです。キーボードの【Enter】とは異なります。**
- **間違ったパスワードを入力するとビープ音がなります。間違ったパスワードを3回入力すると、ビープ音が鳴り続けます。**
- **パスワードは (↵) ボタン上部のランプが点灯してから1分以内に入力してください。1分を過ぎるとパスワードを受け付けなくなります。パスワードを受け付けなくなったら、もう一度電源スイッチを押してください。**

その他のセキュリティ機能を使う

◎ ハードディスク起動セクタへのウイルス感染防止

ハードディスクの起動セクタを書き込み禁止に設定できます。起動セクタ部分が削除されたり、書き換えられたりすると、正常にパソコンを起動することができなくなってしまいます。書き込み禁止に設定すると、起動セクタをコンピュータウイルスなどから保護できます。
ハードディスク起動セクタの設定は、BIOSセットアップメニューで行います。

参照 **ハードディスクの起動セクタを保護する→PART3の「設定項目一覧」の「「セキュリティ」メニューの設定」(p.211)**

◎ 盗難防止用ロック

本体の盗難防止用ロックに別売の「セキュリティケーブル(PK-SC/CA01)」を取り付けると、本体の盗難を防止できます。

参照 **盗難防止用ロック→このPARTの「各部の名称」(p.17)**

赤外線通信機能

赤外線通信とは、パソコンとパソコンの間をケーブルで接続せずに赤外線でデータの交換を行う通信方法です。本機では、IrDA規格に準拠した、通信速度4Mbpsまでの赤外線通信ができます。

赤外線通信を行う前に

本機は購入時の状態では赤外線通信機能を利用できる状態になっていません。本機で赤外線通信機能を利用するには準備が必要です。お使いのパソコンにインストールされているOSによって手順が異なりますので、それぞれの手順にしたがって設定を行ってください。

チェック!!

- **内蔵指紋センサモデルでは、BIOSセットアップメニューの「セキュリティ(Security)」メニューで「セキュリティモード(Security Mode)」の設定を、「パスワード(Password)」にしてから、以下の手順を行ってください。**
- **内蔵指紋センサモデルでは、以下の設定を行うと、指紋認証の機能は自動的に利用できなくなります。赤外線通信機能と指紋認証機能を同時に利用することはできません。**

1 BIOSセットアップメニューを起動する(→p.205)

2 「詳細(Advanced)」メニューで「周辺機器設定(I/O Device Configuration)」の「赤外線ポート(Infrared port)」を選択する

3 「自動(Auto)」を選択する

「赤外線ポート(Infrared port)」を「自動(Auto)」に設定すると、「モード(Mode)」が表示されます。「モード(Mode)」の設定値が「FIR」になっていることを確認してください。

4 BIOSセットアップメニューを終了する

バージョンの競合を確認する画面が表示された場合は、「はい」ボタンをクリックしてください。

5 次の操作を行う

- **Windows Me/Windows 98/Windows 2000の場合**
  「システム設定の変更」画面が表示された場合は、「はい」ボタンをクリックします。Windowsが再起動し、赤外線通信をするための準備が完了します。

- **Windows NT 4.0の場合**
  「Intellisync」の「Intellisyncエージェント」を起動し、設定を行ってください。

◎ 赤外線モニタ

Windows 98には、赤外線通信の設定や監視を行う「赤外線モニタ」というプログラムがあります。「赤外線モニタ」の使い方については、「コントロールパネル」を開き、「赤外線モニタ」アイコンをダブルクリックして、「赤外線モニタ」のヘルプをご覧ください。

機器の配置について

◎ 機器を配置する

赤外線通信を行うときは、本機の赤外線通信ポートと通信相手機器の赤外線通信ポートが向き合うように配置します。
赤外線通信を行う機器は次の範囲内に配置してください。

・互いの機器の赤外線通信ポートが真正面に向き合うようにする
・互いの機器の赤外線通信ポートの距離を約1m以内にする

◎ 機器を配置するときの注意

・赤外線通信ポートを汚したり、傷つけたりしない
・通信相手機器と本機との間に赤外光を遮るような物を置かない
・互いの機器どうしを接触させない
・通信相手の赤外線が本機の赤外線通信ポートまで届かない場合や通信相手機器の通信可能距離が本機よりも短い（本機の場合は約1m以内）場合は、通信相手の機器が本機の通信可能範囲にあっても通信できないことがあります。このような場合は、お互いの赤外線通信ポートを真正面で向き合わせて、できる限り近くに置いてください。このとき、お互いの装置が接触しないようにしてください。

◎ このような場合は通信可能距離が短くなってしまうことがあります

・直射日光や蛍光灯の直下
・機器どうしが正しく向き合っていない
・他の赤外線通信機器やノイズを発生する機器の近くにある
・本機の赤外線通信ポートの指向性（約15度程度）の範囲を越えている

◎ このような場合はうまく通信できないことがあります

・異なる機器と接続した場合(相手の機器の性能に依存するため)
・通信相手機器がIrDA規格に準拠していない場合

異なる機器との通信には、両装置間の通信に対応したソフトが必要です。

赤外線通信をする

赤外線通信を行うには、次の方法があります。
・「Intellisync」を使用する(Windows 98/Windows NT 4.0のみ)
・「ケーブル接続」を使用する(Windows Me/Windows 98のみ)
・「赤外線転送」を使用する(Windows 98のみ)
・「ワイヤレスリンク」を使用する(Windows Me/Windows 2000のみ)

◎ Intellisync

Intellisyncは、赤外線や通信ケーブルを使ってファイルの転送を行うアプリケーションです。
「Intellisync」の「接続設定マネージャ」を起動して設定を行ってください。

参照 **Intellisyncの使い方→『活用ガイド ソフトウェア編』の「添付アプリケーションの概要と追加/削除」の「Intellisync」**

◎ ケーブル接続

「ケーブル接続」とは、赤外線や通信ケーブルで他のコンピュータのネットワークや共有フォルダにアクセスする機能です。
詳しくは、「スタート」ボタン→「ヘルプ」でヘルプをご覧ください。

チェック!! **「ケーブル接続」で赤外線通信を行う場合は、「使用するポート」として仮想赤外線COMポートを指定してください。仮想赤外線COMポートは、「赤外線モニタ」の「オプション」タブで「アプリケーションでサポートしているポート」の部分に表示されています。**

◎ 赤外線転送

「赤外線転送」とは、Windows 98が起動している2台のパソコン間で、ファイルの転送を行う機能です。
「赤外線転送」を使ったファイルの転送には、次の3つの方法があります。

◆エクスプローラを使う

1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「エクスプローラ」をクリックする

2 送信するファイルを表示させる

3 送信するファイルを選択し、右クリックする

4 「送る」→「赤外線の受信側」をクリックする

◆ドラッグ&ドロップを使う

1 「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックする

2 「スタート」ボタン→「プログラム」→「エクスプローラ」をクリックする

3 送信するファイルを表示させる

4 送信するファイルを選択し、「マイコンピュータ」画面の「赤外線の受信側」へドラッグ&ドロップする

◆マイコンピュータを使う

1 「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックする

2 「範囲内にある利用可能なデバイス」から送信相手のパソコンを選択する

3 「ファイルの送信」ボタンをクリックし、送信するファイルを選択する

チェック!! 赤外線転送、ケーブル接続、Intellisyncは、同時に使用することはできません。

◎ ワイヤレスリンク

「ワイヤレスリンク」とは、赤外線通信が可能な2台のパソコン間でファイルの転送を行う機能です。
ワイヤレスリンクを使ったファイルの転送には次の方法があります。

◆「ワイヤレスリンク」画面を使う

1 インジケータ領域(タスクトレイ)にある か、またはデスクトップに表示される「ワイヤレスリンク」アイコンをダブルクリックする

「ワイヤレスリンク」画面が表示されます。

2 送信するファイルを選択し、「送信」ボタンをクリックする

◆「送る」コマンドを使う

1 デスクトップやエクスプローラ、マイコンピュータなどで、送信するファイルを表示させる

2 送信するファイルを右クリックする

3 表示されたメニューから「送る」→「赤外線受信者」または「赤外線の受信者側」をクリックする

◆ドラッグ&ドロップを使う

1 デスクトップやエクスプローラ、マイコンピュータなどで送信するファイルを表示させる

2 送信するファイルをデスクトップの「ワイヤレスリンク」アイコンへドラッグ&ドロップする

チェック!! インジケータ領域(タスクトレイ)やデスクトップにアイコンが表示されていない場合は、赤外線通信を行う相手の機器が通信範囲内に正しく配置されているか確認してください。

ワイヤレスリンクの使い方について詳しくは、「スタート」ボタン→「ヘルプ」をクリックすると表示されるWindowsのヘルプをご覧ください。

サウンド機能

ボリュームコントロールを使うと、内蔵音源の再生音量や録音時の入力レベルを調節することができます。

ボリュームコントロールを表示させる

1 インジケータ領域(タスクトレイ)の をダブルクリックする

「Volume Control」画面または「マスター音量」画面が表示されます。

チェック!! ディスプレイの解像度を低解像度に設定している場合にボリュームコントロールを表示させると、ボリュームコントロールのすべての音源コントロールが表示されない場合や右端の音源コントロールの表示が一部欠ける場合があります。このような場合には、ディスプレイの解像度を変更する(→p.52)か、または「プロパティ」画面の「表示するコントロール」欄で、使用しない音源の選択を解除し、必要な音源コントロールが表示されるように変更してください。
なお、ディスプレイの解像度を変更する場合は、ボリュームコントロールをいったん終了し、解像度を変更後に再度ボリュームコントロールを起動してください。

表示項目を切り替える

ボリュームコントロールに表示させる項目を切り替えることができます。

1 メニューバーの「オプション」→「プロパティ」をクリックする

「プロパティ」画面が開きます。

2 「音量の調整」欄から「再生」「録音」のどちらかを選択する

表示項目が切り替わります。
「音量の調整」欄で選択できる項目は、モデルによって異なります。

◎ 設定項目一覧

表示できる項目と各項目の説明は次のようになります。
項目はモデルによって多少異なる場合があります。

項目	音量調整の種類		説明
	再生	録音	
Volume Control またはマスター音量	○		スピーカから出力されるすべての音量を調整します。
Wave※1	○		WAVEなどのPCM音源の音量を調整します。
ウェーブ出力※2	○		WAVE、MIDIなどの音量を調整します。
SW Synth※1	○		MIDIの音量を調整します。
CD Player またはCD	○	○	CD-ROMドライブ、CD-R/RWドライブ、CD-R/RW with DVD-ROMドライブで再生した音楽CDを再生、または録音するときの音量を調整します。
Microphone またはマイク	○	○	マイクロホン端子から入力される音声をスピーカから出力するとき、または録音するときの音量を調整します。
Line Inまたは ライン入力	○	○	本機では使用できません。
Wave Out Mix※1		○	スピーカから出力されるすべての音を録音するときの音量を調整します。
出力ミキサー※2		○	スピーカから出力されるすべての音を録音するときの音量を調整します。ステレオで録音されます。
モノラル ミックス※2		○	スピーカから出力されるすべての音を録音するときの音量を調整します。モノラルで録音されます。

※1：Windows Me、Windows 98、Windows 2000のみ
※2：Windows NT 4.0のみ

内蔵モデム

**ここでは、FAXモデム内蔵モデルについての説明をしています。
内蔵のモデムを介して電話回線に接続すると、インターネットや電子メールなどのやり取りができます。**

電話回線との接続

◎ 接続可能な電話回線のコンセントについて

本機に接続可能な電話回線は2線式のみです。電話回線に接続する前に、使用する電話回線の種類を確認してください。
本機には、モジュラージャックと接続するためのモジュラーケーブルが添付されています。電話回線のコンセントがモジュラージャック式以外の場合は、変換アダプタを使用するかNTTにモジュラージャックの取り付けを相談してください。

チェック!! **内蔵のFAXモデムは、加入電話回線に適合するように設計されています。加入電話回線以外と接続すると、うまく動作しないことや、内蔵FAXモデムやパソコン本体などを破損するおそれがあります。**

◎ 電話回線を接続する

⚠警告

感電注意

●雷が鳴りだしたら、本機や電源コードに触れないでください。また、機器の接続や取り外しを行わないでください。落雷による感電のおそれがあります。

⚠注意

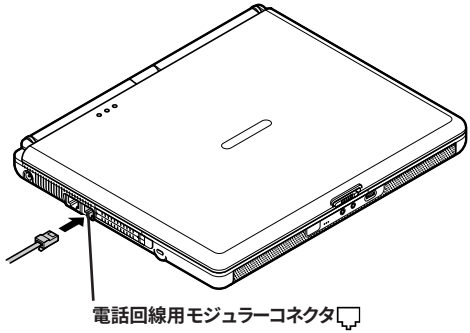
感電注意

●モジュラージャックの端子に触れないでください。電話回線と接続しているモジュラージャックを抜いたときに電話がかかってくると、電話回線上に電圧がかかるため、端子に触れると感電することがあります。

1 **本機を使用中の場合は、本機の電源を切る**

2 **電話機のモジュラーケーブルをモジュラージャックなどから取り外す**

3 **本体背面のカバーを開き、付属のモジュラーケーブルの一方を本機の電話回線用モジュラーコネクタに接続する**



4 **モジュラーケーブルのもう一方を壁などのモジュラージャックに接続する**

1つの電話回線のモジュラージャックを本機以外の機器(電話機など)と共用で使用する場合は、使用するごとにケーブルの接続や取り外しが必要になります。

ダイヤル設定のしかた

■Windows Me／Windows 98／Windows NT 4.0の場合

1 **「コントロールパネル」を開き、「テレフォニー」アイコンをダブルクリックする**

「ダイヤルのプロパティ」画面が表示されます。

◆「所在地情報」画面が表示された場合

0を除いた市外局番を入力し、「閉じる」ボタンをクリックすると、「ダイヤルのプロパティ」画面が表示されます。
必要な項目を確認して、設定してください。

携帯電話など必ず市外局番からダイヤルする必要のある環境で使用する場合は、市外局番の欄を「000」に設定してください。

◆「ダイヤルのプロパティ」画面が表示された場合

使用する場所の0を除いた市外局番を入力する。
携帯電話など、市外局番からダイヤルする必要がある場合は、「000」を入力する。

外線発信番号が必要な回線の場合は入力する。

プッシュ回線を使用する場合は「トーン」、ダイヤル回線の場合は「パルス」に設定してください。回線の種類が不明の場合は、NTTにお問い合わせください。

この画面はモデルによって異なります。

■Windows 2000の場合

1 「コントロールパネル」を開き、「電話とモデムのオプション」アイコンをダブルクリックする

「電話とモデムのオプション」画面が表示されます。
はじめてダイヤル設定を行うときは、「所在地情報」画面が表示されます。このような場合は、次の「「所在地情報」画面が表示された場合」で設定を行ってください。

◆「所在地情報」画面が表示された場合

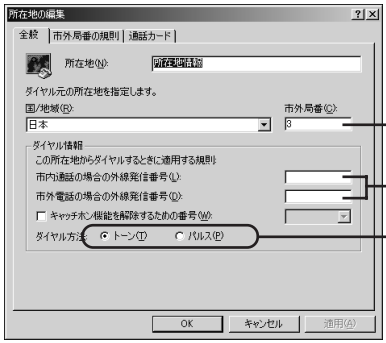
「市外局番/エリア コード」欄に0を除いた市外局番を入力し、「OK」ボタンをクリックすると、「電話とモデムのオプション」画面が表示されます。
必要な項目を確認して、設定してください。

携帯電話など必ず市外局番からダイヤルする必要のある環境で使用する場合は、市外局番の欄を「000」に設定してください。

2 「ダイヤル情報」タブで、設定したい所在地名を選んでから「編集」ボタンをクリックする

新規にダイヤル設定を行いたい場合は、「新規」ボタンをクリックし、表示された「新しい所在地」画面で設定を行ってください。

3 「所在地の編集」画面で設定を行う



使用する場所の0を除いた市外局番を入力する。
携帯電話など、市外局番からダイヤルする必要がある場合は、「000」を入力する。

外線発信番号が必要な回線の場合は入力する。

プッシュ回線を使用する場合は「トーン」、ダイヤル回線の場合は「パルス」に設定してください。
回線の種類が不明の場合は、NTTにお問い合わせください。

4 設定が終わったら、「OK」ボタンをクリックする

通信機能使用上の注意

- 内蔵FAXモデムは一般電話回線のみに対応しています。
- 構内交換機(PBX)の種類によっては内蔵FAXモデムが使用できない場合があります。
- 加入電話回線がトーン式かパルス式かわからない場合は、NTTに確認してください。
- 回線の状態によっては、接続しにくかったり、通信時に雑音が入ることがあります。
- キャッチホンサービスを受けている場合、モデムで通信中に電話がかかってくると、モデムによる通信が切れる場合があります。
- ダイヤルアップネットワーク接続の場合、インターネットエクスプローラを終了しても回線が接続されたままになっている場合があります。
  回線を切断する必要がある場合は、インジケータ領域(タスクトレイ)の「ダイヤルアップネットワーク」アイコンを右クリックし、表示されたメニューから「切断」をクリックしてください。
- コードレスホンや親子電話などの加入電話回線以外の回線をお使いの場合は、正常なデータの送受信ができなくなる場合があります。
- 回線の状態によっては、希望の通信速度で通信できない場合があります。
- 電話局の交換機の種類によっては、14400bpsでのファクシミリ通信ができないことがあります。この場合には、通信速度を9600bpsにしてください。
- データ通信を行う場合、フロー制御はRTS/CTSに設定してください。それ以外に設定すると、データ抜けが生じる可能性があります。
- 通常の電話回線を使用する場合、送信レベルは購入時の設定から変更する必要はありません。ただし、回線状態が悪く、うまく接続できない場合には、送信レベルの調整が必要なことがあります。送信レベルの調整は、工事担任者以外が行うことは法律で禁じられていますので、当社指定のサービス窓口にお問い合わせください。
- 本機に内蔵されているモデムは、海外では使用できません。
- 海外と直接接続した場合、伝送路の特性のため正常に通信できない可能性があります。
- ITU-T V.90の最大受信速度56,000bpsは、理論値であり、加入電話回線での通信速度とは異なります。

・ハイパーターミナルなどを使って通信する場合、ATコマンドが必要です。詳しくは、下記のREADMEファイルをご覧ください。

Windows Me／Windows 98の場合：

C:¥Windows¥SCmodem¥Atc¥Html¥Atc000.HTM

Windows 2000／Windows NT 4.0の場合：

C:¥WINNT¥SCmodem¥Atc¥Html¥Atc000.HTM

・回線を使って通信中はスタンバイ状態または休止状態にしないでください。

・Windows NT 4.0をお使いの場合、BIOSセットアップメニューの「省電力管理(Power)」メニューの「省電力(Power Savings Level)」を「使用しない(Disabled)」に設定してください。

・分岐アダプタを使って本機と電話機などの両方を電話回線に接続している場合、本機で回線を使用中は、電話機などの受話器を外さないでください。本機の通信が妨害され、切断されることがあります。

・接続する電話機などの種類によっては、動作しない機種があります。

・接続する電話機などの種類によっては、内蔵FAXモデムが正常に通信できない場合があります。内蔵FAXモデムが正常に通信できない場合は、以下のいずれかの方法で、正常に通信できるようになります。

- 接続する電話機などにアース接続用の端子がある場合は、アース線をつなぐ
- 内蔵FAXモデムで通信を行う場合は、電話機などを取り外す

・内蔵FAXモデムで通信を行う場合は、使用していないアプリケーションを終了してください。

インターネットへの通信環境を切り替える

インターネット設定切替ツールを使うと、複数のダイヤルアップ接続を使い分けたり、ダイヤルアップ接続からLAN接続へ切り替えたりと、利用シーンに応じて通信環境を切り替えることができます。
パソコンを携帯して、外出先でインターネットを利用する場合などに便利な機能です。

チェック!!

- **インターネット設定切替ツールは、購入時にはインストールされていません。インターネット設定切替ツールを使用する場合は、添付の「アプリケーションCD-ROM/マニュアルCD-ROM」を使ってインストールします。インストール方法は、『活用ガイド ソフトウェア編』の「添付アプリケーションの概要と追加/削除」をご覧ください。**
- **インターネット設定切替ツールを使うには、ダイヤルアップネットワークの情報が必要です。ダイヤルアップネットワークが設定されていない場合は、インターネット設定切替ツールは起動できません。**
- **LANを使った接続を行うには、あらかじめネットワークの設定をしておく必要があります。**
- **インターネット設定切替ツールは、Outlook 2000には対応していますが、Outlook 2002では対応していません。**

◎ インターネット設定切替ツールを起動する

インターネット設定切替ツールは、本機の起動時にアイコン化してインジケータ領域(タスクトレイ)に常駐します。

1 インジケータ領域(タスクトレイ)の をダブルクリックする

次の画面が表示されます。

この画面には、ダイヤルアップの接続情報が3つまで表示されます。使用したいダイヤルアップの接続情報が表示されていない場合は、 または をクリックして表示させてください。

はじめてインターネット設定切替ツールを起動した場合は、インターネット設定切替ツールのウィザードが表示されます。ウィザードにしたがって設定を行ってください。

◆ インターネット設定切替ツールを終了する

1 **インジケータ領域(タスクトレイ)の を右クリックし、表示されたメニューから「インターネット設定切替ツールの終了」をクリックする**

◎ インターネット設定切替ツールを使うための設定をする

◆ ダイヤルアップ接続の情報を登録する

外出先でインターネットに接続する場合などは、あらかじめインターネット設定切替ツールに新しいダイヤルアップ接続の情報を登録しておきます。

1 **「インターネット設定切替ツール」画面の「プロパティ」ボタンをクリックする**

「プロパティ」画面が表示されます。

2 **「ボタン設定」タブをクリックする**

3 **「ダイヤルアップ」の をクリックして にし、「追加」ボタンをクリックする**

4 **新しく登録する接続名を入力して、「次へ」ボタンをクリックする**

5 **プロバイダに接続するための電話番号、国番号を入力し、「次へ」ボタンをクリックする**

「新しいダイヤルアップ　ネットワーク接続が次の名前で作成されました。」と表示されます。

6 **接続名を確認して、「完了」ボタンをクリックする**

7 **「OK」ボタンをクリックする**

新しいダイヤルアップ情報が登録されます。

◆ ダイヤルアップ接続の情報を修正する

登録した情報を修正したい場合は、次の手順で行います。

1 **「ダイヤルアップ接続の情報を登録する」の手順1〜2を行う**

2 **登録されているダイヤルアップ接続から、変更するものをクリックする**

3 **「修正」ボタンをクリックする**

4 **表示された画面でダイヤルアップ接続の内容を変更する**

◆LAN接続へ切り替えるための設定を行う

インターネット設定切替ツールで、LAN接続への切り替えを利用したい場合は、次の手順で設定を行っておいてください。

1 **「インターネット設定切替ツール」画面の「プロパティ」ボタンをクリックする**

「プロパティ」画面が表示されます。

2 **「環境設定」タブをクリックする**

3 **「LANを使用する」の□をクリックして☑にし、「OK」ボタンをクリックする**

これでインターネット設定切替ツールでLAN接続への切り替えができるようになります。

◆接続環境を反映するメールソフトを選ぶ

インターネット設定切替ツールで接続環境を切り替えたときに、切り替えた接続環境の情報をどのメールソフトに反映するかを選んでおきます。
接続環境を変更すると、メールソフトでも新たにその接続環境を設定しておく必要があるのですが、ここで選んだメールソフトは、メールソフト側で設定変更することなく使えるようになります。

> インターネットエクスプローラは、接続環境の切り替えを自動的に認識しますので、ここで設定する必要はありません。

1 **「LAN接続へ切り替えるための設定を行う」の手順1～2を行う**

2 **「切り替えるAPを選択してください」欄で、接続環境を反映するメールソフトの□をクリックして☑にする**

3 「OK」ボタンをクリックする

これで通信環境を切り替えるための設定ができました。

インターネット設定切替ツールで、より詳細な設定を行いたい場合は、「詳細設定」をご覧ください。

◎ 接続環境を切り替える

1 「インターネット設定切替ツール」を起動する

2 切り替える接続環境名をクリックする

インジケータ領域(タスクトレイ)の を右クリックし、表示されたメニューから切り替える接続環境名をクリックして切り替えることもできます。

これでインターネットへの接続環境が切り替わります。

◎ 詳細設定

接続環境の詳細設定は「プロパティ」画面で行います。

① 接続先の選択

設定を行いたい接続の種類(ダイヤルアップまたはLAN接続)の をクリックして にします。

② 接続名表示欄

登録されているダイヤルアップ接続名が表示されています。接続名の☐をクリックして☑にすると、メイン画面やインジケータ領域(タスクトレイ)からのメニューにダイヤルアップ接続環境名として表示されるようになります。

③「更新」ボタン

登録してあるダイヤルアップの接続情報を自動更新することができます。インターネット設定切替ツールで接続環境を設定したあとで、インターネット設定切替ツールを使用せずに直接ダイヤルアップ接続の設定を追加や削除した場合は、このボタンをクリックしてください。現在のダイヤルアップ接続の情報が取り込まれ、インターネット設定切替ツールの環境設定に反映されます。

④「修正」ボタン

登録してあるダイヤルアップ接続の情報を変更することができます。

⑤ 所在地

「所在地を変更しない」を選んだ場合、接続環境を切り替えても所在地情報は変更されません。「所在地情報名」を選んだ場合は、接続環境を切り替えると、システム上の所在地情報に反映されます。

⑥ アカウントの選択

使用するメールソフトのどのアカウントに接続情報を反映するかを選ぶことができます。この項目を使用するには、メールソフトで複数のアカウントを作成しておく必要があります。

携帯電話／PHS接続機能

携帯電話またはPHSを接続することで、屋外でも手軽にインターネットや電子メールを利用できます。

チェック!! 携帯電話／PHS接続機能は、Windows Me、Windows 98、Windows 2000で使用できます。

携帯電話またはPHSとの接続

本機に携帯電話やPHSを接続して、屋外でもインターネットや電子メールを利用することができます。
携帯電話やPHSを接続するためのUSBケーブルが添付されてるモデルをお使いの場合は、添付のケーブルを使って接続してください。

携帯電話やPHSと接続するためのUSBケーブルが添付されていないモデルをお使いの場合、本機と携帯電話やPHSを接続するためには、別売のケーブルが必要になります。以下の中からいずれかのケーブルを購入してください。

・携帯電話(DoPa/PDC)接続ケーブル(PC-VP-WK05)
・cdmaOne接続ケーブル(PC-VP-WK06)
・PHS(NTTドコモ/アステル)接続ケーブル(PC-VP-WK07)
・PHS(DDIポケット)接続ケーブル(PC-VP-WK08)

お使いの携帯電話やPHSによって必要なケーブルが異なりますので、ケーブルを購入する際には、お使いの携帯電話やPHSに合ったケーブルを確認してください。

接続できる携帯電話またはＰＨＳについては、ＮＥＣのホームページ「121ware.com(ワントゥワンウェア ドット コム)」をご覧ください。
http://121ware.com/

◎ 携帯電話またはPHSを接続する

1 接続ケーブルのラベルが貼ってあるほうのプラグを、携帯電話またはPHS本体に接続する

プラグの向きに注意し、カチッと音がして止まるまで軽く押し込んでください。

2 本機のUSBコネクタ(⭠)に、接続ケーブルのプラグを接続する

2つあるUSBコネクタのうち、どちらのUSBコネクタに接続してもかまいません。プラグの向きに注意して、止まるまで軽く押し込んでください。

参照 USBコネクタに接続する→PART2の「USBコネクタ」(p.196)

接続先を設定する

プロバイダなどへの接続先を、携帯電話またはPHSを使用した接続設定にする場合は、「ダイヤルアップネットワーク」で「新しい接続」を作成するときに、「モデムの選択」で次のものを選択してください。

・Windows Meモデル／Windows 2000モデルの場合

SunComm MultiMobile3 USB

・Windows 98モデルの場合

SunComm MultiMobile3

チェック!! **お使いの携帯電話またはPHSによっては、電話機側に設定が必要な場合や専用のアクセスポイントへの接続が必要な場合があります。詳しくは、携帯電話またはPHSのマニュアルをご覧ください。また専用のアクセスポイントについては、インターネットのサービスプロバイダにお問い合わせください。**

ダイヤル設定のしかた

ダイヤルの設定を確認または変更したい場合は、次の手順で行います。

■Windows Me／Windows 98の場合

1 「コントロールパネル」を開き、「テレフォニー」アイコンをダブルクリックする

◆「所在地情報」画面が表示された場合

市外局番の欄に0を除いた市外局番を入力し、「OK」ボタンをクリックします。再度、「ダイヤルのプロパティ」ボタンをクリックすると、「ダイヤルのプロパティ」画面が表示されます。必要な項目を確認して設定してください。

携帯電話またはPHSなど、必ず市外局番からダイヤルする必要のある環境で使用する場合は、市外局番の欄を「000」に設定してください。

◆「ダイヤルのプロパティ」画面が表示された場合

携帯電話、PHSの場合は、「000」を入力する

■Windows 2000の場合

1 「コントロールパネル」を開き、「電話とモデムのオプション」アイコンをダブルクリックする

「電話とモデムのオプション」画面が表示されます。
はじめてダイヤル設定を行う場合は、「所在地情報」画面が表示されます。このような場合は、次の「「所在地情報」画面が表示された場合」をご覧になり設定を行ってください。

◆「所在地情報」画面が表示された場合

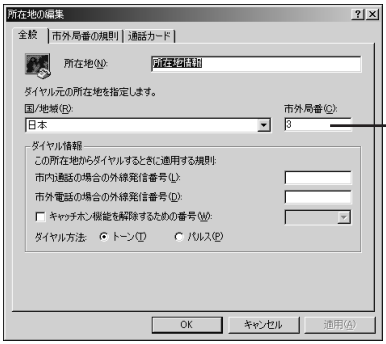
市外局番の欄に0を除いた市外局番を入力し、「OK」ボタンをクリックします。再度、「電話とモデムのオプション」ボタンをクリックすると、「電話とモデムのオプション」画面が表示されます。必要な項目を確認して設定してください。

携帯電話またはPHSなど、必ず市外局番からダイヤルする必要のある環境で使用する場合は、市外局番の欄を「000」に設定してください。

2 「ダイヤル情報」タブで、設定したい所在地名を選んでから「編集」ボタンをクリックする

新規にダイヤル設定を行いたい場合は、「新規」ボタンをクリックし、表示された「新しい所在地」画面で設定を行ってください。

3 「所在地の編集」画面で設定を行う



携帯電話、PHSの場合は、「000」を入力する

4 設定が終わったら、「OK」ボタンをクリックする

携帯電話／PHS接続機能使用上の注意

ハイパーターミナルなどを使って通信する場合、ATコマンドが必要です。詳しくは、下記のREADMEファイルをご覧ください。

・Windows Me／Windows 98の場合：
C:¥Windows¥SCmodem¥Atc¥Html¥Atc000.HTM

・Windows 2000／Windows NT 4.0の場合：
C:¥WINNT¥SCmodem¥Atc¥Html¥Atc000.HTM

いろいろなデータ通信を行う

本機の携帯電話／PHS接続機能では、通常のデータ通信のほかに、次のようなデータ通信を行うことができます。

・cdmaOneによるデータ通信
・NTTドコモのDoPaサービスによるデータ通信
・NTTドコモのドッチーモによるPIAFS32Kデータ通信
・NTTドコモのドッチーモによるPIAFS64Kデータ通信
・NTTドコモの64K対応PHSによるデータ通信
・DDIポケットの32K対応電話機によるPIAFS32Kデータ通信
・DDIポケットのH"(エッジ)によるPIAFS64Kデータ通信

これらのデータ通信をご利用になる場合には、それぞれのデータ通信に対応した接続ケーブルと、「ダイヤルアップの接続」画面での設定が必要になることがあります。

チェック!! これらのデータ通信をご利用になるときは、アクセスポイントがご利用のデータ通信に対応していることを確認してください。対応していないデータ通信方式で接続すると、接続できなかったり、正常に通信できないことがあります。

		必要な接続ケーブル	ダイヤルアップの設定
cdmaOne※1		cdmaOne接続ケーブル(PC-VP-WK06)	必要ありません。
NTTドコモ	DoPaサービス(パケット通信サービス)	携帯電話(DoPa/PDC)接続ケーブル(PC-VP-WK05)	「ダイヤルアップの接続」画面で、電話番号の最後に「##02」を追加する必要があります。※2
	PHS(64K対応機種)	携帯電話(NTTドコモ/アステル)接続ケーブル(PC-VP-WK-07)	「ダイヤルアップの接続」画面で、電話番号の最後に「##4」を追加する必要があります。
	ドッチーモ(PIAFS64K機種)※3	携帯電話(DoPa/PDC)接続ケーブル(PC-VP-WK05)	「ダイヤルアップの接続」画面で、電話番号の最後に「##4」を追加する必要があります。
	ドッチーモ(PIAFS32K機種)※3	携帯電話(DoPa/PDC)接続ケーブル(PC-VP-WK05)	「ダイヤルアップの接続」画面で、電話番号の最後に「##3」を追加する必要があります。※4
DDIポケット	PIAFS32K対応電話機	PHS(DDIポケット)接続ケーブル(PC-VP-WK08)	「ダイヤルアップの接続」画面で、電話番号の最後に「##3」を追加する必要があります。※4
	H"(エッジ)	PHS(DDIポケット)接続ケーブル(PC-VP-WK08)	「ダイヤルアップの接続」画面で、電話番号の最後に「##4」を追加する必要があります。※5

※1:データ通信を行うには、データ通信モードを「Async」に設定する必要があります。Packet通信モードをご利用になる場合は、データ通信モードを「Packet」に変更してください。データ通信モードの切り替えについては、cdmaOneの取り扱い説明書をご覧ください。

※2:DoPaサービスを利用せずに9600bpsデータ通信を行う場合、この設定は必要ありません。

※3:ドッチーモでPIAFS通信を行う場合には、ドッチーモの待ち受けモードを「PHS専用」に切りかえる必要があります。

※4:NTTドコモ、アステル、DDIポケットのPHSをお使いの場合は、この設定は必要ありません。

※5:一部の地域では64Kbpsでのデータ通信ができないことがありますが、32Kbpsで接続されます。また、次のような場合にも、64Kbpsでなく、32Kbpsで接続されることがあります。

- **電話番号の最後に「##4」を追加しなかった場合**
- **回線が混雑している場合**

LAN(ローカルエリアネットワーク)

ここでは、LAN内蔵モデルについての説明をしています。

LANへの接続

本機の内蔵LANボードは、100BASE-TXまたは10BASE-Tネットワークシステムに接続することができます。

> 100BASE-TXは、従来のEthernet(10BASE-T)の環境で転送速度100Mbpsを実現したネットワークです。従来のネットワーク構成を変更せずに既存のハブやリンクケーブルを変更するだけで、高速化がはかれます。本機は、どちらの環境にも接続することができます。

◎ LANの設置

はじめて100BASE-TXネットワークを設置するためには、配線工事などの技術が必要ですので、ご購入元または当社指定のサービス窓口にお問い合わせください。また、本機に接続するケーブル類やハブなどは、弊社製品を使用してください。他社製品を使用し、システムに異常が発生した場合の責任は負いかねますので、ご了承ください。

◎ 接続方法

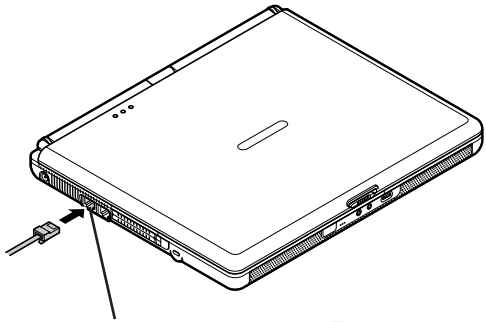
既存のネットワークに、端末として本機を接続する場合について説明します。

ネットワークへの接続には、リンクケーブルが必要です。
本機に内蔵されているLANインターフェイスは、100Mbpsで動作する100BASE-TX基準を満たしています。100BASE-TX(100Mbps)で使用する場合には、必ずカテゴリ5のリンクケーブルを使用してください。10BASE-T(10Mbps)で使用する場合には、カテゴリ3または5のリンクケーブルを使用してください。

チェック!! **本機を稼働中のネットワークに接続するには、システム管理者またはネットワーク管理者の指示にしたがって、ネットワークの設定やリンクケーブルの接続を行ってください。**

1 **本機を使用中の場合は、本機の電源を切る**

2 **リンクケーブルの一端を、本機のLAN用モジュラーコネクタ(品)に、奥までしっかり差し込む**



3 **リンクケーブルのもう一方を、ネットワーク(100BASE-TXハブなど)に接続する**

ネットワーク側の接続や設定については、接続するネットワーク側の機器のマニュアルをご覧ください。

運用上の注意

LANに接続して本機を使用する場合は、次の点に注意してください。

・システム運用中は、ハブからリンクケーブルを外さないでください。ネットワークが切断されます。ネットワーク接続中にリンクケーブルが外れた場合は、すぐに接続することで復旧し、使用できる場合もありますが、使用できない場合は、Windowsを再起動してください。

・LAN回線を接続してネットワーク通信をする場合は、本機にACアダプタを接続して使用するようにしてください。バッテリパックのみで使用すると、使用時間が短くなります。

・スタンバイ状態(サスペンド)または休止状態(ハイバネーション)では、ネットワーク機能がいったん停止します。ネットワークを使用するアプリケーションによっては、スタンバイ状態または休止状態になったときにデータが失われることがあります。ネットワークを使用するアプリケーションを使う場合は、システム管理者に確認のうえ、スタンバイ状態または休止状態を使用してください。

・Windows NT 4.0をお使いの場合、BIOSセットアップメニューの「省電力管理(Power)」メニューの「省電力(Power Savings Level)」を「使用しない(Disabled)」に設定してください。
・100BASE-TX/10BASE-Tシステムの保守については、ご購入元または当社指定のサービス窓口にお問い合わせください。

◎ ユニバーサル管理アドレス

ユニバーサル管理アドレスは、IEEE(米国電気電子技術者協会)で管理されているアドレスで、主に他のネットワークに接続する場合などに使用します。ユニバーサル管理アドレスは、次の方法で確認することができます。

MS-DOSプロンプトに、次のコマンドを入力してください。

◆Windows Me/Windows 98の場合

Winipcfg.exe【Enter】

(ただし、TCP/IPプロトコルが必要です。)

◆Windows 2000/Windows NT 4.0の場合

NET CONFIG WORKSTATION 【Enter】

(「アクティブなネットワーク(ワークステーション)」という項目の( )内に表示されます。)

本機の運用管理

本機は、システム管理者が効率よく本機をマネジメントするための運用管理、セキュリティ、資源管理および遠隔操作や保守を行うための機能があります。システム管理者が効率よくパソコンをマネジメントするために、次のような手段や機能を利用することが効率的であるといわれています。

・一般のユーザが、Windowsのシステムに影響のあるファイルを変更や削除したり、アプリケーションをインストールできないようにする。
・機密データの漏洩、改ざん防止、コンピュータウイルスの侵入を防ぐため、外部からデータを取り込むフロッピーディスクドライブを使用できないようにする(ロックする)。
・アプリケーションのバージョンアップのために、必要なパソコンのハードウェア構成情報(メモリ容量、ハードディスクの空き容量など)、ソフトウェア構成情報を管理する。
・ハードウェアに異常が発生したことを一般ユーザやシステム管理者に通知する。

・システム管理者のパソコンから管理するパソコンの電源、システムを遠隔操作できる。

本機には、このような手段や機能を利用するために、次のようなマネジメント(運用管理)機能を備えています。

◎ クライアントモニタリング

「Intel® LANDesk® Client Manager 6 (with NEC Extensions)」により、離れたところにあるマシンから本機の状態を知ることができます。また、システム管理者が別売のPCMANAGERなどを利用して一括でクライアントPCの障害情報を監視できます。

参照 『活用ガイド ソフトウェア編』の「添付アプリケーションの概要と追加/削除」の「Intel® LANDesk® Client Manager 6(with NEC Extensions)」

・資源管理

本機のメモリ容量、ハードディスク容量などのハードウェア構成およびインストールされているアプリケーションについての情報を知ることができます。また、離れたところにあるマシンから、本機の情報を知ることができます。

・状態監視

障害監視機能が異常を検出すると、本機の状態監視アイコンやポップアップメニューにより異常を通知し、バックアップツールの連携操作などができます。また、離れたところにあるマシンから、本機の状態を知ることができます。

◎ リモートコントロール

離れたところにあるシステム管理者のマシンから本機を操作して、次の操作を行うことができます。

・本機のデータやシステムファイルなどのバックアップ
・ファイル転送
・アプリケーションのインストール
・アプリケーションの実行などの操作(アプリケーションによってはできないものがあります)

チェック!! この操作を行うには、システム管理者のマシンに次のアプリケーション(別売)が必要です。

・「DMITOOL Ver8.2(pcAnywhere™ 9.2 EX コンプリート版付)」

参照 『活用ガイド ソフトウェア編』の「添付アプリケーションの概要と追加/削除」の「pcAnywhere 9.2 EX」

「DMITOOL Ver8.2(pcAnywhere™ 9.2 EX コンプリート版付)」に関しての最新情報は、NECのホームページ「121ware.com(ワントゥワンウェアドット コム)」で提供しています。
http://121ware.com/

◎ ネットワークブート

管理者パソコンと接続し、次の操作を行うことができます。

チェック!! この機能を使用するには、別途同一LAN上の管理者パソコンで、別売のESMPRO/ClientManager Ver3.1以上のRemote Install Managerが設定されている必要があります。

・BIOSフラッシュ(BIOS ROMの書き換え)
・BIOS設定変更

上記の作業を行う際に、ネットワークからの起動が必要になった場合は、BIOSセットアップメニューを起動し、「起動(Boot)」メニューの「Networkブート(Network Boot)」を「使用する(Enabled)」に設定してください。本機起動時に「NEC」ロゴが表示されているときに【F12】を押すとネットワークブートが可能になります。

チェック!! 【F12】を押し続けても、ネットワークブートができないことがあります。この場合は、いったん電源を入れなおし、「NEC」のロゴが表示されたらすぐ、1秒おきに【F2】を数回押すことを何度か繰り返してください。

◎ リモートパワーオン機能(Remote Power On機能)の設定

本機におけるLANによるリモートパワーオン機能は次のとおりです。
・電源の切れている状態から電源を入れる(パワーオン)
・スタンバイモードから元の状態に戻す(Windows NT 4.0のみ)
・スタンバイ状態(サスペンド)からの復帰
・休止状態(ハイバネーション)からの復帰

本体およびLANボードがリモートパワーオンに対応しているパソコンでリモートパワーオン機能を使うように設定している場合は、本体の電源が切れているときも、LANボードの一部は通電されています。リモートパワーオン機能を利用するには、リモートパワーオンのパケットを発信するパソコンに、別売の「DMITOOL Ver8.2(pcAnywhere™ 9.2 EX コンプリート版付)」が、パワーオンのパケットを受信するパソコンにはBIOSの設定(リモート電源制御)が必要です。
電源が切れている状態や、スタンバイ状態(サスペンド)または休止状態(ハイバネーション)からリモートパワーオン機能を利用するためには、次の設定を行ってください。

チェック!! **リモートパワーオン機能の設定を行った場合は、購入時の設定で使う場合にくらべて、本機のバッテリの消費量が大きくなります。バッテリ駆動時間を優先して本機を使いたい場合は、リモートパワーオン機能の設定は行わずに購入時の設定で使用してください。**

◆ 電源の切れている状態からリモートパワーオン機能を利用するための設定

1 BIOSセットアップメニューを起動する(→p.205)

2 「省電力管理(Power)」メニューの「リモート電源制御(Remote Power On)」を「使用しない(Disabled)」以外に設定する

項目	機能
AC時のみ	LANによるパワーオン機能、スタンバイ状態(サスペンド)/休止状態(ハイバネーション)からの復帰機能がAC電源で使用している場合のみに働くモードです。リモートコントロール中、バッテリ切れにより操作不能におちいる心配がありません。
AC/電池駆動	LANによるパワーオン機能、スタンバイ状態(サスペンド)/休止状態(ハイバネーション)からの復帰機能が、バッテリ駆動でも働くモードです。
使用しない	リモートパワーオン機能は使用できなくなります。※

※: Windowsでの設定によっては、スタンバイ状態(サスペンド)/休止状態(ハイバネーション)からの復帰機能が働きます(AC駆動時のみ)。

◆ スタンバイ状態または休止状態からリモートパワーオン機能を利用するための設定(Windows Me／Windows 98／Windows 2000の場合)

チェック!! Windows 2000で以下の設定を行う場合は、Administrator権限を持つユーザで本機にログオンしてください。

1 「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする

「システムのプロパティ」画面が表示されます。

2 次の操作を行う

- **Windows Me／Windows 98の場合**
  「デバイス マネージャ」タブをクリックする
- **Windows 2000の場合**
  「ハードウェア」タブをクリックし、「デバイス マネージャ」ボタンをクリックする

3 「ネットワークアダプタ」の左の[+]をクリックする

4 表示されたLANアダプタをダブルクリックする

5 「電源の管理」タブをクリックする

6 以下の設定を行う

- **Windows Me／Windows 98の場合**
  - 「節電のためにコンピュータの電源を自動的に切る」を「オン」にします。
  - 「コンピュータのスタンバイ解除の管理をこのデバイスで行う」を「オン」にします。
- **Windows 2000の場合**
  - 「このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を元に戻すことができるようにする」を「オン」にします。
  - 「電力の節約のために、このコンピュータでこのデバイスの電源をオフにできるようにする」を「オン」にします。

◆スタンバイモードからリモートパワーオン機能を利用するための設定（Windows NT 4.0の場合）

1 BIOSセットアップメニューの「省電力管理（Power）」メニューの「リモート電源制御（Remote Power On）」を「使用しない（Disabled）」以外にする

2 「コントロールパネル」を開き、「Intel（R） PROSet II」アイコンをダブルクリックする

3 「Advanced」タブをクリックする

4 「Enable PME」を「Enable」にし、「OK」ボタンをクリックして「Intel（R） PROSet II」画面を閉じる

5 「はい」ボタンをクリックする

Windowsが再起動します。

チェック!! 前回のシステム終了が正常に行われなかった場合、リモートパワーオン機能を使用して電源を入れることはできません。一度電源スイッチを押して本機を起動し、もう一度正しい方法で電源を切ってください。

ワイヤレスLAN(無線LAN)

ここでは、ワイヤレスLAN(無線LAN)モデルについての説明をしています。

ワイヤレスLAN(無線LAN)機能を使う

ワイヤレスLAN(無線LAN)機能を使うと、次のようなことができます。

・他のパソコンとのファイルやプリンタの共有

・無線LANネットワークの構築

ワイヤレスLAN(無線LAN)について詳しくは、添付の『ワイヤレスLAN(無線LAN)について』をご覧ください。

PART

2

周辺機器を使う

別売の周辺機器の接続方法や注意事項などを説明しています。

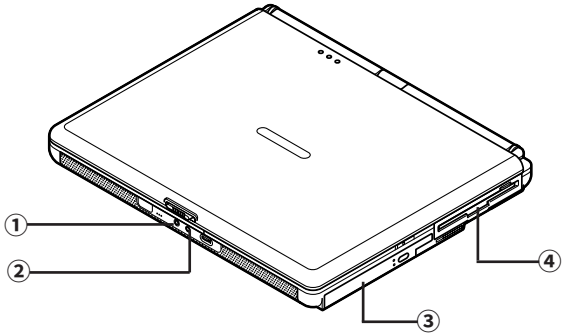
接続できる周辺機器

本機には、次のような別売の周辺機器を接続できます。

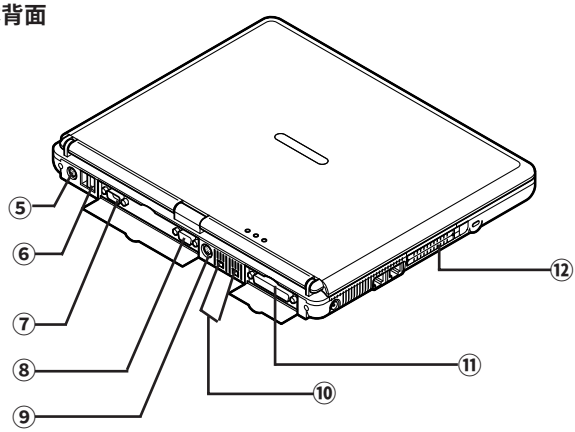
本体に接続できる周辺機器一覧

本機のそれぞれのコネクタや端子に接続できる周辺機器について説明します。

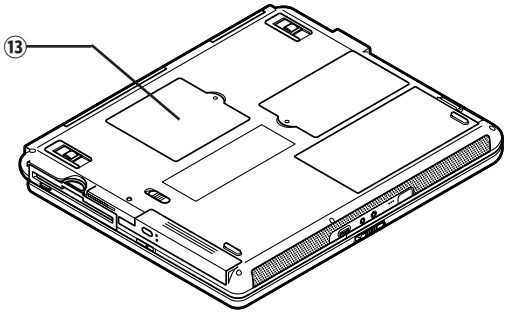
◆ 本体前面／右側面



◆ 本体背面



◆本体底面



名称	接続できる周辺機器
① 外部マイクロホン端子	マイクロホン
② ヘッドホン／ オーディオ出力端子	ヘッドホン、オーディオ機器など
③ VersaBay IV	セカンドハードディスクなど
④ MultiBay	セカンドバッテリパック
⑤ マウス／テンキーボード用コネクタ	マウス、テンキーボードなど
⑥ USBコネクタ	USB機器 USBマウス、USBテンキーボード、携帯電話、PHS端末など
⑦ シリアルコネクタ	ターミナルアダプタ
⑧ 外部CRT用コネクタ	CRTディスプレイ
⑨ S映像出力端子	テレビ
⑩ IEEE1394コネクタ	デジタルビデオカメラ
⑪ パラレルコネクタ	プリンタ
⑫ PCカードスロット	PCカード、SCSIインターフェイスカードなど （SCSIインターフェイスカードを使うと、MOドライブやハードディスクを接続できます）
⑬ メモリスロット	増設RAMボード

周辺機器の利用

プリンタや外部ディスプレイなど、本機に接続して使用する機器全般を、周辺機器といいます。本機には、さまざまな周辺機器を接続するためのコネクタやポートが用意されています。

周辺機器利用上の注意

⚠警告

感電注意

- **雷が鳴りだしたら、本機や電源コードに触れないでください。また、機器の接続や取り外しを行わないでください。落雷による感電のおそれがあります。**

⚠注意

感電注意

- **周辺機器の取り付け／取り外しをするときは、本機の電源を切ったあと、本機と周辺機器の電源コードを抜いてください。電源コードがACコンセントに接続されたまま、周辺機器の取り付け／取り外しをすると、感電の原因となります。**
- **濡れた手で電源コードを抜き差ししないでください。感電の原因となります。**

◎ 周辺機器の取り付け／取り外し時の注意

- 本機がスタンバイ状態（サスペンド）／休止状態（ハイバネーション）の場合は、周辺機器を取り付けたり取り外したりしないでください。本機がスタンバイ状態（サスペンド）／休止状態（ハイバネーション）の場合は、いったん復帰させてデータを保存し、電源を切ってから周辺機器の取り付けや取り外しを行ってください。
- 別売の周辺機器を取り付ける場合は、その周辺機器が本機に対応していることを確認してください。また、周辺機器によっては使用上の制限事項がある場合がありますので、周辺機器の説明書などをよくお読みになり使用してください。当社製以外の周辺機器を使用する場合は、機器の製造元／発売元などに上記の事項を確認してください。
- 周辺機器の取り付けや取り外しは、取扱説明書にしたがって正しく行ってください。

・周辺機器によっては、専用のケーブルが必要な場合があります。接続する前に確認のうえ用意してください。

◎ リソースの競合について

周辺機器を増設すると、他の機器とリソースが競合してどちらかが使えなくなることがあります。この場合は、以下の手順でリソースが競合しないように変更してください。

チェック!!

- **使用中のアプリケーションがある場合は、すべて終了しておいてください。**
- **Windows 2000またはWindows NT 4.0をお使いの場合は、Administrator権限を持つユーザで本機にログオンしてください。**

◆Windows Me／Windows 98／Windows 2000の場合

1 「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする

「システムのプロパティ」画面が表示されます。

2 次の操作を行う

- **Windows Me／Windows 98の場合**
  「デバイス マネージャ」タブをクリックする
- **Windows 2000の場合**
  「ハードウェア」タブをクリックし、「デバイス マネージャ」ボタンをクリックする

3 !や×が表示されていて動作しない周辺機器をダブルクリックする

4 「プロパティ」画面で「リソース」タブをクリックし、以下の設定を行う

- **Windows Me／Windows 2000の場合：**
  「自動設定」を□にします。
- **Windows 98の場合：**
  「自動設定を使う」を□にします。

5 競合しているリソースを「リソースの種類」一覧の中から選択し、ダブルクリックする

「競合するデバイス」または「競合の情報」欄に、競合しているデバイスと、競合しているリソースの種類が表示されます。

6 競合しないリソースの値を設定し、「OK」ボタンをクリックする

設定したリソースの値が他のデバイスと競合している場合、「競合の情報」欄に競合しているデバイスと競合しているリソースが表示されます。

チェック!! 他の周辺機器がそのリソースを使用している場合や、「この設定のリソースは変更できません」または「この構成のリソースを変更できません。」と表示された場合は、その値への変更はできません。

選択した周辺機器によっては「ポート番号」と「I/Oの範囲」など複数の変更が必要になることがあります。

7 リソースが競合していないことを確認し、「プロパティ」画面で「OK」ボタンをクリックする

「変更不可の環境設定の作成」または「変更不可の構成を作成しています」画面が表示されます。

8 「はい」ボタンをクリックする

もとの画面が表示されます。

Windows 2000をお使いの場合は手順9に進んでください。Windows MeまたはWindows 98をお使いの場合は手順10に進んでください。

もとの画面に戻るまでに、しばらく時間がかかることがあります。そのままお待ちください。

9 「デバイス マネージャ」画面を閉じる

10 「OK」ボタンをクリックし、「システムのプロパティ」画面を閉じる

11 Windowsを再起動する

◆Windows NT 4.0の場合

1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「管理ツール(共通)」→「Windows NT 診断プログラム」をクリックする

2 「リソース」タブをクリックし、「IRQ」ボタンをクリックする

3 現在使用しているIRQを確認して、リソースが競合しないように設定する

◎ 周辺機器を使えるようにデバイスドライバをセットアップする

周辺機器を使うには、接続した周辺機器用のデバイスドライバを本機にセットアップする必要があります。デバイスドライバとは、本機と周辺機器との仲介をする周辺機器専用のソフトウェアのことで、ドライバと呼ぶこともあります。

チェック!! デバイスドライバが正しく組み込めなかった場合は、周辺機器が使用できないばかりか、本機の動作が不正になることがあります。その場合は、周辺機器のマニュアルにしたがって、再度デバイスドライバを正しく組み込んでください。

◆Windows Me／Windows 98／Windows 2000の場合

デバイスドライバのセットアップ方法は、周辺機器がプラグ＆プレイ機能に対応しているかどうかによって異なります。

- **「プラグ＆プレイ機能」対応の周辺機器の場合**

  機器を本機に接続してWindowsを起動すると、自動的にドライバの設定が行われ、機器が使用可能な状態になります。

> 本機にインストールされているWindows Me／Windows 98／Windows 2000には、プラグ＆プレイ機能用に多くの周辺機器のドライバがあらかじめ添付されています。接続しようとする周辺機器がプラグ＆プレイ機能に対応しており、かつ添付されたドライバの中に該当するものがあれば、周辺機器の検出と設定が自動的に行われます。

- **「プラグ＆プレイ機能」に対応していない周辺機器の場合**

  機器を本機に接続した後、ドライバの設定が必要な場合があります。設定の詳細は、本機やドライバに添付のREADMEファイルや周辺機器のマニュアルをご覧ください。

> READMEファイルは、「メモ帳」などのテキスト形式のファイルが開けるアプリケーションで見ることができます。

◆Windows NT 4.0の場合

ドライバの機能やセットアップ方法、問い合わせ先については、本機やドライバに添付のREADMEファイルや周辺機器のマニュアルをご覧ください。
新しいコンポーネントを追加または変更した場合は、再度「Microsoft Windows NT 4.0日本語版 Service Pack 6a」をインストールする必要があります。インストール方法など詳しくは、「スタート」ボタン→「プログラム」→「Service Pack 6」の「Service Pack 6について」をご覧ください。

> READMEファイルは、「メモ帳」などのテキスト形式のファイルが開けるアプリケーションで見ることができます。

◎ 周辺機器の電源を入れる／切る順序

本機に周辺機器を接続している場合は、次の順序で電源を入れたり、切ったりしてください。

◆ 電源を入れる

周辺機器の電源を入れる → 本機の電源を入れる

◆ 電源を切る

本機の電源を切る → 周辺機器の電源を切る

周辺機器の取り外しと再接続

周辺機器の中でも、USB対応機器、IEEE1394対応機器、PCカードなどは、本機の電源を入れたまま取り付け、取り外しができます。
ただし、インジケータ領域(タスクトレイ)にが表示されている周辺機器は、正しい手順で取り外しを行わないと、本機が正常に動作しなくなることがあります。取り外しを行う場合は、必ず次の手順で取り外しを行ってください。

1 インジケータ領域(タスクトレイ)にあるをダブルクリックする

「ハードウェアの取り外し」画面が表示されます。
が表示されていない場合は、以降の手順は必要ありません。

2 取り外したい周辺機器名またはPCカード名をクリックして、「停止」ボタンまたは「中止」ボタンをクリックする

周辺機器名やPCカード名が表示されていない場合は、手順5へ進んでください。

3 「ハードウェア デバイスの停止」画面で取り外したい周辺機器名やPCカード名をクリックして「OK」ボタンをクリックする

安全に取り外すことができるという内容のメッセージが表示されます。

4 「OK」ボタンをクリックする

5 「閉じる」ボタンをクリックして、「ハードウェアの取り外し」画面を閉じる

これで周辺機器またはPCカードを取り外すことができます。

同じ周辺機器を再接続する場合は、ドライバなどを再インストールする必要はありません。ただし、メッセージが表示されたり、画面が少しの間止まったように見えることがあります。メッセージが表示された場合はメッセージにしたがってください。画面が止まったように見える場合も機器の故障ではありません。しばらく待てば使用できます。

プリンタ

プリンタを使用するには、そのプリンタ機種に対応した専用のドライバが必要です。ドライバは通常フロッピーディスクなどの形でプリンタに添付されています。また、本機にも代表的なプリンタのドライバが数多く添付されています。

プリンタの接続

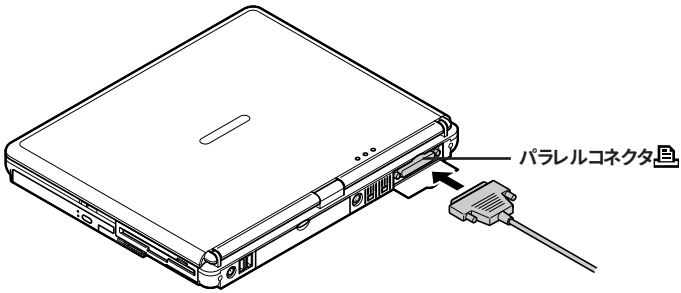
本機のパラレルコネクタにプリンタを接続する場合は、25ピンパラレルインターフェイスに対応したプリンタケーブルが必要です。
また、プリンタによっては、本機のUSBコネクタに接続できる機種もあります。

チェック!! 本機をWindows NT 4.0で使用している場合は、USBコネクタに機器を接続しても利用できません。

参照 USB対応プリンタを使う→このPARTの「USBコネクタ」(p.196)

1 本機を使用中の場合は、本機の電源を切る

2 本機のパラレルコネクタ(🖶)にプリンタケーブルの小さいほうのプラグを向き(上下)に注意して差し込む



3 プリンタケーブルの大きいほうのプラグをプリンタのコネクタに差し込む

接続についてはプリンタのマニュアルもご覧ください。

プリンタの設定

プリンタの設定は、使用するプリンタの機種ごとに、Windowsの「プリンタ」画面で行います。たとえば、会社で使うプリンタと家庭で使うプリンタの機種が異なる場合は、それぞれの機種に対して設定を行う必要があります。
プリンタの設定について詳しくは、お使いのプリンタのマニュアルをご覧ください。

マウス

本機では、添付または別売のマウスを使用することができます。ここでは、別売のマウスを使用するための手順を説明しています。

別売のマウスの設定方法

本機では、USBマウス、シリアルマウス、PS/2互換マウスを使用することができます。それぞれのマウスを使用するための設定方法については、次からの説明をご覧ください。

チェック!! **マウスドライバの変更を行う場合、一時的にマウスやNXパッドなどのポインティングデバイスが使用できなくなることがあります。その場合は次のようにキーボードを使ってWindowsを再起動してください。**

◆ キーボードでの再起動

①【Ctrl】を押しながら【Esc】を押す
②カーソル移動キーで「Windowsの終了」を選択し【Enter】を押す
③カーソル移動キーで「再起動」または「再起動する」を選択し、【Enter】を押す

◎ USBマウスを使用する

本機でUSBマウスを使用する場合は、以下の手順で設定を行ってください。

チェック!!
- **購入時はNXパッドドライバはインストールされていません。NXパッドドライバのインストールについては、PART1の「NXパッド」の「NXパッドドライバをインストールする」(→p.31)をご覧ください。**
- **マウスドライバの変更を行う場合は、使用中のアプリケーションをすべて終了させてください。**
- **Windows 2000で以下の設定を行う場合は、Administrator権限を持つユーザで本機にログオンしてください。**

1 「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする

「システムのプロパティ」画面が表示されます。

2 次の操作を行う

- **Windows Me／Windows 98の場合**
  「デバイス マネージャ」タブをクリックする
- **Windows 2000の場合**
  「ハードウェア」タブをクリックし、「デバイス マネージャ」ボタンをクリックする

3 次の項目の左の⊞をクリックする

- **Windows Me／Windows 98の場合**
  「マウス」
- **Windows 2000の場合**
  「マウスとそのほかのポインティング デバイス」

4 「NX PAD」をダブルクリックする

「NX PADプロパティ」または「NX PADのプロパティ」画面が表示されます。

5 「ドライバ」タブをクリックし、「ドライバの更新」ボタンをクリックする

「デバイス ドライバの更新ウィザード」または「デバイス ドライバのアップグレード ウィザード」画面が表示されます。

6 次の操作を行う

- **Windows Meの場合**
  「ドライバの場所を指定する（詳しい知識のある方向け）」の○をクリックして◉にし、「次へ」ボタンをクリックする
- **Windows 98／Windows 2000の場合**
  「次へ」ボタンをクリックする

7 次の項目の○をクリックして◉にし、「次へ」ボタンをクリックする

- **Windows Meの場合**
  「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を表示し、インストールするドライバを選択する」
- **Windows 98の場合**
  「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を作成し、インストールするドライバを選択する」
- **Windows 2000の場合**
  「このデバイスの既知のドライバを表示して、その一覧から選択する」

8 「モデル」欄から「標準PS/2ポートマウス」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする

チェック!!

- **「モデル」欄に「標準PS/2ポートマウス」が表示されていない場合は、「すべてのハードウェアを表示」または「このデバイスクラスのハードウェアをすべて表示」の○をクリックして◉にし、「製造元」欄から「標準マウス」を選択し、「モデル」欄から「標準PS/2ポートマウス」を選択してください。**
- **「ドライバ更新の警告」または「ドライバの更新警告」画面が表示された場合は、「はい」ボタンをクリックしてください。**

9 「次へ」ボタンをクリックする

必要なファイルがコピーされます。
「デバイスのインストールの確認」画面が表示された場合は、「はい」ボタンをクリックしてください。

10 次の操作を行う

- **Windows Me／Windows 98の場合**
  「ハードウェア デバイス用に選択したドライバがインストールされました。」と表示されたら、「完了」ボタンをクリックし、手順13に進んでください。
- **Windows 2000の場合**
  「デバイス ドライバのアップグレード ウィザードの完了」と表示されたら、「完了」ボタンをクリックし、手順11に進んでください。

チェック!! **ポインタが動かなくなった場合は、【Enter】を押してください。**

11 「閉じる」ボタンをクリックする

「システム設定の変更」画面が表示されます。

12 「はい」ボタンをクリックする

Windowsが再起動します。
Windows 2000をお使いの場合は、これで設定は完了です。
再起動後、USBマウスを接続してください。

チェック!! ポインタが動かなくなった場合は、【Enter】を押してください。

13 再起動のメッセージが表示された場合は「いいえ」ボタンをクリックする

14 「標準PS/2ポートマウスのプロパティ」画面の「閉じる」ボタンをクリックする

15 「システムのプロパティ」画面の「閉じる」ボタンをクリックする

16 Windowsを再起動する

「システムの設定変更」画面が表示された場合は、「はい」ボタンをクリックします。
Windowsが再起動します。
再起動後、USBマウスを接続してください。

参照 マウスドライバのインストール方法→各機器のマニュアル

◎ シリアルマウスを使用する

本機でシリアルマウスを使用する場合は、以下の手順で設定を行ってください。

チェック!! 接続するときは、必ず本機の電源を切ってから接続してください。

◆Windows Me／Windows 98の場合

1 シリアルマウスを本機のシリアルコネクタに接続する

2 「コントロールパネル」を開き、「ハードウェアの追加」アイコンをダブルクリックする

「新しいハードウェアの追加ウィザード」画面が表示されます。

3 「次へ」ボタンをクリックする

4 「次へ」ボタンをクリックする

5 「デバイスは一覧にない」の○をクリックして◉にし、「次へ」ボタンをクリックする

6 「はい(通常はこちらを選択してください)」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする

7 「プラグアンドプレイで検出されなかった新しいデバイスを検出します。」とメッセージが表示されたら、「次へ」ボタンをクリックする

チェック!! ハードウェアの検出には数分かかる場合があります。

8 ハードウェアの検出が完了したら「詳細」ボタンをクリックし、「シリアルマウス」が認識されたことを確認する

9 「完了」ボタンをクリックする

チェック!! シリアルマウスが動作しない場合は、Windowsを再起動してください。

◆Windows 2000の場合

1 シリアルマウスを本機のシリアルコネクタに接続する

2 「コントロールパネル」を開き、「ハードウェアの追加と削除」アイコンをダブルクリックする

「ハードウェアの追加と削除ウィザード」画面が表示されます。

3 「次へ」ボタンをクリックする

4 「次へ」ボタンをクリックする

「新しいハードウェアの検出」画面が表示されます。

チェック!! ハードウェアの検出には数分かかる場合があります。

5 検出されたシリアルマウスを選択し、「次へ」ボタンをクリックする

「ハードウェアの追加と削除ウィザードの完了」画面が表示されます。

6 「完了」ボタンをクリックする

チェック!! シリアルマウスが動作しない場合は、Windowsを再起動してください。

◎ PS/2互換マウスを使用する

本機でPS/2互換マウスを使用する場合は、以下の手順で設定を行ってください。

1 本機の電源を切る

2 マウス／テンキーボード用コネクタ(⌨／🖱)にPS/2互換マウスを接続する(→p.201)

マウスに専用のドライバが添付されている場合は、マウスのマニュアルにしたがってドライバの変更を行ってください。

◆Windows NT 4.0でPS/2互換ホイール付マウスを使用する場合

1 NXパッドドライバをインストールする(→p.31)

2 BIOSセットアップメニューを起動する(→p.205)

3 「詳細(Advanced)」メニューの「NXパッド&PS/2マウス(PS/2 Mouse)」を選ぶ

4 「自動(Auto)」に設定する

5 BIOSセットアップメニューを終了する

6 本機の電源を切る

7 マウス／テンキーボード用コネクタ(⌨／🖱)にPS/2互換マウスを接続する(→p.201)

NXパッドを使用する設定に戻す

NXパッドを使用するには、NXパッドドライバをインストールしてください。インストールについては、PART1の「NXパッド」の「NXパッドドライバをインストールする」(→p.31)をご覧ください。

他社製のマウスドライバを使用する場合の注意

他社製のマウスには、独自のマウスドライバが添付されているものがあります。他社製のマウスドライバのインストール、アンインストールは以下の手順で行ってください。

チェック!! マウスドライバを変更する場合は、使用中のアプリケーションをすべて終了させてください。

◎ 他社製のマウスドライバをインストールする

1 **「USBマウスを使用する」(→p.148)の手順を行い、マウスドライバを「標準PS/2ポートマウス」に設定する**

2 **他社製のマウスドライバをインストールする**

参照 マウスドライバのインストール→マウスのマニュアル

◎ 他社製のマウスドライバをアンインストールする

1 **他社製のマウスドライバをアンインストールする**

参照 マウスドライバのアンインストール→マウスのマニュアル

2 **「USBマウスを使用する」(→p.148)の手順を行い、マウスドライバを「標準PS/2ポートマウス」に設定する**

3 **「NXパッドドライバをインストールする」(→p.31)の手順にしたがってNXパッドドライバをインストールし、NXパッドを使用する設定に戻す**

外部ディスプレイ

本機にCRTディスプレイやプロジェクタ、テレビなどを接続することができます。CRTディスプレイの大画面で作業したり、プロジェクタを使ったプレゼンテーションなどが可能になります。

CRTディスプレイの接続

◎ CRTディスプレイ接続時の解像度と表示色

別売のCRTディスプレイでは、次の解像度と表示色を表示できます。

表示解像度(ドット)	水平走査周波数(KHz)	垂直走査周波数(Hz)	表示色		
			256色	65,536色	1,677万色
640×480	31.5	60	○	○	○
	37.5	75	○	○	○
	43.3	85	○	○	○
800×600	37.9	60	○	○	○
	46.9	75	○	○	○
	53.7	85	○	○	○
1,024×768	48.4	60	○	○	○
	56.5	70	○	○	○
	60.0	75	○	○	○
	68.6	85	○	○	○
1,280×1,024	64.0	60	○	○	○
	80.0	75	○	○	○
	91.1	85	○	○	○
1,600×1,200	75.0	60	○	○	○
	93.8	75	○	○	○

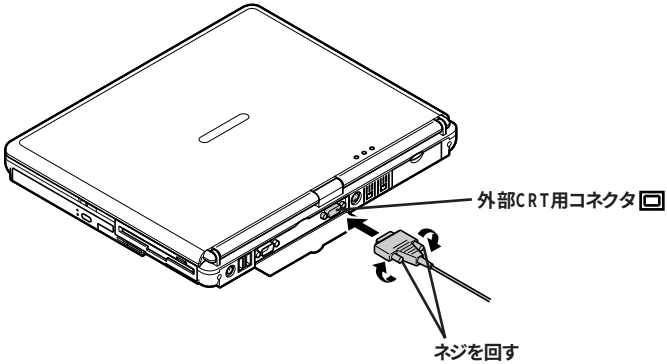
○：表示可能
×：表示不可能

チェック!! お使いになるCRTディスプレイによっては、上の表に記載されている走査周波数や解像度に対応していない場合があります。CRTディスプレイをご使用の際は、CRTディスプレイのマニュアルで、対応している走査周波数や解像度を確認してください。

◎ CRTディスプレイを接続する

1 **本機を使用中の場合は、本機の電源を切る**

2 **本体背面のカバーを開き、ディスプレイ用ケーブルを本機の外部CRT用コネクタ(▣)に差し込んで、ネジを回して固定する**



3 **本機にACアダプタを接続する**

CRTディスプレイを接続した場合、本機はACアダプタでお使いください。

プロジェクタの接続

本機には、別売のプロジェクタを接続することができます。プロジェクタは、プレゼンテーションなどに利用することができます。

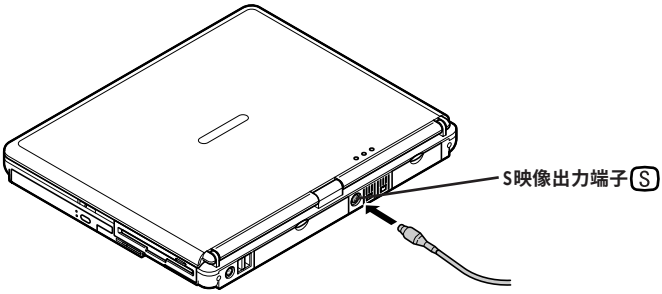
◎ 液晶プロジェクタと解像度について

別売の液晶プロジェクタを使用する場合は、プロジェクタのマニュアルを参考にして表示解像度などを確認してください。

テレビの接続

本機は、市販のビデオケーブルを使って、本機のS映像出力端子（Ⓢ）とテレビやビデオなどのS映像入力端子を持つ機器を接続し、パソコンの画面をテレビに出力することができます。

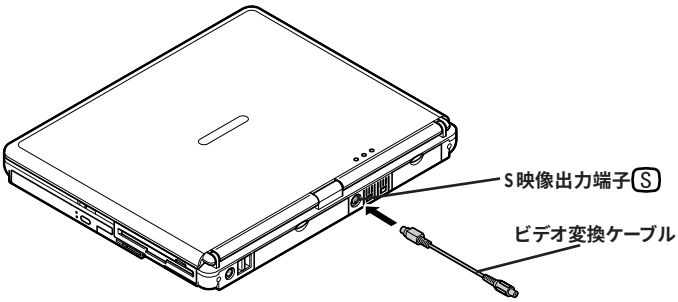
参照 テレビで表示できる解像度と表示色→PART1の「液晶ディスプレイ」（p.50）



◎ 映像入力端子を持つ機器と接続する

本機に映像入力端子を持つ機器を接続する場合は、添付のビデオ変換ケーブルを使います。

1 本機のS映像出力端子Ⓢに添付のビデオ変換ケーブルのプラグを接続する



2 市販のビデオケーブルを使って、ビデオ変換ケーブルのもう一方のプラグと映像出力端子を持つ機器を接続する

外部ディスプレイの設定

◎ 表示ディスプレイの切り替え

別売のCRTディスプレイなどを接続した場合、キーボードの【Fn】を使って、次のように表示するディスプレイを切り替えることができます。

機　　能	キー操作	説　　明
ディスプレイ切り替え	【Fn】+【F3】	別売のCRTディスプレイが接続されている場合、キーを押すごとに、「液晶ディスプレイとCRTの同時表示」→「テレビ」※→「液晶ディスプレイ」→「CRT」の順に切り替わります。

※：テレビが接続されている場合のみ切り替わります。

チェック!!

- **Windows NT 4.0起動時、液晶ディスプレイに何も表示されない場合は、【Fn】+【F3】を押して、液晶ディスプレイに表示を切り替えてください。**
- **キーボードの【Fn】を押しながら【F3】を押して画面の出力先を切り替える操作では設定が保持されないので、Windowsを再起動すると切り替える前の出力先に戻ってしまいます。**
  また、解像度や色数を変更した場合、またはスタンバイ状態や休止状態から復帰した場合にも画面の出力先が変わってしまうことがあります。このような場合は、再度【Fn】を押しながら【F3】を押して画面の出力先を切り替えてください。

◎ 表示するディスプレイを変更する

Windows Me、Windows 98を使用している場合、液晶ディスプレイ(LCD)、外部ディスプレイ(モニタ)、テレビに表示することができます。次の手順で変更してください。

1 「コントロールパネル」を開き、「画面」アイコンをダブルクリックする

「画面のプロパティ」画面が表示されます。

2 「設定」タブをクリックし、「詳細」ボタンをクリックする

3 「ATI画面」タブをクリックする

4 モニタ、パネル、テレビのボタンを押して設定し、それぞれの隣にあるボタンで表示するデバイスを決定する

モニタ、パネル、テレビのボタンの隣のボタンが水色の場合に表示がされ、グレーの場合にそのデバイスに表示されなくなります。

5 設定が終了したら「適用」ボタンをクリックし、表示が切り替わったことを確認したら、「OK」ボタンをクリックする

チェック!! DVD VIDEOディスク再生は「プライマリ」に設定されているデバイスでのみ表示可能となります。

◎ ディスプレイに合わせて本機を設定する

Windows Me／Windows 98／Windows 2000をお使いで、別売のCRTディスプレイを使用したときに、表示されたメッセージが適切でなかったり、プラグ&プレイに対応していないディスプレイの場合には、次の操作を行ってください。

1 「コントロールパネル」を開き、「画面」アイコンをダブルクリックする

「画面のプロパティ」画面が表示されます。

2 「設定」タブをクリックし、「詳細」ボタンをクリックする

3 次の操作を行う

- **Windows Me／Windows 98の場合**
  「モニタ」タブをクリックし、「変更」ボタンをクリックする
  「デバイス ドライバの更新ウィザード」画面が表示されます。手順6に進んでください。
- **Windows 2000の場合**
  「モニタ」タブをクリックし、「プラグアンドプレイモニタ」または「既定のモニタ」を選択し、手順4に進んでください。

4 「プロパティ」ボタンをクリックする

5 「ドライバ」タブをクリックし、「ドライバの更新」ボタンをクリックする

「デバイスドライバのアップグレードウィザード」画面が表示されます。

6 次の操作を行う

- **Windows Meの場合**
  「ドライバの場所を指定する(詳しい知識のある方向け)」の○をクリックして◉にし、「次へ」ボタンをクリックする
- **Windows 98/Windows 2000の場合**
  「次へ」ボタンをクリックする

7 次の項目の○をクリックして◉にし、「次へ」ボタンをクリックする

- **Windows Meの場合**
  「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を表示し、インストールするドライバを選択する」
- **Windows 98の場合**
  「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を作成し、インストールするドライバを選択する」
- **Windows 2000の場合**
  「このデバイスの既知のドライバを表示して、その一覧から選択する」

8 次の項目の○をクリックして◉にする

- **Windows Me/Windows 98の場合**
  「すべてのハードウェアを表示」
- **Windows 2000の場合**
  「このデバイス クラスのハードウェアをすべて表示」

9 「製造元」と「モデル」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする

一覧に、接続したディスプレイのモデルが表示されない場合は、「製造元」欄で「(標準モニタの種類)」を選択し、「モデル」欄で接続したディスプレイに対応した解像度を選択してください。

10 「次へ」ボタンをクリックし、再び「次へ」ボタンをクリックする

11 「完了」ボタンをクリックする

12 「閉じる」ボタンをクリックする

13 「OK」ボタンをクリックする

Windows Me、Windows 98をお使いの場合は、これでディスプレイの設定が完了しました。
Windows 2000をお使いの場合は、手順14に進んでください。

14 「OK」ボタンをクリックする

Windows 2000をお使いの場合は、これでディスプレイの設定が完了しました。

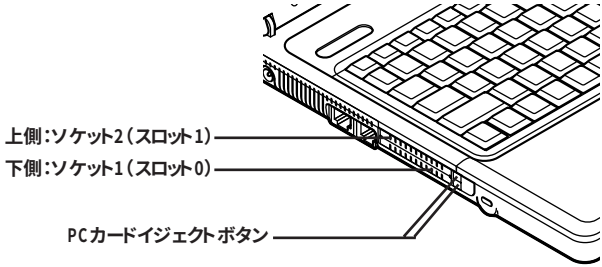
PCカード

本機ではPC Card Standard準拠のPCカードを使用できます。PCカードを使うことで、本機の機能を拡張したり、さまざまな周辺機器を接続することができます。

使用上の注意

◎ PCカードスロットについて

・TYPE IかTYPE IIのPCカードを上下のスロットに1枚ずつ2枚まで、または上下のスロットを合わせて1枚のTYPE IIIのPCカードを使用できます。
・CardBus対応のPCカードは、ソケット2(スロット1)またはソケット1(スロット0)の両方で同時に使うことができます。
・Windows NT 4.0でCardBus対応のPCカードを使用する場合、「CardBus対応PCカードの利用」(→p.172)をご覧ください。
・Windows 98のMS-DOSモードでは使用できません。
・本機のPCカードスロットでは、PC Card Standardに準拠していないPCカードは使用できません。対応していないPCカードを無理に押し込むと、故障の原因となります。



ワイヤレスLAN(無線LAN)モデルをお使いの場合、上側がソケット3(スロット1)、下側がソケット2(スロット0)となります。

◎ PCカードの取り扱いについて

PCカードは精密にできています。PCカードやスロットの故障を防ぐため、次の点に注意してください。

・高温多湿あるいは低温の場所に放置しないでください。
・濡らさないでください。
・重いものを乗せたり、ねじ曲げたりしないでください。

・ぶつけたり、落としたりして衝撃を与えないでください。
・PCカードの端子部分に金属などを差し込まないでください。

◎ PCカード使用時の注意

・Windows Me／Windows 98では、ATAカードをセットしていると、カードをセットしていないときよりもスタンバイ状態または休止状態になるまでに時間がかかります。
・Windows Me／Windows 98でマルチファンクションカードとATAカードを同時にセットして使用する場合は、上側のスロット(スロット1)にマルチファンクションカードを、下側のスロット(スロット0)にATAカードをセットしてください。
・Windows Me／Windows 98でCardBus対応PCカードのドライバをインストール中に、「例外エラー」が発生する場合があります。この場合、Windowsを再起動すると、正常にインストールを完了することがあります。

PCカードのセットのしかたと取り出し方

⚠注意

高温注意

●本機の使用中や使用直後はPCカードが熱くなっていますので、出し入れにご注意ください。

チェック!!

・PCカードには表と裏があり、スロットに差し込む方向も決まっています。まちがった向きで無理やり差し込むと、コネクタやスロットを破損するおそれがあります。

・本機がスタンバイ状態(サスペンド)または休止状態(ハイバネーション)の場合は、PCカードをセットしたり、取り出したりしないでください。本機の機器構成が変更されると、データが消失してしまうことがあります。

・アプリケーションを使用中は、PCカードをセットしたり、取り出したりしないでください。

・Windows NT 4.0で、CardWizard for Windows NTをセットアップしていない場合や、本機の電源が入っている状態でセット／取り出しできないPCカードを使用する場合は、本機の電源を切ってからPCカードのセット／取り出しを行ってください。

・ワイヤレスLAN（無線LAN）モデルでは、PCカードの取り出しを行う場合、「ハードウェアの取り外し」画面で「内蔵ワイヤレスLAN機能（ORiNOCO）」が表示されますが、誤って停止させないようにしてください。

◎ PCカードのセットのしかた

チェック!! Windows NT 4.0では、PCカードをセットする前に必ず電源を切っておいてください。

1 **PCカードの差し込む向きを確認し、ラベル面を上にして、水平に静かに差し込む**

◎ PCカードの取り出し方

◆Windows Me／Windows 2000／Windows 98の場合

1 **「周辺機器の利用」の「周辺機器の取り外しと再接続」（→p.144）の手順1～5を行う**

2 **PCカードイジェクトボタンを押す**
ボタンが手前に飛び出します。

3 **もう一度PCカードイジェクトボタンを押す**

4 **PCカードが少し出てくるので、水平に静かに引き抜く**

上記の手順以外の方法でPCカードを抜き取った場合は、「デバイスの取り外しの警告」または「予期しないPCカードの取り外し」画面が表示される場合があります。

◆Windows NT 4.0の場合

1 **本機の電源を切る**

2 **PCカードイジェクトボタンを押す**
ボタンが手前に飛び出します。

3 **もう一度PCカードイジェクトボタンを押す**

4 **PCカードが少し出てくるので、水平に静かに引き抜く**

PCカードの設定

PCカードを使用するには、次のような設定が必要な場合があります。

■Windows Me／Windows 98／Windows 2000の場合

◎ 割り込みレベルの設定

PCカードによっては、割り込みレベルの設定が本機の他の設定と重なる場合があります。PCカードのマニュアルと、このマニュアルのPART4の「割り込みレベルとDMAチャネル」(→p.233)をご覧になり、割り込みレベルが重なっていないか確認してください。割り込みレベルが重なる場合は、重ならないように設定を変更してください。

■Windows NT 4.0の場合

◎ FAXモデムカードの使用について

FAXモデムカードを使用する場合には、次の手順で設定してください。

チェック!! CardWizard for WindowsNTをセットアップした場合には、この設定は必要ありません。

1. FAXモデムカードがWindows NT 4.0で正しく認識されていることを確認する

1 PCカードスロットにFAXモデムカードをセットする

2 Windows NT 4.0を起動する

3 「コントロールパネル」を開き、「PCカード(PCMCIA)」アイコンをダブルクリックする

4 「ソケットの状態」タブをクリックする

5 目的のFAXモデムカードをポイントする

チェック!! 目的のFAXモデムカードの名前が表示されない場合は、PCカードが正しくセットできていない可能性があります。「PCカードのセットのしかたと取り出し方」(→p.163)をご覧になり、カードを正しくセットしなおしてください。

6 **「プロパティ」ボタンをクリックする**

7 **「カード情報」タブをクリックする**

FAXモデムカードがWindows NT 4.0で正しく認識されている場合には、「デバイスマップ」の画面が表示され、使用するFAXモデムカードのCOM番号が表示されます。
このCOM番号は、次のモデムのセットアップやリソース(IRQ)の変更(→p.168)の操作でも使用しますので、覚えておいてください。

チェック!! **「利用不可」と表示された場合は、FAXモデムカードのリソース(IRQ)が他のデバイスと競合している可能性があります。「FAXモデムカードのリソース(IRQ)を変更する」(→p.168)をご覧になり、FAXモデムカードのリソース(IRQ)を変更してください。**

2. モデムのセットアップを行う

FAXモデムカードをダイヤルアップネットワークなどで使用する場合には、モデムのセットアップが必要です。

1 **「コントロールパネル」を開き、「モデム」アイコンをダブルクリックする**

はじめてモデムをセットアップする場合には、自動的に「新しいモデムのインストールウィザード」画面が表示されます。
既にモデムがセットアップされている場合には、「モデムのプロパティ」画面が表示されます。「追加」ボタンをクリックすると「新しいモデムのインストールウィザード」画面が表示されます。

2 **「次へ」ボタンをクリックする**

自動的にモデムが検出され、使用するFAXモデムカードのCOM番号の部分に「標準モデム」と表示されます。

チェック!! **モデムが検出されなかった場合、FAXモデムカードに割り当てられているリソース(IRQ)が妥当でない可能性があります。「FAXモデムカードのリソース(IRQ)を変更する」(→p.168)をご覧になり、FAXモデムカードのリソース(IRQ)を変更してからモデムをセットアップしてください。**

3 **使用するFAXモデムカードにWindows NT 4.0用の .infファイルが添付されている場合は、.infファイルをインストールする**

① .infファイルの入ったフロッピーディスクを本機のフロッピーディスクドライブにセットする
②「変更」ボタンをクリックする
③「ディスク使用」ボタンをクリックする
④コピー元にフロッピーディスクドライブのドライブ名を入力し、「OK」ボタンをクリックする
⑤使用するFAXモデムカードの名称をクリックし、「OK」ボタンをクリックする
⑥使用するFAXモデムカードのCOM番号上のモデム名が変更されたことを確認し、「次へ」ボタンをクリックする
⑦「所在地情報」画面が表示された場合、所在地情報を入力し、「次へ」ボタンをクリックする
⑧「完了」ボタンをクリックする

チェック!! Windows NT 4.0用の .infファイルがない場合には、Windows Me、Windows 98用の .infファイルで代用できることもあります。ただし、Windows Me、Windows 98用の .infファイルすべてがWindows NT 4.0で正しく動作するわけではありません。
手順3の①の手順のあと③に進むか、または FAXモデムカードの通信速度に合った「(標準のモデム ドライバ)」に変更してください。

3. モデムのセットアップ状況を確認する

1 **「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」→「ハイパーターミナル」→「ハイパーターミナル」をクリックする**
「新しい接続」画面が表示されます。

2 **「キャンセル」ボタンをクリックする**

3 **「ファイル」メニューの「プロパティ」をクリックする**
「接続の設定」タブの画面が表示されます。

4 **「接続方法」欄から使用するモデム名をクリックする**

5 **「モデムの設定」ボタンをクリックする**

6 **「ポート」に正しいCOM番号が表示されているか確認し、よければ「OK」ボタンをクリックする**

7 **「OK」ボタンをクリックする**

8 **ハイパーターミナルの画面で「AT」と入力する**

「AT」と表示されます。

9 **【Enter】を押す**

モデムのセットアップが正しく行われている場合には、「OK」のメッセージが表示されます。
ハイパーターミナルの画面に「AT」と表示されず、「OK」のメッセージも表示されない場合は、Windows NT 4.0でFAXモデムカードが認識されていないか、モデムのセットアップが正常に終了していない可能性があります。
p.165をご覧になり、FAXモデムカードが正しくセットアップされているか確認してください。

◎ FAXモデムカードのリソース(IRQ)を変更する

FAXモデムカードがWindows NT 4.0で正しく認識されなかったり、正しく動作しない場合は、リソース(IRQ)が他のデバイスと競合している可能性があります。その場合は、次の手順でリソース(IRQ)を変更してください。

1 **本機で利用可能なリソース(IRQ)を確認する(→p.234)**

2 **「スタート」ボタン→「プログラム」→「管理ツール(共通)」→「Windows NT 診断プログラム」をクリックする**

3 **「リソース」タブをクリックする**

現在のリソース(IRQ)の設定状況が表示されるので、空いているリソース(IRQ)を確認してください。

> Windows NT 4.0では、FAXモデムカードは本機内蔵のシリアルポートと同じ「Serial」というデバイス名で表示されます。IRQ4の「Serial」は本機内蔵のシリアルポート、IRQ4以外の「Serial」がFAXモデムカードを表しています。

4 「コントロールパネル」を開き、「シリアルポート」アイコンをダブルクリックする

チェック!! 「コントロールパネル」の「PCカード(PCMCIA)」でデバイスマップが「利用不可」と表示されている場合は、ここでポートを追加する必要があります。次の手順でCOMポートを追加してください。

① 「追加」ボタンをクリックする
② 「OK」ボタンをクリックする
③ Windows NT 4.0の再起動のメッセージが表示されたら、「再起動しない」ボタンをクリックする

5 「FAXモデムカードの使用について」(→p.165)で確認したポートまたは上記の(チェック)で追加したポートをクリックする

6 「設定」ボタンをクリックする

7 「詳細」ボタンをクリックする

8 「I/Oポートアドレス」欄で「既定値」をクリックする

「既定値」を選ぶと、次のように設定されます。

COM1:3f8
COM2:2f8
COM3:3e8
COM4:2e8

9 「割り込み番号(IRQ)」欄から、現在空いているリソース(IRQ)をクリックする

10 「OK」ボタンをクリックする

11 Windows NT 4.0の再起動のメッセージが表示されたら、「再起動しない」ボタンをクリックする

12 「OK」ボタンをクリックする

13 「閉じる」ボタンをクリックする

14 **「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」をクリックする**

15 **「名前」欄に「c:¥nt40¥drivers¥reg」と入力し、「OK」ボタンをクリックする**

FAXモデムカードレジストリ設定ツールが起動し、「Serial*」と表示されます。

チェック!! **FAXモデムカードレジストリ設定ツールはレジストリを操作するため、使用方法を誤ると重大な障害が発生する可能性があります。使用に際しては、十分注意してください。またレジストリのバックアップをとっておくことをおすすめします。**

16 **「Serial*」の*の部分がFAXモデムカードのCOM番号-1の項目をクリックする**

p.169の①～③の手順でCOMポートを追加した場合には、追加した順番にSerial10000、Serial10001となります。

17 **「OK」ボタンをクリックする**

レジストリが書き換えられ、FAXモデムカードレジストリ設定ツールが終了します。

次回起動時より、設定／変更内容が有効になります。

◎ ATAカードの使用について

ATAカードを使用する場合、ATAカードのドライブ文字がCに割り当てられている場合があり、アプリケーションの起動などができなくなることがあります。このような場合は、次の手順で、「Atdisk」のスタートアップの種類を「ブート」から「システム」に変更してください。

1 **「コントロールパネル」を開き、「デバイス」アイコンをダブルクリックする**

2 **デバイスの一覧から「Atdisk」を選び、「スタートアップ」ボタンをクリックする**

3 **スタートアップの種類を「システム」に変更して「OK」ボタンをクリックする**

4 「Atdiskデバイスのスタートアップの種類を変更すると、システムは使用不能になる可能性があります。変更してもよろしいですか?」と表示された場合は、「はい」ボタンをクリックする

5 「閉じる」ボタンをクリックする

「デバイス」が終了します。

6 「コントロールパネル」を閉じる

7 Windows NT 4.0をシャットダウンして、再起動する

再起動後に、変更した設定が有効になります。

◎ 割り込みレベルの設定

PCカードによっては、割り込みレベルの設定が本機の他の設定と重なる場合があります。PCカードのマニュアルと、このマニュアルのPART4の「割り込みレベルとDMAチャネル」(p.233)をご覧になって、割り込みレベルが重なっていないか確認してください。割り込みレベルが重なる場合は、重ならないように設定を変更してください。

◎ PCカードデバイスドライバのインストール

PCカードのデバイスドライバは、PCカードに添付のマニュアルやWindows NT 4.0のヘルプなどをご覧になり、インストールを行ってください。

> PC カードの一覧に赤い「×」の付いたアイコンが表示されている場合は、Windows NT 4.0がそのデバイスに対応していないか、またはドライバが利用できないことを示します。詳細については、デバイスの製造元に問い合わせてください。

◆PCカードのリソースの設定を表示する

PCカードのリソースの設定を表示するには、次の設定を行ってください。

1 「コントロールパネル」を開き、「PCカード(PCMCIA)」アイコンをダブルクリックする

2 目的のPCカードをクリックする

3 **「プロパティ」ボタンをクリックして、「リソース」タブをクリックする**

PCカードのリソースの変更については、PCカードに添付のマニュアルなどをご覧ください。

◆Windows NT 診断プログラムでリソースの設定を表示する

Windows NT 診断プログラムでリソースの表示ができます。

1 **「スタート」ボタン→「プログラム」→「管理ツール(共通)」→「Windows NT 診断プログラム」をクリックする**

2 **「リソース」タブをクリックしてリソースの内容を確認する**

◎ CardBus対応PCカードの利用

CardBus対応PCカードを使用する場合は、CardWizard for Windows NTのインストールが必要です。(→p.175)
また、本機でPC-9821-CS01Xを使用する場合は、次の設定を行ってください。

1 **本機を使用中の場合は、本機の電源を切る**

2 **本機にPC-9821-CS01Xカードをセットする**

3 **本機の電源を入れる**

Windows NT 4.0起動後、CardWizard for Windows NTのウィザードが起動します。

4 **「修正」ボタンをクリックする**

5 **メッセージにしたがってネットワークアダプタの追加、または新規にネットワークをセットアップする**

・既にネットワークの設定がある場合

①表示されるメッセージにしたがって「OK」ボタンをクリックする

②「ネットワーク」画面が表示されたら「アダプタ」タブをクリックして「追加」ボタンをクリックする

・新規にネットワークをセットアップする場合

①表示されるメッセージにしたがって「OK」ボタンまたは「はい」ボタンをクリックする

②「ネットワークセットアップウィザード」で「ネットワークに接続」を選び、「次へ」ボタンをクリックする

③「ネットワークアダプタ」画面で「一覧から選択」をクリックする

6 「ネットワークアダプタの選択」画面が表示されたら「ディスク使用」ボタンをクリックする

7 次のディレクトリを指定して「OK」ボタンをクリックする
C:¥NT40¥NIHCRD

8 「OEM　オプションの選択」画面の一覧から「NEC　PC-9821-CS01X」を選んで「OK」ボタンをクリックする

9 ネットワークアダプタの検索画面に「NEC　PC-9821-CS01X」が表示されていることを確認して、「次へ」ボタンをクリックする

10 次のネットワークアダプタの構成を行う

Windows NTファイルを要求された場合、パスは「C:¥i386」と指定してください。

・ネットワークプロトコルの選択
・ネットワークサービスの選択
・ネットワークの設定の確認
・ネットワークに必要なファイルのコピー
・NEC　PC-9821-CS01Xの設定
・ネットワークバインドの調整
・ワークグループまたはドメインの参加

ここでは、ドメインの参加はできません。ドメインに参加する場合は、再起動してからネットワークコンピュータの「プロパティ」の「識別」タブで「変更」ボタンをクリックして行ってください。

11 ネットワークの設定が完了すると、再起動するか確認してくるので、「いいえ」ボタンをクリックする

12 **「スタート」ボタン→「プログラム」→「Service Pack 6」→「Service Pack 6のインストール」をクリックして「Microsoft Windows NT 4.0日本語版 Service Pack 6a」をインストールする**

ファイルコピー中に、「コピー先には、コピー元より新しいファイルが存在します。上書きしますか?」などのメッセージが表示された場合は、「すべて上書きしない」を選択してください。

13 **メッセージにしたがって、Windowsを再起動する**

チェック!! **CardWizard for Windows NTは、購入時にはインストールされていません。CardWizard for Windows NTを使用する場合は、「CardWizard for Windows NTの追加」(→p.175)をご覧になり、セットアップを行ってください。**

◆ 起動手順

1 **「スタート」ボタン→「プログラム」→「CardWizard for Windows NT」をクリックする**

チェック!!

- **CardWizard for Windows NT上では、PK-UG-J001(マルチファンクションカード)は使用できません。使用する場合は、「スタート」ボタン→「プログラム」→「CardWizard for Windows NT」にある「PC Card Activator」をクリックし、PC Card Activator画面の「CardWizardを使用不可にする」ボタンをクリックし、CardWizardを使用不可にしてから使用してください。**
- **使用可能なPCカードについては、CardWizard for Windows NTのオンラインヘルプおよびReadmeをご覧ください。**
- **後述の追加および削除を行う場合は、Administrator 権限を持ったユーザで行ってください。**
- **「コントロールパネル」の「PCカード(PCMCIA)」アイコンは使用できなくなります。**
  同アイコンをクリックすると正しい情報が表示されないことがありますが、PCカードの動作上は問題ありません。
- **PCカードをスロットから取り出す場合は、必ずCardWizardの「アクション」→「停止」を行ってから取り出してください。**

・ネットワークカードで、ホットスワップ(コンピュータの電源が入っている状態でスロットにPCカードをセット、あるいは取り出し)を行うためには、ホットスワップ・テストを行う必要があります。
ホットスワップ・テストは、ネットワークカードのセットアップを行った後、以下の手順で行ってください。

① 「スタート」ボタン→「プログラム」→「CardWizard for Windows NT」→「CardWizard for Windows NT」をクリックし、CardWizardを起動します。
② CardWizardの「アクション」→「ウィザード」または、「Wizard」ボタンをクリックします。
③ 「ウィザード」画面の「テスト」ボタンをクリックします。
④ 「ホットスワップ機能のテスト」画面の「OK」ボタンをクリックします。

・ホットスワップできないPCカード(SCSIカードなど)を使用している場合は、サスペンドおよびレジュームは行えません。

・CardWizard for Windows NT上でPCカードをホットスワップする場合は、同一のスロットで行ってください。他のスロットにセットする場合は、Windows NT 4.0を再起動する必要があります。

◎ CardWizard for Windows NTの追加

チェック!! 本機にPCカードがセットされていないことを確認してください。PCカードがセットされている場合は、Windows NT 4.0を終了し、本機の電源を切ってPCカードを抜いてから再起動してください。

1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「コマンド　プロンプト」をクリックする

2 キーボードから次のように入力して、【Enter】を押す

C:¥NT40¥CARDWIZ¥SETUP

3 「CardWizard for Windows NTのセットアップ」画面が表示されたら「次へ」ボタンをクリックする

4 「ようこそ」画面が表示されたら「次へ」ボタンをクリックする

5 **「質問」画面で、PCカードが本機にセットされていないことを確認するメッセージが表示されるので、「はい」ボタンをクリックする**

6 **「インストール先を選択」画面が表示されたら「次へ」ボタンをクリックする**

チェック!! **インストールするディレクトリは、特に必要のない限り、変更しないで既定値のままにしてください。**

ファイルのコピーが終了すると「READMEファイルを、いま表示しますか?」というメッセージが表示されます。

7 **「はい」ボタンをクリックする**

READMEファイルを参照したら、ファイルを閉じてください。

8 **「コンピュータをリスタート」画面が表示されるので、「はい、直ちにコンピュータを再起動します。」を選択し、「終了」ボタンをクリックする**

自動的に再起動します。

◎ CardWizard for Windows NTの削除

チェック!! **本機にPCカードがセットされていないことを確認してください。PCカードがセットされている場合は、Windows NT 4.0を終了し、本機の電源を切ってPCカードを抜いてから再起動してください。**

1 **「スタート」ボタン→「プログラム」→「CardWizard for Windows NT」にある「CardWizard for Windows NTインストール解除」をクリックする**

2 **「選択したアプリケーションとそのすべてのコンポーネントを完全に削除しますか?」と表示されたら「はい」ボタンをクリックする**

3 **「セットアップが CardWizard for Windows NTを取り除きました」画面が表示され、画面にアンインストールが完了したことが表示されたら「はい」ボタンをクリックする**

自動的に再起動します。

メモリ

オプションの増設RAMボードを付加することで、より多くのアプリケーションを同時に起動したり、大きなデータをより高速に扱うことができるようになります。

メモリ容量について

本機に使用できる増設RAMボードは次のとおりです。

型名	メモリ容量
PK-MM133SD128	128Mバイト
PK-MM133SD256	256Mバイト
PK-MM133SD512	512Mバイト

本機にはメモリスロットが2つあり、Windows MeまたはWindows 98をお使いの場合は最大512Mバイトまでメモリを増設することができます。
Windows 2000またはWindows NT 4.0をお使いの場合は最大1024Mバイトまでメモリを増設することができます。

メモリの取り付け方と取り外し方

⚠注意

感電注意

●増設RAMボードの取り付け／取り外しをするときは、本機の電源を切ったあと、電源コードとバッテリパックを取り外してください。電源コードやバッテリパックが取り付けられたまま増設RAMボードの取り付け／取り外しをすると、感電の原因となります。

チェック!!

- **増設RAMボードは静電気に大変弱く、身体に静電気を帯びた状態で増設RAMボードを扱うと破損する原因となります。増設RAMボードに触れる前に、アルミサッシやドアのノブなど身近な金属に手を触れて、静電気を取り除いてください。**
- **増設RAMボードのコネクタ部分には手を触れないでください。接触不良など、故障の原因となります。**
- **ボード上の部品やハンダ付け面には触れないよう注意してください。**
- **増設RAMボードを間違った向きで無理に取り付けようとすると、本機のコネクタ部や増設RAMボードが故障する原因となります。取り付け方向に注意してください。**

◎ 増設RAMボードの取り付け方

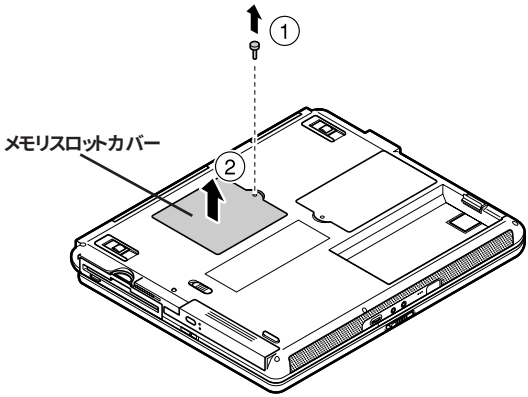
1 本機を使用中の場合は、本機の電源を切る

2 電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタを本機から取り外す

3 液晶ディスプレイを閉じて、本機を裏返す

4 バッテリパックを本機から取り外す(→p.64)

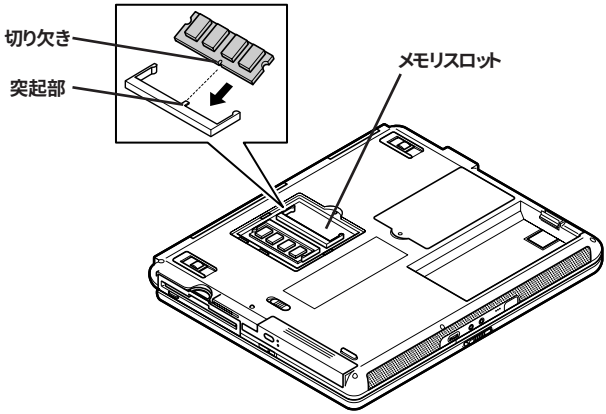
5 図のネジをプラスドライバで取り外し、メモリスロットカバーを取り外す



6 増設RAMボードの切り欠き部分を本機のコネクタの突起部に合わせ、本機コネクタに対して約30度の挿入角度で、増設RAMボードの端子が当たるまで挿入する

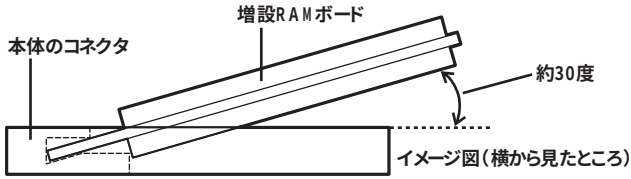
チェック!!

- 増設RAMボードの表と裏が逆の場合は、増設RAMボードの切り欠きとコネクタの突起部の位置が合わず、挿入することができませんので、よく確認してください。
- 増設RAMボードを手に持つ際は、増設RAMボードの両端面をつかむようにしてください。

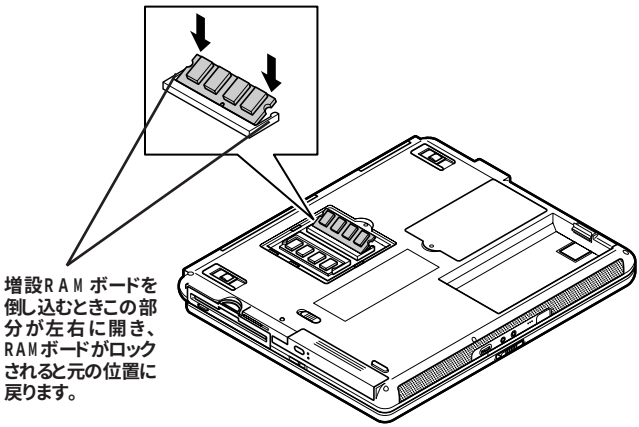


（実物はイラストと多少異なる場合があります）

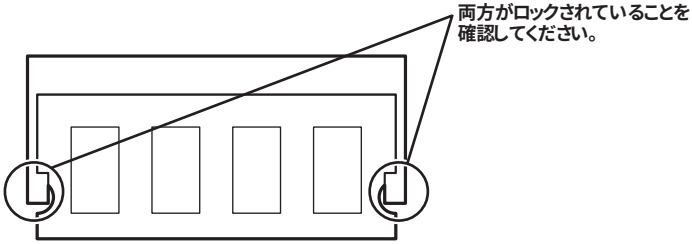
チェック!! 挿入するときに、固いことがありますが、奥までしっかり押し込んでください。しっかり押し込まずに次の手順を行うと、コネクタを破損するおそれがあります。



7 カチッと音がする位置まで増設RAMボードを本機のコネクタに強く倒し込む



チェック!! 増設RAMボードがコネクタにしっかりロックされたことを確認してください。



8 メモリスロットのカバーを元に戻し、外したネジを本機底面に取り付ける

9 バッテリパックとACアダプタを取り付ける

Windows 98の場合、休止状態の機能(→p.70)を使用する方は、続けて次の手順10〜11の操作を行ってください。設定を行わないと、休止状態の機能が使用できなくなります。
Windows Me、Windows 2000、Windows NT 4.0の場合、手順10〜11の操作は必要ありません。

10 本機の電源を入れる

チェック!! 起動直後にメッセージが表示されますが、ご使用上支障ありません。

11 休止状態の設定を解除したあと、休止状態を再設定する

「休止状態の設定の解除と再設定」(→p.76)の手順にしたがって設定を行ってください。

メモリ増設後は、次の「増設したメモリ(RAM)の確認」にしたがって、増設が正しく行われたかどうか確認してください。

◎ 増設したメモリ(RAM)の確認

増設が正常に行われ、メモリが本機に認識されているかどうかを確認します。

1 「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする

2 「全般」タブで右下に表示されている内容を確認する

「＊＊＊KB　RAM」または「＊＊＊MB　RAM」と表示されています。＊＊＊KBまたは＊＊＊MBが総メモリ容量です。

チェック!! システムの状態によっては、増設したメモリ分より容量が少なく表示される場合がありますが、故障ではありません。

メモリ容量が増えていない場合は、次のことを確認してください。

・増設RAMボードが正しく取り付けられているか
・本機で使用できる増設RAMボードを取り付けているか

◎ ハードディスクの空き容量を確認する

Windows Me、Windows 2000で休止状態の機能(→p.70)を使用する場合は、次の手順1～4の操作を行って設定を確認してください。増設したメモリ容量分、ハードディスクの空き容量が必要になります。

1 本機の電源を入れる

チェック!! 起動直後にメッセージが表示されますが、動作上問題ありません。

2 「コントロールパネル」を開き、次のアイコンをダブルクリックする

- **Windows Me／Windows 98の場合**
  「電源の管理」アイコン
- **Windows 2000の場合**
  「電源オプション」アイコン

「電源の管理のプロパティ」画面または「電源オプションのプロパティ」画面が表示されます。

3 「休止状態」タブをクリックする

4 「休止のためのディスク領域」欄で、「ディスクの空き領域」の値が「休止状態にするために必要なディスク領域」の値よりも大きいことを確認する

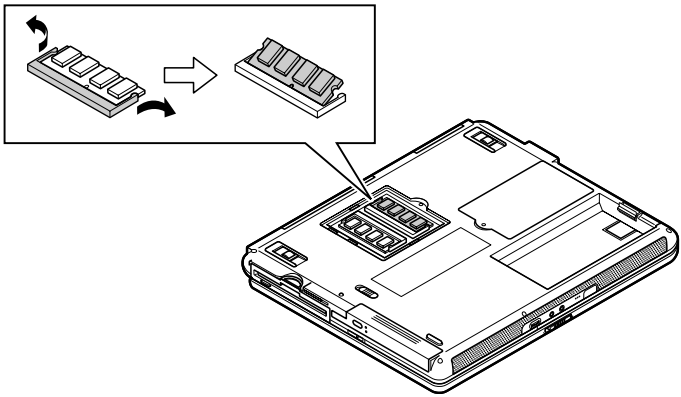
チェック!! 「ディスクの空き領域」の値が「休止状態にするために必要なディスク領域」の値より小さいと休止状態にできなくなります。このような場合は、不要なファイルを削除するなどしてディスクの空き領域を増やしてください。

◎ 増設RAMボードの取り外し方

1 「増設RAMボードの取り付け方」の手順1～5にしたがって、メモリスロットのカバーを取り外す

2 コネクタの両端部分を左右に押し広げる

増設RAMボードが図のように起き上がります。



チェック!!
- 増設RAMボードの基盤は薄いため、破損しないよう十分に注意してください。
- 増設RAMボード上の部品やハンダ付け面には、手を触れないよう注意してください。引き抜くときは、両端面をつかんで引き抜いてください。

3 そのまま増設RAMボードを斜めに引き抜く

4 メモリスロットのカバーを元に戻し、外したネジを本機底面に取り付ける

5 バッテリパックを取り付ける

Windows 98の場合、休止状態の機能(→p.70)を使用する方は、続けて次の手順6〜7の操作を行ってください。設定を行わないと、休止状態の機能が使用できなくなります。
Windows Me、Windows 2000、Windows NT 4.0の場合、手順6〜7の操作は必要ありません。

6 本機の電源を入れる

チェック!! 起動直後にメッセージが表示されますが、動作上問題ありません。

7 休止状態の設定を解除したあと、休止状態を再設定する

「休止状態の設定の解除と再設定」(→p.76)の手順にしたがって設定を行ってください。

IEEE1394コネクタ

IEEE1394コネクタを使用すると、高速にデータのやりとりが行えるようになります。

チェック!! IEEE1394は、Windows NT 4.0では利用できません。

IEEE1394とは

IEEE1394は、IEEE(米国電気電子技術者協会)で標準化された規格の一つで、パソコンと周辺機器のデータのやりとりを高速に行うことができるインターフェイスです。転送速度が早いので、動画などの容量の大きいデータもスムーズに転送することができます。
IEEE1394に対応している周辺機器には、デジタルビデオカメラやデジタルビデオデッキなどがあります。

IEEE1394対応機器を接続する

◎ 接続する前に

・このパソコンと、IEEE1394コネクタを持っている周辺機器を接続する場合は、別売のケーブルが必要です。このパソコンのIEEE1394コネクタは、4ピンのコネクタです。ケーブルを購入する際には、接続するパソコンや機器側のコネクタの形状も確認しておいてください。
・周辺機器によっては、IEEE1394に対応した端子のことを別の名称(DV端子など)で呼んでいる場合もあります。

◎ IEEE1394コネクタに接続する

1 本機のIEEE1394コネクタに、IEEE1394ケーブルのプラグを接続する

2つあるIEEE1394コネクタのうち、どちらのIEEE1394コネクタに接続してもかまいません。プラグの向きに注意して、止まるまで軽く押し込んでください。

チェック!! 接続するときは、プラグの向きに注意してください。間違った向きで無理に差し込もうとすると、本体側のコネクタやケーブルのプラグの故障または破損の原因となります。

2 ケーブルのもう一方のプラグを周辺機器に接続する

周辺機器との接続については、周辺機器のマニュアルをご覧ください。

◎ パソコン間でファイルを転送する

本機のIEEE1394コネクタと別のパソコンのIEEE1394コネクタを別売のIEEE1394接続ケーブルで接続すると、パソコン間でのファイルの転送ができるようになります。

チェック!! IEEE1394接続ケーブルは、接続先のコネクタ形状に合わせたケーブルを使用してください。

◆Windows Meの場合

接続にはホームネットワークの設定が必要です。
ホームネットワークを設定するには、「ホームネットワークウィザード」を使います。「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」→「通信」→「ホーム ネットワーク ウィザード」をクリックして、表示された画面にしたがって設定を行ってください。

◆Windows 98／Windows 2000の場合

接続にはドライバ(「IEEE 1394 Network Driver Ver.2.0」)が必要になります。ドライバは、以下のホームページから入手することができます。
http://121ware.com/

◎ IEEE1394コネクタから機器を取り外す

IEEE1394対応機器によっては、機器を接続するとインジケータ領域(タスクトレイ)に が表示されます。このような機器の取り外しは、 をダブルクリックして表示される「ハードウェアの取り外し」画面で行ってください。正しく取り外しを行わないと、本機が正常に動作しなくなることがあります。「周辺機器の利用」の「周辺機器の取り外しと再接続」(→p.144)をご覧になり、正しい手順で取り外しを行ってください。

VersaBay IV

本機のVersaBay IVでは、購入時に取り付けられているVersaBay IV用機器を取り外し、別売のVersaBay IV用オプション機器を取り付けて使用することができます。

VersaBay IVで使用できる機器

本機のVersaBay IVには次のような機器を取り付けて使用することができます。

- **セカンドハードディスク(PC-VP-WU13)**
- **CD-ROMドライブ(PC-VP-BU05)**
- **CD-R/RWドライブ(PC-VP-BU06)**
- **CD-R/RW with DVD-ROMドライブ(PC-VP-BU07)**

あらかじめ取り付けられている機器を取り外し、添付の拡張ベイカバー(VersaBay IV用)を取り付けることで、本体の質量を軽くすることができます。

チェック!!

- **セカンドハードディスクは、いったんBaySwapユーティリティを使って取り外した後、再度取り付けを行うと、Windowsを再起動するまでセカンドハードディスクの転送モードがPIOモードになります。**
- **ハードディスクのパスワードによるセキュリティを有効にしたセカンドハードディスクは、本機の電源が切れている状態で交換を行ってください。スタンバイ状態または休止状態中の交換や、BaySwapユーティリティを使用しての交換はできません。**

VersaBay IVの機器を交換するための準備

VersaBay IVに取り付けているCD-ROMドライブなどの機器を交換するときは、本機の電源が切れている状態のときだけでなく、本機の電源が入っている状態や、スタンバイ状態(サスペンド)または休止状態(ハイバネーション)中に交換することもできます。

Windows MeまたはWindows 98で、本機の電源が入っている状態のままVersaBay IVの機器を交換する場合は、BaySwapユーティリティを使用します。BaySwapユーティリティをはじめて使用する場合はセットアップが必要ですので、次の「BaySwapユーティリティをセットアップする」の手順でセットアップを行ってください。

チェック!! **BaySwapユーティリティをセットアップすると、VersaBay IVに取り付けられているCD-ROMドライブ、CD-R/RWドライブ、CD-R/RW with DVD-ROMドライブ、セカンドハードディスクなどは、取り外し可能(リムーバル)な機器として扱われます。**
このため、PCカードなど他の取り外し可能(リムーバル)な機器と同様、機器の取り付け、取り外しを行った後や、スタンバイ状態(サスペンド)または休止状態(ハイバネーション)から復帰した後に、CD-ROMドライブ、CD-R/RWドライブ、CD-R/RW with DVD-ROMドライブ、セカンドハードディスクの名前が変更されることがあります。

◎ BaySwapユーティリティをセットアップする

はじめてBaySwapユーティリティを使用する場合は、次の手順でセットアップを行ってください。

1 デスクトップ上の(BaySwap)をダブルクリックする
「設定言語の選択」画面が表示されます。

2 「日本語」が選択されていることを確認して「OK」ボタンをクリックする
「ようこそ」画面が表示されます。

3 「次へ」ボタンをクリックする
「インストール先の選択」画面が表示されます。

4 「次へ」ボタンをクリックする
「セットアップの完了」画面が表示されます。

5 「はい、直ちにコンピュータを再起動します。」が◉になっていることを確認して、「完了」ボタンをクリックする
Windowsが再起動します。

VersaBay IVの機器を交換する

◎ 電源が入っている状態で機器を交換する

電源が入っている状態で機器の交換をする場合は、Windows Meまたは Windows 98の場合は「BaySwapユーティリティ」を使用します。
Windows 2000の場合は「ハードウェアの取り外しまたは取り出し」を使用します。
次の手順にしたがって機器の交換を行ってください。

チェック!! **Windows NT 4.0をお使いの場合、電源が入っている状態で機器を交換することはできません。「スタンバイ状態／休止状態／電源が切れている状態で機器を交換する」(→p.191)をご覧ください。**

◆Windows Me／Windows 98の場合

1 インジケータ領域(タスクトレイ)の をクリックする

「VersaBay IV のデバイス(＊＊＊＊)を交換」と表示されます。
＊＊＊＊には、VersaBay IVに現在取り付けられている機器名が表示されます。何も取り付けられていない場合は「Empty」と表示されます。

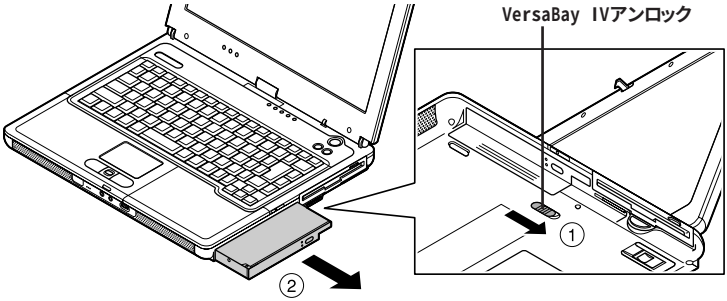
2 「VersaBay IV のデバイス(＊＊＊＊)を交換」をクリックする

「BaySwap」画面が表示されます。
デバイスを安全に取り外すことができるという内容のメッセージが表示されるのを確認してください。

チェック!!
- **ここでは、「OK」ボタンはクリックしないで次の手順に進んでください。「OK」ボタンは機器の交換が完了した後でクリックします。「OK」ボタンをクリックしてしまった場合は、もう一度手順1からやりなおしてください。**
- **電源が入っている状態で機器の交換をする場合は、必ず手順1～2を行ってから次の手順に進んでください。**

3 本体の右側面を少し持ち上げる

4 **本体底面にあるVersaBay IVアンロックを、図のように矢印の方向にスライドさせたままの状態で機器を引き抜く**



チェック!! **VersaBay IVから機器を取り外す際、液晶ディスプレイを閉じて行うと、省電力機能の設定によってはスタンバイ状態や休止状態になることがあります。この場合でも機器を交換することができます。スタンバイ状態や休止状態での機器の交換については、「スタンバイ状態／休止状態／電源が切れている状態で機器を交換する」(→p.191)をご覧ください。**

5 **取り付ける機器をカチッと音がするまで差し込む**

機器を交換した後は、持ち上げていた本体を静かに下ろしてください。

チェック!! **VersaBay IVに機器を取り付ける場合は、本体の右側面を高く持ち上げたりせずに、水平に近い状態にして機器を押し込んでください。本体の右側面を上にして、立てた状態で機器を落として取り付けたりすると、本体や機器の故障の原因となる場合があります。**

6 **「BaySwap」画面で「OK」ボタンをクリックする**

◆Windows 2000の場合

1 **インジケータ領域(タスクトレイ)にあるをダブルクリックする**

「ハードウェアの取り外し」画面が表示されます。

2 **取り外す機器を選択し、「停止」ボタンをクリックする**

3 「OK」ボタンをクリックする

安全に取り外せるという内容のメッセージが表示されます。

4 「OK」ボタンをクリックする

5 「閉じる」ボタンをクリックして、「ハードウェアの取り外し」画面を閉じる

6 「電源が入っている状態で機器を交換する」の「Windows Me／Windows 98の場合」(→p.189)の手順3～5にしたがって機器を交換する

◎ スタンバイ状態／休止状態／電源が切れている状態で機器を交換する

スタンバイ状態や休止状態、または電源が切れている状態で機器の交換をする場合は、Windowsでの設定は必要ありません。
「電源が入っている状態で機器を交換する」の「Windows Me／Windows 98の場合」(→p.189)の手順3～5にしたがって機器を交換してください。

Windows 2000でスタンバイ状態から復帰後、「デバイスの取り外しの警告」画面が表示される場合があります。その場合は「OK」ボタンをクリックしてください。警告が発生したデバイスは、そのまま使用できます。

> スタンバイ状態や休止状態、または電源が切れている状態でVersaBay IVから機器を取り外す場合は、液晶ディスプレイを閉じて本体を裏返した状態で取り外すこともできます。

MultiBay

本機のMultiBayでは、購入時に取り付けられているMultiBay用機器を取り外して、別売のMultiBay用オプション機器を取り付けて使用することができます。

MultiBayで使用できる機器

本機のMultiBayには次のような機器を取り付けて使用することができます。

- **セカンドバッテリパック(PC-VP-WP33)**
- **フロッピーディスクドライブ(標準添付)**

あらかじめ取り付けられている機器を取り外し、添付の拡張ベイカバー(MultiBay用)を取り付けることで、本体の質量を軽くすることができます。

チェック!! **Windows Meでは、MultiBayからフロッピーディスクドライブを取り外している場合でも、「マイ コンピュータ」画面に「3.5インチFD」アイコンは表示されています。**

MultiBayの機器を交換するための準備

MultiBayに取り付けているフロッピーディスクドライブなどの機器を交換する場合は、本機の電源が切れている状態のときだけでなく、本機の電源が入っている状態や、スタンバイ状態(サスペンド)または休止状態(ハイバネーション)中に交換することもできます。

Windows MeまたはWindows 98で、本機の電源が入っている状態のままMultiBayの機器を交換する場合は、BaySwapユーティリティを使用します。BaySwapユーティリティをはじめて使用する場合はセットアップが必要ですので、「BaySwapユーティリティをセットアップする」(→p.188)の手順でセットアップを行ってください。

チェック!! **BaySwapユーティリティをセットアップすると、MultiBayに取り付けられているフロッピーディスクドライブは、取り外し可能(リムーバル)な機器として扱われます。**
このため、PCカードなど他の取り外し可能(リムーバル)な機器と同様、機器の取り付け、取り外しを行った後や、スタンバイ状態(サスペンド)または休止状態(ハイバネーション)から復帰した後に、フロッピーディスクドライブの名前が変更されることがあります。

MultiBayの機器を交換する

◎ 電源が入っている状態で機器を交換する

電源が入っている状態で機器の交換をする場合は、Windows Meまたは Windows 98の場合は「BaySwapユーティリティ」を使用します。
Windows 2000の場合は「ハードウェアの取り外しまたは取り出し」を使用します。
次の手順にしたがって機器の交換を行ってください。

チェック!! Windows NT 4.0をお使いの場合、電源が入っている状態で機器を交換することはできません。「スタンバイ状態／休止状態／電源が切れている状態で機器を交換する」(→p.195)をご覧ください。

◆Windows Me／Windows 98の場合

1 インジケータ領域(タスクトレイ)の をクリックする

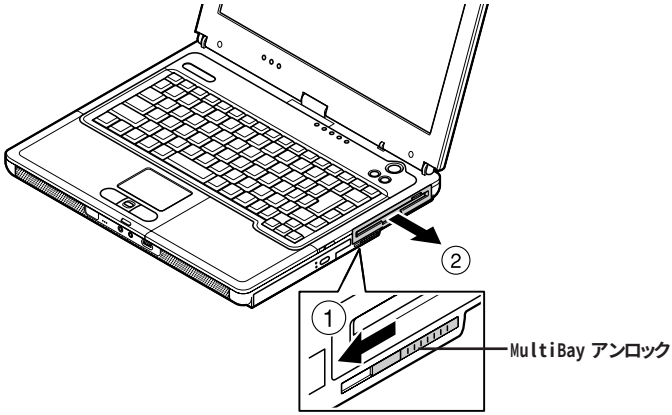
「MultiBay のデバイス(＊＊＊＊)を交換」と表示されます。
＊＊＊＊には、フロッピーディスクドライブが取り付けられている場合は「Floppy」と表示されます。セカンドバッテリパックが取り付けられている場合や何も取り付けられていない場合は「Empty or Battery」と表示されます。

2 「MultiBay のデバイス(＊＊＊＊)を交換」をクリックする

「BaySwap」画面が表示されます。
デバイスを安全に取り外すことができるという内容のメッセージが表示されるのを確認してください。

チェック!!
- **ここでは、「OK」ボタンはクリックしないで次の手順に進んでください。「OK」ボタンは機器の交換が完了した後でクリックします。「OK」ボタンをクリックしてしまった場合は、もう一度手順1からやりなおしてください。**
- **電源が入っている状態で機器の交換をする場合は、必ず手順1～2を行ってから次の手順に進んでください。**

3 MultiBay アンロックを本体手前側にスライドさせたままの状態で機器を引き抜く



4 取り付ける機器を奥までしっかり差し込む

チェック!! MultiBayに機器を取り付ける場合は、本体の右側面を高く持ち上げたりせずに、水平に近い状態にして機器を押し込んでください。本体の右側面を上にして、立てた状態で機器を落として取り付けたりすると、本体や機器の故障の原因となる場合があります。

5 「BaySwap」画面で「OK」ボタンをクリックする

◆Windows 2000の場合

1 インジケータ領域(タスクトレイ)にあるをダブルクリックする

「ハードウェアの取り外し」画面が表示されます。

2 取り外す機器を選択し、「停止」ボタンをクリックする

3 「OK」ボタンをクリックする

安全に取り外せるという内容のメッセージが表示されます。

4 「OK」ボタンをクリックする

5 **「閉じる」ボタンをクリックして、「ハードウェアの取り外し」画面を閉じる**

6 **「電源が入っている状態で機器を交換する」の「Windows Me／Windows 98の場合」(→p.193)の手順3〜4にしたがって機器を交換する**

◎ スタンバイ状態／休止状態／電源が切れている状態で機器を交換する

スタンバイ状態や休止状態、または電源が切れている状態で機器の交換をする場合は、Windowsでの設定は必要ありません。
「電源が入っている状態で機器を交換する」の「Windows Me／Windows 98の場合」(→p.193)の手順3〜4にしたがって機器を交換してください。

USBコネクタ

USB対応の機器は、一般の周辺機器と異なり、パソコンの電源を入れた状態のまま、接続したり取り外すことができます。

チェック!! **Windows NT 4.0はUSBに対応していませんので、Windows NT 4.0で本機を使用している場合は、本機のUSBコネクタに機器を接続しても使用することはできません。**

USBとは

本機にはUSB対応機器を取り付けるためのコネクタが2つあります。USBとはUniversal Serial Busの頭文字をとったもので、コネクタの形状が統一されており、127台までの機器を接続することができます。また、電源を切らずにプラグの抜き差しが可能で、プラグ&プレイ機能にも対応しています。
現在利用できる主なUSB対応機器として、次のようなものがあります。

- マウス
- プリンタ
- イメージスキャナ
- デジタルカメラ
- キーボード
- テンキーボード
- 携帯電話／PHS接続ケーブル
- ISDNターミナルアダプタ　など

USB対応機器の、本機での動作確認情報については、各機器に添付のマニュアルをご覧いただくか、各機器の発売元にお問い合わせください。
なお、NEC製のUSB機器の情報は、NECのホームページ「121ware.com（ワントゥワンウェア ドット コム）」をご覧ください。
http://121ware.com/

USBコネクタに接続する

◎ 接続する前に

機器によっては、接続する前や接続したあとにドライバのインストールや、各種設定スイッチなどの設定が必要な場合がありますので、接続するUSB対応機器のマニュアルを読んでおき、ドライバなどインストールに必要なCD-ROMやフロッピーディスクが添付されていれば用意してください。

> 別売のUSBマウスなどには、接続してすぐ使うことができるものがあります。ただし、いくつかの性能が制限される可能性がありますので、必ず添付のマニュアルをよく読んでください。

> USB対応機器は、パソコンの電源を入れたままの状態でも接続できますので、接続前に電源を切る必要はありません。

◎ 接続するときの注意

- Windows Meの場合、「デバイス マネージャ」の「ユニバーサル シリアル バス コントローラ」に表示されるドライバに緑の?が表示されますが、USB対応機器は問題なく使用することができます。
- 「デバイスマネージャ」画面にある「USB(Universal Serial Bus)コントローラ」の記述は削除しないでください。
- USB対応機器の抜き差しを行う場合は、3秒以上の間隔をおいて行ってください。
- USBコネクタにプラグをすばやく差したり斜めに差したりすると、信号が読みとれずに不明なデバイスとして認識されることがありますので、その場合はプラグをUSBコネクタから抜いて、もう一度正しく接続しなおしてください。
- はじめてUSB対応機器を接続したときに、画面に何も表示されない場合は、USBコネクタにプラグを正しく差し込めていない可能性があります。いったんプラグを抜き、再度差し込んでみてください。

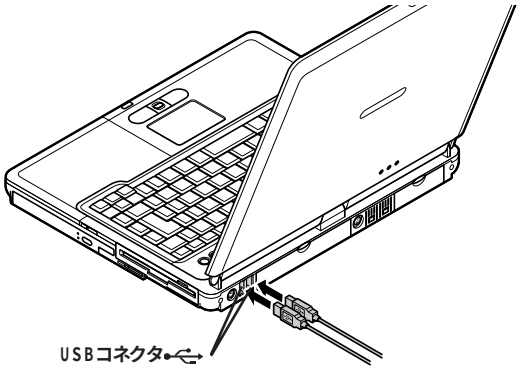
  なお、USB対応機器は、一度設定をすれば、次回からはプラグを差し込むだけで、すぐに機器が使用可能になります。この場合、画面には何も表示されませんが、故障ではありません。
- スタンバイ状態中、スタンバイ状態へ移行中、スタンバイ状態から復帰中、休止状態中、休止状態へ移行中、休止状態から復帰中の場合は、USB対応機器を抜き差ししないでください。

・USB対応機器を接続した状態では、スタンバイ状態に移行できない場合があります。スタンバイ状態に移行する前にUSB対応機器を取り外してください。
・USBマウス使用時にNXパッドを無効にしたい場合は、BIOSセットアップメニューの「詳細(Advanced)」メニューで「NXパッド&PS/2マウス(PS/2 Mouse)」の設定を「使用しない(Disabled)」にしてください(→p.209)。
・外付けUSBハブ経由でUSB対応機器を使用する場合は、USBハブを本機に接続してからUSB対応機器を接続してください。USBハブにUSB対応機器を接続した状態でUSBハブを本機に接続すると、USB対応機器が正常に認識されないことがあります。

◎ USBコネクタに機器を取り付ける

1 本機のUSBコネクタにプラグを接続する

2つあるUSBコネクタのうち、どちらのUSBコネクタに接続してもかまいません。プラグの向きに注意して、止まるまで軽く押し込んでください。



接続したUSB対応機器が正しくパソコンに認識されたかどうかを確認してください。確認する方法は、機器の種類によって異なります。機器によっては、接続後さらに別の設定作業が必要になる場合があります。詳しくは、各USB対応機器に添付のマニュアルなどをご覧ください。

◎ USBコネクタから機器を取り外す

USB対応機器によっては、機器を接続するとインジケータ領域(タスクトレイ)にが表示されます。このような機器の取り外しは、をダブルクリックして表示される「ハードウェアの取り外し」画面で行ってください。正しく取り外しを行わないと、本機が正常に動作しなくなることがあります。「周辺機器の利用」の「周辺機器の取り外しと再接続」(→p.144)をご覧になり、正しい手順で取り外しを行ってください。

◎ 別売の外付けUSBキーボードの接続

別売の外付けUSBキーボードは、USBコネクタに取り付けます。 別売の外付けUSBキーボードには、USBコネクタが用意されており、別売のUSB機器を取り付けることができます。

チェック!! セーフモードやWindows 98のMS-DOSモードで起動した場合は、外付けUSBキーボードを使うことはできません。

外付けUSBキーボードの設定は、本機のキーボードと同じように、Windowsで設定することができます。

その他の機器

本機で使用できるその他の機器

本機では、次のような別売の機器を使用することができます。

種類	機器
オーディオ機器	ヘッドホン、マイクロホン、オーディオ装置など
入力装置	マウス、外付けキーボード、テンキーボード、デジタルカメラ、イメージスキャナなど
通信機器	携帯電話、PHS、外付けモデム、ターミナルアダプタなど

本機のどのコネクタに機器を接続するかは、機器が使用しているインターフェイスによって異なります。また、機器によってインターフェイスが決まっている訳ではありません。詳しくは、各機器のマニュアルをご覧ください。

チェック!! **本機がスタンバイ状態(サスペンド)または休止状態(ハイバネーション)の場合は、周辺機器を接続したり、接続していた機器を取り外したりしないでください。本機の機器構成が変更されると、データが消えてしまうことがあります。**

◎ 別売のキーボードやテンキーボードを使うには

本機には、別売のテンキーボードやキーボードを接続することができます。PS/2タイプのテンキーボードはマウス/テンキーボード用コネクタ(/)に接続します(→p.201)。USB対応のキーボードはUSBコネクタ( )に接続します(→p.198)。

シリアルコネクタ

シリアル対応機器を接続するためのコネクタです。一般的なコンピュータ用語ではこれをシリアルポートと呼び、WindowsではCOM1やCOM2の名称で呼んでいます。

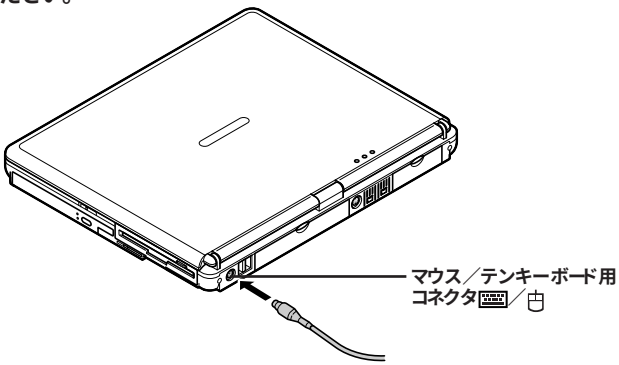
パラレルコネクタ

別売のプリンタを取り付けるためのコネクタです。
パラレル対応機器であればプリンタ以外の機器も接続することができます。
なお、Windowsではプリンタポートまたは LPT1と呼んでいます。

マウス／テンキーボード用コネクタ

添付または別売のマウスやテンキーボードなどのPS/2タイプのオプションを取り付けるためのコネクタです。

チェック!! マウスやテンキーボードを接続する場合は、必ず、本機の電源を切ってから接続してください。



マウスとテンキーボードの両方を同時に接続したい場合は、別売のYケーブル、またはマウスに添付されているYアダプタを使ってください。

PART

3

システムの設定

セキュリティや省電力など、本機の使用環境の設定について説明します。設定方法をまちがえると正しく動作しなくなってしまうので、十分注意してください。
また、必要がある場合以外は設定値を変更しないでください。

BIOSセットアップメニュー

BIOSセットアップメニューは、本機の使用環境を設定するためのものです。

BIOSセットアップメニューを使ってできること

次のような設定ができます。

・現在の日付と時間の設定
・BIOSセットアップメニューで使用する言語の選択
・ハードウェア環境の確認と変更
・セキュリティの設定
・起動デバイスの起動順位の設定

BIOSセットアップメニューを日本語表示にするには

1 電源を入れて、「NEC」のロゴが表示されたらすぐ、1秒おきに【F2】を数回押す

次のような画面が表示されます。

チェック!! BIOSセットアップメニューが表示されない場合は、いったん電源を入れなおし、【F2】を押す間隔を変えてください。

```
                    PhoenixBIOS Setup Utility
 Main        Advanced        Security        Power        Boot        Exit

   System Time:                [hh:mm:ss]                 Item Specific Help
   System Date:                [mm/dd/yyyy]
   Language:                   [English  (US)]            <Tab>,<Shift-Tab>,or
                                                          <Enter> selects field.
   Diskette A:                 [1.44/1.25 MB  3½"]

 ▶ Internal HDD                [XXXXMB]
   VersaBay                    CD/DVD

   System Memory               XXXKB
   Extended Memory             XXXXXKB
   CPU Type                    XXX
   CPU Speed                   XXXXXX MHz
   BIOS Version                XXXXXXXX

 F1   Help   ↑↓  Select Item    F5/F6  Change Values          F9   Setup Defaults
 Esc  Exit   ←→  Select Menu    Enter  Select ▶ Sub-Menu       F10  Save and Exit
```

2 **【↑】または【↓】を押して「Language:」を選び、【Enter】を押す**

3 **【↑】または【↓】を押して「日本語（JP）」を選び、【Enter】を押す**

4 **【F10】を押す**

確認の画面が表示されます

5 **「はい」になっていることを確認して【Enter】を押す**

設定値が保存され、BIOSセットアップメニューが終了します。
以降、BIOSセットアップメニューが日本語で表示されるようになります。

BIOSセットアップメニューを使う

◎ BIOSセットアップメニューの起動とメイン画面

1 **電源を入れて、「NEC」のロゴが表示されたらすぐ、1秒おきに【F2】を数回押す**

次のようなメイン画面が表示されます。
画面上では「PhoenixBIOSセットアップユーティリティ」と表示されます。

チェック!! **BIOSセットアップメニューが表示されない場合は、いったん電源を入れなおし、【F2】を押す間隔を変えてください。**

PhoenixBIOSセットアップユーティリティ

メイン　詳細　セキュリティ　省電力管理　起動　終了

		項目ヘルプ
システム時刻:	[hh:mm:ss]	<Tab>キー、<Shift-Tab>キー、<Enter>キーは、項目を選択します。
システム日付:	[yyyy/mm/dd]	
言語:	[日本語(JP)]	
フロッピィディスクA:	[1.44/1.25MB 3.5″]	
▶ 内蔵HDD	[XXXXMB]	
NXノートベイ	CD/DVD	
システムメモリ	XXXKB	
拡張メモリ	XXXXXKB	
CPUタイプ	XXX	
CPU速度	XXXXXX MHz	
BIOSバージョン	XXXXXXXX	

F1 ヘルプ　↑↓項目の選択　F5/F6 値の変更　F9 デフォルトの設定
Esc 終了　←→ メニューの選択　Enter ▶サブメニューの選択　F10 保存して終了

◎ BIOSセットアップメニューの基本操作

・操作はキーボードで行います。
・【←】【→】でメニューを選び、【↑】【↓】で設定項目を選びます。
・設定内容の値は【F5】【F6】で変更します。

BIOSセットアップメニューを終了する

◎ 変更を保存して終了する

1 【F10】を押す

セットアップ確認の画面が表示されます。
終了を中止したい場合は【Esc】を押してください。

2 「はい」が選ばれていることを確認して【Enter】を押す

設定値が保存され、BIOSセットアップメニューが終了します。

メニューバーの「終了」で「変更を保存して終了する」を選んでBIOSセットアップメニューを終了することもできます。

変更を保存せずに終了したい場合などは、次の「メニューバーから終了する」で終了してください。

◎ メニューバーから終了する

【←】【→】でメニューバーの「終了」を選ぶと、以下のメニューが表示されます。

◆ 変更を保存して終了する

変更内容を保存してBIOSセットアップメニューを終了します。

◆ 変更を保存せずに終了する

設定値を保存せずにBIOSセットアップメニューを終了します。設定の変更を行った場合も、すべて無効にして終了します。

◆ デフォルト値をロードする

すべての設定項目にデフォルト値を書き込みます。これによりBIOSセットアップメニューの設定値は購入時の状態に戻ります。

◆ 変更を取り消す

すべての設定項目に対して変更前の値を読み込みます。BIOSセットアップメニューは終了しません。

◆ 変更を保存する

変更値を保存します。BIOSセットアップメニューは終了しません。

◆ バッテリリフレッシュ

バッテリリフレッシュはバッテリの機能を回復させるための機能です。バッテリリフレッシュの詳しい手順については、PART1「バッテリ」の「バッテリリフレッシュ」(→p.60)をご覧ください。

購入時の値に戻す

1 キーボードの【F9】を押す

セットアップ確認の画面が表示されます。

2 「はい」が選ばれていることを確認して【Enter】を押す

デフォルト値を読み込みます。

3 キーボードの【F10】を押す

セットアップ確認の画面が表示されます。

4 「はい」が選ばれていることを確認して【Enter】を押す

設定の変更を保存して終了します。

メニューバーの「終了」で「デフォルト値をロードする」を選んで購入時の値に戻すこともできます。

設定項目一覧

BIOSセットアップメニューでどのような設定ができるかを説明しています。
表中の　　は、購入時の設定です。

◎「メイン」メニューの設定

チェック!! 「内蔵HDD／NXノートベイ」の設定を変更すると、内蔵ハードディスクが動作しなくなる場合があるので、通常は初期設定のまま使用してください。

設定項目	設定値	説明
システム時刻(時:分:秒)	―	現在の時刻を「時:分:秒」(24時間形式)で設定します。
システム日付(年／月／日)	―	日付を「年／月／日」(西暦)で設定します。「言語」を「英語」に設定している場合は、「月／日／年」で入力します。
言語	English(US) 日本語(JP)	BIOSセットアップメニューで使用する言語を設定します。標準では「English(US)」に設定されています。
フロッピィディスクA	1.44/1.25 MB　3.5" 使用しない	フロッピーディスクドライブのモードを選びます。「1.44/1.25 MB　3.5"」の場合、フロッピーディスクドライブが使用できます。「使用しない」の場合、フロッピーディスクドライブは使用できません。
内蔵HDD／NXノートベイ	―	現在接続されているIDEデバイスが表示されます。この項目にカーソルを合わせ【Enter】を押すと設定画面が表示されます。【Esc】を押すとメイン画面に戻ります。
タイプ	自動 ユーザ CD/DVD なし	BIOSが自動的にシリンダ、ヘッド、セクタを設定します。設定は変更しないでください。
32ビットI/O	使用しない 使用する	32ビットIDEデータ転送を使用するかどうかを設定します。
システムメモリ	―	搭載されているシステムメモリ容量を表示します。
拡張メモリ	―	搭載されている拡張メモリを表示します。
CPUタイプ	―	CPUタイプを表示します。
CPU速度	―	CPU速度を表示します。
BIOSバージョン	―	BIOSのバージョンを表示します。

◆「詳細」メニューの設定

設定項目	設定値	説明
起動時のNum-Lock	オン オフ	起動時にNum Lockをオンにするかを設定します。
NXパッド&PS/2マウス	自動 両方 使用しない	「自動」に設定すると、PS/2マウスを接続したときにNXパッドが無効になり、自動的にPS/2マウスのみを使用できるように切り替えます。「両方」に設定すると、NXパッドとPS/2マウス(ホイール付きPS/2マウスを除く)を同時に使用できます(ホイール付きPS/2マウスとNXパッドは同時に使用できません)。 USBマウスを使用するときにNXパッドを無効にしたい場合は、「使用しない」に設定します。
LCDパネルの拡張表示	オフ オン	LCDパネルの拡大表示を行うかどうかを設定します。「オン」に設定すると、LCDパネルの最大表示サイズ以下の表示画面では拡大されて表示されます。
セットアップ移行画面表示	非表示※1 表示	「表示」に設定すると、セットアップの移行画面に関するメッセージが表示されます。
ハイバネーション警告表示	表示 非表示	「表示」に設定すると、ハイバネーションの警告に関するメッセージが表示されます。本機では「非表示」で使用してください。
セットアップ情報画面	使用しない 使用する	起動時にシステム設定状況を表示します。
サイレントブート	自己診断画面 ロゴ画面 非表示※1	ブート時の画面を設定します。
ワイヤレスデバイス※2	使用する 使用しない	ワイヤレスデバイスを使用するかを設定します。

※1: BIOSセットアップメニューを起動する場合は、電源を入れた後、1秒おきに【F2】を押すことを何度かくりかえしてください。

※2: ワイヤレスLAN(無線LAN)モデルのみ表示されます。

設定項目	設定値	説明
周辺機器設定	―	各周辺機器の設定を行います。この項目にカーソルを合わせて【Enter】を押すと設定を行うことができます。
シリアルポートA	使用しない 使用する 自動	「自動」に設定すると、BIOSが自動的にシリアルポートの設定を行います。「使用する」に設定すると、ユーザがシリアルポートのI/0ベースアドレスを設定できます。「使用しない」に設定すると、シリアルポートは使用できません。
I/0ベースアドレス	3F8 2F8 3E8 2E8	「シリアルポートA」を「使用する」に設定すると表示されます。シリアルポートにI/0ベースアドレスを設定します。
赤外線ポート	使用しない 使用する 自動	「使用しない」に設定すると、赤外線ポートは使用できません。「使用する」に設定すると、ユーザが赤外線ポートのモードやI/0ベースアドレスを設定できます。「自動」に設定すると、BIOSが自動的に赤外線ポートの設定を行います。
モード	FIR IrDA	「赤外線ポート」を「使用する」または「自動」に設定すると表示されます。赤外線ポートのモードを設定します。
I/0ベースアドレス	3F8 2F8 3E8 2E8	「赤外線ポート」を「使用する」に設定すると表示されます。赤外線ポートにI/0ベースアドレスを設定します。
パラレルポート	使用しない 使用する 自動	「自動」に設定すると、BIOSが自動的にパラレルポートの設定を行います。「使用する」に設定すると、ユーザがパラレルポートのモードやI/0ベースアドレスを設定できます。「使用しない」に設定すると、パラレルポートは使用できません。
モード	双方向 EPP ECP	「パラレルポート」を「使用する」または「自動」に設定すると表示されます。パラレルポートのモードを設定します。
I/0ベースアドレス	378 3BC 278	「パラレルポート」を「使用する」に設定すると表示されます。パラレルポートにI/0ベースアドレスを設定します。
フロッピィコントローラ	使用しない 使用する	設定は変更しないで「使用する」のまま使用してください。

◎「セキュリティ」メニューの設定

◆スーパバイザパスワード設定

スーパバイザパスワードの設定または変更を行います。
【Enter】を押すとパスワード設定の画面が表示されるので設定を行ってください。

参照 パスワードの設定→PART1の「セキュリティ機能」(p.93)

◆ユーザパスワード設定

ユーザパスワードの設定または変更を行います。
スーパバイザパスワードを設定していないとユーザパスワードは設定できません。
【Enter】を押すとパスワード設定の画面が表示されるので設定を行ってください。

参照 パスワードの設定→PART1の「セキュリティ機能」(p.93)

設定項目	設定値	説明
セキュリティモード	パスワード 指紋※1	設定するセキュリティのモードを選びます。設定値のいずれかを選ぶと、それぞれのセキュリティ機能を設定できるようになります。
起動時のパスワード	使用しない 使用する	システム起動時にパスワード入力を行うかどうかを設定します。
ハードディスク起動セクタ	通常動作 書込み禁止	ウイルス感染防止のため、ハードディスク起動セクタを書き込み禁止にするかどうかを設定します。
ディスクアクセス※2	スーパバイザ ユーザ	「スーパバイザ」に設定すると、ユーザパスワードで起動した状態ではディスクドライブに対してアクセスできなくなります。

※1:「指紋」を選ぶためには、指紋認証ユニットまたは別売のセキュリティ関連の拡張機器が必要になります。
※2:スーパバイザパスワードを設定していないと「ディスクアクセス」は設定できません。

◆指紋

「指紋」の各設定は、セキュリティモードで「指紋」を選ぶと設定できるようになります。詳しくは、PART1の「セキュリティ機能」の「指紋認証機能」(→p.100)または、PCカード用指紋認証ユニット(PK-FP001M)に添付のマニュアルをご覧ください。

◆ハードディスクのパスワードの設定

【Enter】を押すと、ハードディスクのパスワードの設定画面が表示されます。

設定項目	設定値	説明
内蔵HDDパスワードの設定	使用する 使用しない	ハードディスクのセキュリティを有効にするかを設定します。
NXノートベイHDDの設定	使用する 使用しない	セカンドハードディスクを取り付けた場合のみ表示されます。 セカンドハードディスクのセキュリティを有効にするかを設定します。

チェック!!

- **ハードディスクのパスワードが設定されていないと「内蔵HDDパスワードの設定」の設定を変更することはできません。**
- **ハードディスクのパスワードを忘れてしまった場合、お客様ご自身で作成されたデータが消えてしまい、ハードディスクを有償で交換することになります。ハードディスクのパスワードは忘れないよう十分に注意してください。**

参照 ハードディスクのパスワードの設定方法について→PART1の「セキュリティ機能」の「ハードディスクのパスワード」(p.96)

◎「省電力管理」メニューの設定

チェック!! **本機をWindows Me、Windows 98、Windows 2000で使用している場合は、「省電力管理」の設定は「Intel(R)SpeedStep(TM)テクノロジ」、「スリープ時警告音」、「リモート電源制御」の設定以外すべて無効になります。省電力の設定は「コントロールパネル」の「電源の管理」または「電源オプション」で行ってください(→p.72)。**

設定項目	設定値	説明
電源スイッチ	パワーオフ スリープ	電源スイッチの機能を設定します。「パワーオフ」に設定すると、電源スイッチで電源のオン／オフを行います。「スリープ」に設定すると、電源スイッチでスリープ状態に移行できます。
AC接続時の省電力	使用しない 使用する	AC接続時に、現在の省電力設定を有効にするかを設定します。
省電力	使用しない 最大パフォーマンス 最大省電力 カスタマイズ	「使用しない」に設定すると、BIOSによる省電力設定はすべて無効になります。「最大パフォーマンス」では、本機の性能を優先した設定になり、「最大省電力」では、本機の動作時間を優先した設定になります。この設定を「カスタマイズ」に設定すると、「自動サスペンドタイムアウト」を任意に変更できます。
自動サスペンドタイムアウト	オフ/5分/10分/15分/20分/30分/40分/60分/	設定した時間を経過してもコンピュータに対するアクセスがなかった場合、コンピュータをスタンバイモードに移行します。
スリープモード	サスペンド ハイバネーション	スリープモードのタイプを変更します。
自動ハイバネーション	オフ 1時間後	「1時間後」に設定すると、サスペンド状態に移行してから1時間経過すると、自動的にハイバネーション状態に移行します。
スリープ時警告音	使用する 使用しない	「使用する」に設定すると、スリープモード移行時に警告音を鳴らします。
Intel(R) SpeedStep(TM) テクノロジ	使用する 使用しない	「使用する」に設定すると、AC駆動の場合は自動的に最高性能で動作します。バッテリ駆動の場合はバッテリ残量に応じて最適な性能で動作します。「使用しない」に設定すると、Intel® SpeedStep™テクノロジが使用できなくなります。
LCD連動スリープ	使用する 使用しない	「使用する」に設定すると、ディスプレイを閉じたときに「スリープモード」で設定した省電力状態に移行します。
リモート電源制御	使用しない AC時のみ AC/電池駆動	リモート電源制御を行うかどうかを設定します。「AC時のみ」に設定すると、AC電源接続状態でのみLANによって復帰または起動します。「AC/電池駆動」に設定すると、バッテリのみで駆動している状態のときもLANによって復帰します。

設定項目	設定値	説明
モデムリングでのレジューム	オン オフ	「オン」に設定すると、モデムが呼び出し信号を受信したときに、本機をサスペンド状態から復帰します。
レジューム時刻	オン オフ	「オン」に設定すると、設定した時間に本機をサスペンド状態から復帰することができます。
レジューム時刻	―	本機を復帰する時刻を設定します。

起動の設定

「起動」メニューでは、起動するデバイスを優先順にしたがってリスト表示します。
本機を起動するときには、上から順にOSを検索します。もしOSが存在しないなど起動に失敗した場合は次のデバイスから起動します。

◎ Networkブート

「Networkブート」を「使用する」に設定すると、ネットワークから本機を起動することができるようになります。購入時は「使用しない」に設定されています。

◎ 起動デバイスの表示と順位の変更

デバイス名の左に＋の表示があるデバイスにカーソルを合わせて【Enter】を押すと展開表示されます。
起動するデバイスを変更するには【↑】【↓】を使用して変更したいデバイスにカーソルを合わせます。[~ ^]のキーと【Shift】を同時に押すとリストの上側に移動し、[= −]を押すとリストの下側に移動します。
なお、ニューメリックロックキーランプ([1])が点灯しているときには前面に【＋】【－】の刻印のあるキーでもリストの上下にカーソルを移動させることができます。

PART

4

付録

ここでは、本機の機能に関連した補足情報を記載してあります。

本機のお手入れ

ここでは、パソコンのお手入れの方法を説明しています。

お手入れをはじめる前に

⚠注意

感電注意

●お手入れの前には、必ず本機や本機の周辺機器の電源を切り、電源コードをACコンセントから抜いてください。
電源を切らずにお手入れをはじめると、感電することがあります。

◎ 準備するもの

◆ 汚れが軽いとき

やわらかい素材の乾いたきれいな布

◆ 汚れがひどいとき

水かぬるま湯を含ませ堅くしぼったきれいな布

> OA機器用クリーニングキットも汚れを拭き取るのに便利です。
> OA機器用クリーニングキットについてはご購入元、NECフィールディングの各支店、営業所などに問い合わせてください。

参照 **NECのお問い合わせ先→『NEC　PCあんしんサポートガイド』**

お手入れをする

パソコンのお手入れをするときは、次のことに注意してください。

チェック!!

- **水やぬるま湯は、絶対に本機に直接かけないでください。本機の傷みや故障の原因になります。**
- **シンナーやベンジンなどの揮発性の有機溶剤や化学ぞうきんなどは使わないでください。本機の傷みや故障の原因になります。**

◆ 液晶ディスプレイ

やわらかい素材の乾いたきれいな布で拭いてください。水やぬるま湯、揮発性の有機溶剤、化学ぞうきんは使わないでください。

◆ 本体／NXパッド／キーボード

やわらかい素材の乾いたきれいな布で拭いてください。汚れがひどいときは、水かぬるま湯を布に含ませ、堅くしぼったきれいな布で拭いてください。キーボードのキーのすきまにゴミが入った場合は、専用のクリーナーなどでゴミを取ってください。ゴミが取れない場合は、ご購入元、NECフィールディングの各支店、営業所に問い合わせてください。

参照 **NECのお問い合わせ先→『NEC　PCあんしんサポートガイド』**

◆ フロッピーディスクドライブ

クリーニングディスク(別売)を使ってフロッピーディスクドライブをクリーニングします。ひと月に一回を目安にクリーニングしてください。

◆ 電源コード

電源コードのプラグを長時間にわたってACコンセントに接続したままにしていると、プラグにほこりがたまることがあります。定期的にほこりを拭き取るようにしてください。

補足情報

別売のUSBポートバー使用時の設定

◎ Windows 98で、別売のUSBポートバー(PK-UP012N、PK-UP012NS)を使用するときの注意

Windows 98で、別売のUSBポートバー(10Base-Tインターフェイス付)(PK-UP012N、PK-UP012NS)を使用するときは、次の手順にしたがって設定を行ってください。

別売のUSBポートバー(PK-UP012、PK-UP012S)を使用する場合は、以下の設定は必要ありません。

1 本機にUSBポートバーを接続する

USBポートバーが自動的に認識され、汎用USBハブ、USB互換デバイスドライバが自動的にインストールされます。

2 「新しいハードウェアの追加ウィザード」画面に「次の新しいドライバを検索しています:CATC NetMate2 Ethernet Adaptor」と表示されたら、「キャンセル」ボタンをクリックする

次の各ドライバが自動的にインストールされます。

・NEC USB to Serial
・USB ヒューマンインターフェイスデバイス
・NEC USB to Parallel
・NEC USB COM Port
・NEC USB LPT Port

ここではLANドライバのインストールは行いません。次の手順3で行います。

3 「スタート」ボタンをクリックし、「ファイル名を指定して実行」をクリックする

4 **「名前」欄に以下のように入力するか、または「参照」ボタンをクリックして表示される「ファイル名の場所」で以下のファイルを選択する**
C:¥OPTIONS¥OTHER¥NEC¥PK-UP012¥SETUP.EXE

5 **「OK」ボタンをクリックする**
LANドライバのインストールプログラムが起動します。

6 **「NEXT」ボタンをクリックする**

7 **「Disconnect the USB cable(if connected)from the CATC USB/Ethernet Link.」と表示されたら、USBポートバーを本機から取り外して「OK」ボタンをクリックする**

8 **「Connect the USB cable to the CATC USB/Ethernet Link.」と表示されたら、USBポートバーを本機に接続する**

9 **「This installation of the CATC USB Ethernet Link Software is complete.」と表示されたら、「Finish」ボタンをクリックする**

10 **Windowsを再起動する**

以上で設定は終了です。

◎ 別売のUSBハブに別売のUSBポートバーを接続するときの注意

別売のUSBハブ(PK-UP002またはPK-UP003)を2つ以上続けて接続し、その2つ目以降のUSBハブに別売のUSBポートバー(PK-UP012／PK-UP012N／PK-UP012S／PK-UP012NS)を接続した場合、USBハブに接続してある他の機器(USBポートバーも含む)が正常に動作しなくなることがあります。この場合は、本機に取り付けた1つ目のUSBハブにUSBポートバーを接続してください。

サウンド機能について(Windows Meモデルのみ)

◎ 音楽CDを利用する

◆ 音楽CDを再生する

Windows MeではWindows Media Playerを使って音楽CDを再生することができます。Windows Media Playerには、インターネットでCDのデータの検索をしたり、音楽CD再生中に視覚エフェクトを表示させる機能もあります。

参照 音楽CDの再生について→Windows Media Playerのヘルプ

本機では、音楽CDをデジタルで再生したり、アナログで再生することができます。購入時は、デジタルで再生するように設定されています。

チェック!! **音楽CDをデジタル再生で再生しているときに、ほかのアプリケーションを使用すると、音楽CDの再生音が音飛びする場合があります。その場合は、ほかのアプリケーションを終了するか、音楽CDの再生方法をデジタル再生からアナログ再生に変更してください。**

参照 音楽CDの再生方法を変更する→次の「音楽CDの再生方法の変更」(p.221)

◆ 音楽CDをハードディスクにコピーする

Windows Media Playerの「CDオーディオ」の「音楽のコピー」で、音楽CDをハードディスクにコピーすることができます。

参照 音楽CDのハードディスクへのコピーについて→Windows Media Playerのヘルプ

本機では、ハードディスクに音楽CDをデジタルでコピーしたり、アナログでコピーすることができます。

参照 音楽CDのハードディスクへのコピー方法を変更する→「音楽CDからのコピー方法の変更」(p.222)

◎ 音楽CDの再生方法の変更

次の手順で、音楽CDの再生方法をデジタル再生、またはアナログ再生のどちらかに設定することができます。

◆Windows Media Playerの場合

1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「Windows Media Player」をクリックする

Windows Media Playerが起動します

2 「ツール」メニューの「オプション」をクリックする

3 「CDオーディオ」タブをクリックし、「再生の設定」欄の「デジタル再生」を設定したい再生方法にあわせて選択する

- **デジタル再生にする場合**
  「デジタル再生」を☑にします。
- **アナログ再生にする場合**
  「デジタル再生」を☐にします。

4 「OK」ボタンをクリックする

5 「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする

「システムのプロパティ」画面が表示されます。

6 「デバイス マネージャ」タブをクリックする

7 「CD-ROM」の左の⊞をクリックする

8 表示されたデバイス名をダブルクリックする

9 「プロパティ」タブをクリックする

10 **「デジタルCD再生」欄の「このCD-ROMデバイスでデジタル音楽CDを使用可能にする」を設定したい再生方法にあわせて選択する**

- **デジタル再生にする場合**
  ☑にします。
- **アナログ再生にする場合**
  ☐にします。

11 **「OK」ボタンをクリックする**

設定した再生方法によって音楽CDの音量調整方法が変わります。

◆その他のプレイヤーの場合

Windows Media Player以外のプレーヤーでの音楽CDの再生方法を変更するときは、「Windows Media Playerの場合」(→p.221)の手順5〜10を行ってください。

◎ 音楽CDからのコピー方法の変更

次の手順で、音楽CDからのコピー方法を設定することができます。

1 **「スタート」ボタン→「プログラム」→「Windows Media Player」をクリックする**

Windows Media Playerが起動します

2 **「ツール」メニューの「オプション」をクリックする**

3 **「CDオーディオ」タブをクリックし、「コピーの設定」欄の「デジタルコピー処理」を設定したいコピー方法にあわせて選択する**

- **デジタルでコピーしたい場合**
  「デジタルコピー処理」を☑にします。
- **アナログでコピーしたい場合**
  「デジタルコピー処理」を☐にします。

4 **「音楽CDの再生方法の変更」の「Windows Media Playerの場合」(→p.221)の手順4〜11を行う**

設定した再生方法によって、音楽CDの音量の調整方法が変わります。

参照 音楽CDの再生音量の調整→次の「音楽CDの音量を調整する」

◎ 音楽CDの音量を調整する

チェック!! **本機を再起動すると、再起動前にボリュームコントロールで調整した音量が調整前の音量に戻っている場合があります。この場合は、再度音量を調整してください。**

◆再生音量を調整する

「Volume Control」画面で音楽CDの再生音量の調整をすることができます。音楽CDの再生音量の調整方法は、音楽CDの再生方法によって異なります。

購入時の状態では、音楽CDはデジタル再生するように設定されています。

参照 音楽CDの再生方法を変更する→「音楽CDの再生方法の変更」(p.221)

1 **「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」→「エンターテイメント」→「ボリュームコントロール」をクリックする**

「Volume Control」画面が表示されます。

2 **音楽CDの再生方法に応じて、「Volume Control」画面の以下の項目の音量つまみを上下にドラッグして音量を調整する**

- **デジタル再生に設定している場合**
  「Volume Control」または「Wave」
- **アナログ再生に設定している場合**
  「Volume Control」または「CD Player」

チェック!! ・Windows Media Player以外のプレーヤーを使用する場合は、再生方法にかかわらず、「Volume Control」または「CD Player」で音量を調整してください。

・「Volume Control」はスピーカから出力されるすべての音量を調整する項目です。音楽CDの再生音量のみを調整したい場合は「Wave」または「CD Player」で調整してください。

◆録音音量を調整する

次の手順で、音楽CDからの録音音量を調整できます。

1 「Volume Control」画面の「オプション」メニューの「プロパティ」をクリックする

2 「音量の調整」欄で「録音」を選択し、「表示するコントロール」欄で「Wave Out Mix」の□をクリックして☑にし、「OK」ボタンをクリックする

「Recording Control」画面が表示されます。

3 「Wave Out Mix」の「選択」の□をクリックして☑にする

4 「Wave Out Mix」の音量調整つまみを上下にドラックして録音音量を調整する

チェック!! 購入時、音楽CDからの録音はデジタル録音に設定されています。「Recording Control」の「CD Player」は、音楽CDからアナログで録音する場合の音量を調整する項目です。デジタル録音に設定しているときに「CD Player」を設定しても録音することはできません。「CD Player」での録音は、音楽CDからの録音をアナログ録音に設定にすることで可能になります。次の手順で、音楽CDからの録音をアナログ録音に設定できます。

・音楽CDからの録音方法を変更する

1 「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする

「システムのプロパティ」画面が表示されます。

2 「デバイス マネージャ」タブをクリックする

3 「CD-ROM」の左の[+]をクリックする

4 表示されたデバイス名をダブルクリックする

5 「プロパティ」タブをクリックする

6 「デジタルCD再生」欄の「このCD-ROMデバイスでデジタル音楽CDを使用可能にする」が[☑]になっている場合は[□]にする

7 「OK」ボタンをクリックする

8 「OK」ボタンをクリックする

9 「音楽CDの再生方法の変更」(→p.221)の手順にしたがって、音楽CDの再生方法をアナログ再生に変更する

機能一覧

仕様一覧

□ の項目の仕様は、お使いのモデルによって異なります。

機種名			VA11J/DF	VA10J/DF
CPU			モバイル インテル® Pentium®III プロセッサ1.13GHz-M（拡張版インテル®SpeedStep™テクノロジ搭載）	モバイル インテル® Pentium®III プロセッサ1.0GHz-M（拡張版インテル®SpeedStep™テクノロジ搭載）
内蔵キャッシュメモリ			32Kバイト	
セカンドキャッシュメモリ			512Kバイト（CPU内蔵）	
メモリ	ROM		512Kバイト（BIOSほか）	
	メインRAM		64Mバイト／128Mバイト／192Mバイト／256Mバイト／512Mバイト／1Gバイト※1（システムバス133MHz対応）	
		最大	Windows Me／Windows 98の場合 512Mバイト（別売の増設RAMボード（256Mバイト）を2枚、または増設RAMボード（512Mバイト）を1枚取り付けた場合） Windows 2000／Windows NT 4.0の場合 1.0Gバイト（別売の増設RAMボード（512Mバイト）を2枚取り付けた場合）	
	ビデオRAM		16Mバイト	8Mバイト
表示機能	表示素子※2		バックライト付15型TFTカラー液晶ディスプレイ（XGA）	
	グラフィックアクセラレータ		ATI社製MOBILITY™ RADEON™ - D 標準搭載（ビデオアクセラレーション機能対応）	ATI社製MOBILITY™ RADEON™ - M 標準搭載（ビデオアクセラレーション機能対応）
			640×480ドット（26万色中256色／65536色／1677万色） 800×600ドット（26万色中256色／65536色／1677万色） 1024×768ドット（26万色中256色／65536色／1677万色） 1280×1024ドット（26万色中256色／65536色／1677万色）※3 1600×1200ドット（26万色中256色／65536色／1677万色）※3	
	別売のCRTディスプレイ接続時		640×480ドット（26万色中256色／65536色／1677万色） 800×600ドット（26万色中256色／65536色／1677万色） 1024×768ドット（26万色中256色／65536色／1677万色） 1280×1024ドット（26万色中256色／65536色／1677万色） 1600×1200ドット（26万色中256色／65536色／1677万色）	
サウンド機能	サウンドチップ		ADI社製 AD1886搭載	
	PCM録音・再生機能		内蔵（ステレオ、量子化8ビット/16ビット、サンプリングレート8KHz/11.025KHz/16KHz/22.05KHz/44.1KHz/48KHz）、全二重化対応	
	MIDI音源機能		内蔵（拡張WAVE Table音源［WAVE Table音源最大64音］）	
	スピーカ・マイク		ステレオスピーカ・マイクロホン内蔵	
	サラウンド		3Dポジショナルサウンド	

機種名		VA11J/DF	VA10J/DF
通信機能	LAN	ワイヤレスLANインターフェイス内蔵／LAN内蔵(100BASE-TX／10BASE-T)／なし	
	モデム	なし／モデム内蔵(データ転送速度 最大56kbps(V.90)エラー訂正V.42/MNP4 データ圧縮V.42bis/MNP5)	
	携帯電話／PHS接続ケーブル	なし／ケーブル添付 携帯電話:9.6Kbpsデータ通信／9.6Kbps・28.8Kbpsパケット通信(DoPa) cdmaOne:14.4Kbpsデータ通信／64Kbpsパケット通信(PacketOne) PHS(NTTドコモ／アステル):32Kデータ通信／64Kデータ通信(PIAFS2.0) PHS(DDIポケット):32Kデータ通信／64Kデータ通信(PIAFS2.1)	
	FAX	なし／内蔵(データ転送速度 最大14.4Kbps(V.17)FAX制御クラス1)	
入力装置	キーボード	本体との一体型、JIS標準配列(英数・かな)、Fnキー(ホットキー対応)、12ファンクションキー・Windowsキー・アプリケーションキー・Num Lockキー・右Altキー・右Ctrlキー付	
	ポインティングデバイス	NXパッド標準装備(スクロールスライドスイッチ付)	
補助記憶装置	フロッピーディスクドライブ	3.5型フロッピーディスクドライブ×1内蔵(720K/1.2M※4/1.44Mバイトタイプの3モードに対応)	
	固定ディスクドライブ※5	内蔵(約15Gバイト／約20Gバイト／約30Gバイト)	
	セカンドハードディスク※5	約15Gバイト／約20Gバイト／約30Gバイト	
	CD-ROMドライブ・CD-R/RWドライブ※6・CD-R/RW with DVD-ROMドライブ※6	なし／あり ・CD-ROMドライブの場合: CAV方式、CD-DA(オーディオCD)、CD-ROM MODE1/2、CD-ROM XA MODE2(FORM1/2)、マルチセッション対応 最大24倍速(平均17倍速)、データ転送速度はCD-ROMの最内周で10.3倍速、最外周で24倍速 ・CD-R/RWドライブの場合: 読み込み最大24倍速(CD-RWは最大14倍速)、書き込み最大8倍速、書き換え最大4倍速 ・CD-R/RW with DVD-ROMドライブの場合: 読み込み最大24倍速(CD-ROM)／8倍速(DVD-ROM)、書き込み最大8倍速、書き換え最大4倍速	
インターフェイス		マウス／テンキーボード(PS/2タイプミニDIN6ピン)、パラレル(D-SUB25ピン)、シリアル(D-SUB9ピン、最高115.2Kbps対応)、ディスプレイ(アナログRGBセパレート信号出力、ミニD-SUB15ピン)、赤外線通信(IrDA規格準拠、データ転送速度4Mbps)、IEEE1394(4ピン)×2、USB×2、ビデオ出力(S-Video×1)	
	サウンド関連	ヘッドホン出力／ライン出力共用(ステレオ、ミニジャック) マイク入力(モノラル、ミニジャック) マイク入力インピーダンス2.2kΩ 入力レベル5mVrms(バイアス2.5V) ライン出力レベル1Vrms	
PCカードスロット		TYPE Ⅱ×2スロット(TYPE Ⅲ×1スロットとしても使用可)※7 PC Card Standard準拠、CardBus対応	
パワーマネージメント		自動または任意設定可能	
セキュリティ機能		ユーザパスワード機能、スーパバイザパスワード機能、盗難防止用ロック(別売のセキュリティケーブルを使用)、指紋リーダ(別売)、I/Oロック機能、ハードディスクのパスワード機能	
	暗証番号ボタン	なし／あり	
	指紋認証機能	なし／あり	

機種名	VA11J/DF	VA10J/DF
バッテリ駆動時間※8	ニッケル水素バッテリの場合:約1.0〜2.0時間 リチウムイオンバッテリの場合:約2.5〜3.8時間 セカンドバッテリパックの場合:約1.8〜3.0時間	
バッテリ充電時間※8	ニッケル水素バッテリの場合:約2.5時間 リチウムイオンバッテリの場合:約3.0時間 セカンドバッテリパックの場合:約2.8時間	
バッテリによるスタンバイ状態保持時間※8	約3日(バッテリフル充電時)	
電源	ニッケル水素バッテリ(DC9.6V、3,800mAh)※9、リチウムイオンバッテリ(DC14.4V、3,800mAh)※9、セカンドバッテリパック(DC14.4V、3,100mAh)※9またはAC100V±10%、50/60Hz(ACアダプタ経由)※10	
消費電力	約22W(内蔵オプション最大接続時　約60W)	
温湿度条件	5〜35℃、20〜80%※11(ただし、結露しないこと)	
外形寸法	327(W)×269.5(D)×40.0〜41.5(H)mm	
質量※8	約3.4kg	

※1:Windows 2000、Windows NT 4.0のみ
※2:液晶ディスプレイは消耗品です。液晶ディスプレイでは、明るさのむらや、微細な斑点が現れることがありますが、故障ではありません。
また、輝度の調節具合、表示モードと表示データの組み合わせによってはムラやちらつき、微細な斑点が現れることがありますが、故障ではありません。
※3:バーチャルスクリーンで表示(Windows Me、Windows 98のみ)。
※4:Windows Me、Windows 2000では3モード対応フロッピーディスクドライバのセットアップが必要です。
※5:固定ディスク容量は、1Gバイトを10億バイトで計算した場合の数値です。OSから認識できる容量は、実際の値より少なく表示されることがあります。
※6:Orange Book Part2(CD-R)およびPart3(CD-RW)に準拠。
※7:Windows 98のMS-DOSモードでは使用できません。
※8:時間や質量は、本機のご利用状況やオプションの接続により変わる場合があります。
※9:バッテリパックは消耗品です。
※10:ACアダプタ自体は、入力電圧AC240Vまでの安全認定を取得していますが、添付の電源コードはAC100V用(日本仕様)です。日本以外の国で使用する場合は、別途電源コードが必要です。
※11:18〜25℃、45〜75%での使用を推奨。

内蔵FAXモデム機能仕様

内蔵FAXモデム機能は、FAXモデム内蔵モデルのみの機能です。

機能概要

CPU I/F	PCIローカルバスインターフェイス
NCU部	・ダイヤルパルス送出機能 ・リンガ検出機能
モデムチップセット部	・115.2Kbpsまでのデータ・モデム・スループット V.90 V.34 V.32bis V.32、V.22bis、V.22、V.21 V.42LAPMおよびMNP2-4エラー訂正 V.42bisおよびMNP5データ圧縮 ・最高14.4Kbpsのファックス・モデム送受信速度 V.17、V.29、V.27ter、V.21チャンネル2 ・HayesATコマンドセット準拠 ATコマンド Sレジスタ ・回線品質モニタリングおよびオートリトレイン ・受信ライン信号品質に基づく自動ライン・スピード選択 ・フロー制御およびスピード・バッファリング ・パラレル非同期データ ・自動ダイヤルおよび自動アンサー ・トーンおよびパルスダイヤリング （DTMFトーン、ダイヤルパルス制御）

FAX機能

項　目	規　格
交信可能ファクシミリ装置	ITU-T G3ファクシミリ装置
適用回線	加入電話回線
同期方式	半二重調歩同期方式
通信速度	14400/12000/9600/7200/4800/2400/300bps※
通信方式	ITU-T V.17/V.29/V.27ter/V.21ch2
変調方式	TCM:14400/12000bps
	QAM:9600/7200bps
	DPSK:4800/2400bps
	FSK:300bps
送信レベル	-9～-15dBm（出荷時-15dBm）
受信レベル	-10～-40dBm
制御コマンド	EIA-578拡張ATコマンド（CLASS 1）

※：回線状態によって通信速度が変わる場合があります。

データモデム機能

項　目	規　格
適用回線	加入電話回線
同期方式	全二重調歩同期方式
通信速度	送受信　33600/31200/28800/26400/24000/21600/19200/16800/14400/12000/9600/7200/4800/2400/1200/300bps※1
	受信　56000/54666/52000/50666/49333/48000/46666/45333/44000/42666/41333/40000/38666/37333/36000/34666/33333/32000/30667/29333/28000bps※1
通信規格	ITU-T V.90/V.34/V.32bis/V.32/V.22bis/V.22/V.21
変調方式	PCM:56000/54667/52000/50667/49333/46667/45333/42666/41333/40000/38667/37333/36000/34667/33333/32000/30667/29333/28000bps TCM:48000/33600/31200/28800/26400/24000/21600/19200/16800/14400/12000/9600/7200/4800/2400bps QAM:9600/4800/2400/1200bps DPSK:1200bps FSK:1200/300bps
エラー訂正	ITU-T V.42(LAPM) MNP class4
データ圧縮	ITU-T V.42bis
	MNP class5
送信レベル	-9～-15dBm(出荷時-15dBm)
受信レベル	-10～-40dBm
制御コマンド	HayesATコマンド準拠※2

※1：回線状態によって、通信速度が変わる場合があります。
※2：ATコマンドについては、以下のファイルを参照
Windows Me/Windows 98の場合：
C:¥Windows¥SCmodem¥Atc¥Html¥Atc000.HTM
Windows 2000/Windows NT 4.0の場合：
C:¥WINNT¥SCmodem¥Atc¥Html¥Atc000.HTM

NCU機能

項　目	規　格
適用回線	加入電話回線
ダイヤル形式	パルスダイヤル(10/20PPS)(内蔵モデムのみのモデル) パルスダイヤル(10PPS)(LAN内蔵モデル)
	トーンダイヤル(DTMF)
NCU形式	AA(自動発信/自動着信型)
制御コマンド	HayesATコマンド準拠
	EIA-578拡張ATコマンドAT(class 1)

携帯電話／PHS接続機能

携帯電話／PHS接続機能は、携帯電話／PHS接続ケーブルが添付の場合、または別売の携帯電話／PHS接続ケーブルを別途購入された場合のみ使用できます。

個別仕様

種　類	項　目	規　格
PHS（NTTドコモ／アステル）接続ケーブル	適用回線	移動電話回線（PHS後位16芯）
	通信速度	PIAFS 32Kデータ通信：29.2Kbps（実効値）
		PIAFS 64Kデータ通信：58.4Kbps（実効値）
PHS（DDIポケット）接続ケーブル	適用回線	移動電話回線（PHS後位12芯）
	通信速度	PIAFS 32Kデータ通信：29.2Kbps（実効値）
		PIAFS 64Kデータ通信：58.4Kbps（実効値）
携帯電話（DoPa/PDC）接続ケーブル	適用回線	移動電話回線（PDC5式携帯電話端末後位16芯）
	通信速度	9.6Kbps（データ通信）9.6Kbps（パケット通信） 28.8Kbps（パケット通信）
cdmaOne接続ケーブル	適用回線	移動電話回線（CDMA方式携帯電話端末後位18芯）
	通信速度	14.4Kbps（データ通信）、64Kbps（パケット通信）

共通仕様

項　目	規　格
制御コマンド	ATコマンド※
網制御機能	AA

※：ATコマンドについては、以下のファイルを参照

Windows Me/Windows 98の場合：

C:¥Windows¥SCmodem¥Atc¥Html¥Atc000.HTM

Windows 2000/Windows NT 4.0の場合：

C:¥WINNT¥SCmodem¥Atc¥Html¥Atc000.HTM

内蔵LAN機能仕様

内蔵LAN機能は、LAN内蔵モデルのみの機能です。

規格概要

項　目	規 格 概 要
準拠規格	ISO 8802-3、IEEE802.3、IEEE802.3u
ネットワーク形態	スター型ネットワーク
伝送速度	100BASE-TX使用時：100Mbps 10BASE-T使用時：10Mbps
伝送路	100BASE-TX使用時：UTPカテゴリ5 10BASE-T使用時：UTPカテゴリ3、4、5
信号伝送方式	ベースバンド伝送方式
ステーション台数	最大1024台／ネットワーク
ステーション間距離 ネットワーク経路長※	100BASE-TX：最大約200m／ステーション間 10BASE-T：最大約500m／ステーション間 最大100m／セグメント
メディアアクセス制御方式	CSMA/CD方式

※：リピータの台数など、条件によって異なります。

割り込みレベルとDMAチャネル

パソコンで使用できる周辺機器は、すべて「リソース」というものを使用しています。リソースには、大きく分けて「割り込みレベル(IRQ)」「DMAチャネル」などがあります。

割り込みレベルとDMAチャネルについて

パソコンで使用できる周辺機器は、すべて「リソース」というものを使用しています。リソースには、大きく分けて「割り込みレベル(IRQ)」「DMAチャネル」などがあります。
これらのリソースは、それぞれの機器ごとに違う設定をしなければなりません。リソースが複数の機器に割り当てられている状態(リソースの競合)では、機器が正常に使用できないばかりか、システム全体の動作も不安定になってしまいます。

◎ 割り込みレベル

「割り込みレベル(IRQ)」は、複数の機器から同時にCPUにアクセスしたときに、どのような順序で処理していくかを決めるものです。本機では、購入時には次のように割り当てられています。

◆Windows Me/Windows 98の場合

IRQ	インターフェイス	IRQ	インターフェイス
0	システムタイマ	8	システムクロック
1	キーボード	9	SCI IRQ
2	割り込みコントローラ	10	PCIステアリングホルダー
3	(空き)※1		内蔵FAXモデム※3
4	通信ポート		サウンド
5	PCIステアリングホルダー		USBホストコントローラ
	IEEE1394ホストコントローラ		アクセラレータ
	CardBusコントローラ	11	(空き)
	USBホストコントローラ	12	NXパッド
	内蔵LANインターフェイス	13	数値データプロセッサ
	またはワイヤレスモジュール※2	14	プライマリIDEコントローラ
6	フロッピーディスクコントローラ	15	セカンダリIDEコントローラ
7	プリンタポート		

※1:赤外線通信機能または内蔵指紋センサ使用時には通信ポートに割り当てられます(赤外線通信機能と内蔵指紋センサを同時に使用することはできません)。
※2:LAN内蔵モデルまたはワイヤレスLAN(無線LAN)モデルのみ。
※3:FAXモデム内蔵モデルのみ。

◆Windows 2000の場合

IRQ	インターフェイス	IRQ	インターフェイス
0	システムタイマ	10	内蔵FAXモデム※2
1	キーボード		IEEE1394ホストコントローラ
2	割り込みコントローラ		サウンド
3	(空き)※1		USBホストコントローラ
4	通信ポート		CardBusコントローラ
5	USBホストコントローラ アクセラレータ		内蔵LANインターフェイス またはワイヤレスモジュール※3
6	フロッピーディスクコントローラ	11	(空き)
7	(空き)	12	NXパッド
8	システムクロック	13	数値データプロセッサ
9	SCI IRQ	14	プライマリIDEコントローラ
		15	セカンダリIDEコントローラ

※1:赤外線通信機能または内蔵指紋センサ使用時には通信ポートに割り当てられます(赤外線通信機能と内蔵指紋センサを同時に使用することはできません)。

※2:FAXモデム内蔵モデルのみ。

※3:LAN内蔵モデルまたはワイヤレスLAN(無線LAN)モデルのみ。

◆Windows NT 4.0の場合

IRQ	インターフェイス	IRQ	インターフェイス
0	システムタイマ	9	(空き)
1	キーボード	10	内蔵FAXモデム※3
2	割り込みコントローラ		サウンド
3	(空き)※1		アクセラレータ
4	通信ポート	11	(空き)
5	内蔵LANインターフェイス※2	12	NXパッド
	CardBusコントローラ	13	数値データプロセッサ
6	フロッピーディスクコントローラ	14	プライマリIDEコントローラ
7	プリンタポート	15	セカンダリIDEコントローラ
8	システムクロック		

※1:赤外線通信機能または内蔵指紋センサ使用時には通信ポートに割り当てられます(赤外線通信機能と内蔵指紋センサを同時に使用することはできません)。

※2:LAN内蔵モデルまたはワイヤレスLAN(無線LAN)モデルのみ。

※3:FAXモデム内蔵モデルのみ。

◎ DMAチャネル

「DMAチャネル」は、CPUを経由せずに周辺機器とメモリとのデータのやり取りを制御する機能のことです。本機では、購入時には次のように割り当てられています。

<table>
<tr><th>DMA</th><th colspan="3">インターフェイス</th></tr>
<tr><th></th><th>デフォルト</th><th>プリンタポートをECPで使用する場合</th><th>更にIRを使用する場合</th></tr>
<tr><td>#0</td><td colspan="3">（空き）</td></tr>
<tr><td>#1</td><td colspan="2">（空き）</td><td>IR</td></tr>
<tr><td>#2</td><td colspan="3">フロッピーディスクコントローラ</td></tr>
<tr><td>#3</td><td>（空き）</td><td colspan="2">ECP</td></tr>
<tr><td>#4</td><td colspan="3">DMAコントローラ</td></tr>
</table>

索　引

索引

英字

100BASE-TX 128
10BASE-T 128
BaySwapユーティリティ 188
BIOSセットアップメニュー 5, 204
CD-ROMドライブ 16, 48
CD-R/RWドライブ 16, 48
CD-R/RW with DVD-ROMドライブ .. 16, 48
CRTディスプレイ 155
DCコネクタ 17
DMAチャネル 235
FAT32ファイルシステム 43
【Fn】(エフエヌキー) 26, 27
IEEE1394コネクタ 17, 139, 184
Intellisync 106
Intel® SpeedStep™ テクノロジ .. 79, 87
LAN 128, 232
LAN用モジュラーコネクタ 17, 129
MultiBay 139, 192
MultiBayアンロック 16, 194
NXパッド 16, 29, 154
NXパッドドライバ 31
PCカード 162
PCカードイジェクトボタン 17, 162
PCカードスロット 17, 139, 162
PowerProfiler 88
PS/2互換マウス 153
StandbyDisk 2000 Pro 45
S映像出力端子 17, 139, 157
USB 196
USBコネクタ 17, 139, 196
USBマウス 148
VersaBay IV 139, 187
VersaBay IVアンロック 18, 190

あ行

アクセスランプ 20
アクセスランプ(CD-ROMドライブ・CD-R/RWドライブ・CD-R/RW with DVD-ROMドライブ) 48
暗証番号ボタン 16, 101
インターネット設定切替ツール 117
液晶ディスプレイ 16, 50
お手入れ 216
音量調節つまみ 16

か行

解像度 51
外部CRT用コネクタ 17, 139, 156
外部ディスプレイ 155
外部マイクロホン端子 16, 139
画面表示の調整 50
輝度 50
キーボード 16, 25
キャップスロックキーランプ 20
休止状態 66, 70
クライアントモニタリング 131
クリック 29
クリックボタン 29
携帯電話／PHS接続機能 122, 231
ケーブル接続 106
コントロールパネル 5

さ行

サウンド機能 109, 220
サスペンド 66, 69, 81, 83
指紋認証機能 100
指紋認証ユニット 100
充電 58
周辺機器 140, 144
省電力機能(Windows Me/Windows 98/Windows 2000) 66
省電力機能(Windows NT 4.0) 81
シリアルコネクタ 17, 139, 201
シリアルマウス 151

スーパバイザパスワード 94, 211
スクロールスライドスイッチ 29, 30
スクロールロックキーランプ 21
スタンバイ状態 66, 69
スタンバイモード 81, 82
スピーカ 16
スリープ状態 66
セカンドハードディスク 43
セカンドバッテリパック 65
赤外線通信機能 104
赤外線通信ポート 16, 105
赤外線転送 106
セキュリティ機能 93
増設RAMボード 177

た行

ダイヤル設定 112, 124
タップ 29
ダブルクリック 29
デバイスドライバ 143
デュアルディスプレイ 55
テレビ 157
テンキーボード 200
電源スイッチ 16
電源の自動操作 78, 86
電源ランプ 19
電話回線用モジュラーコネクタ .. 17, 112
盗難防止用ロック 17, 103
ドライバ 143
ドラッグ 29

な行

内蔵指紋センサ 100
内蔵マイクロホン 16
ニューメリックロックキーランプ 21
ネットワークブート 132

は行

バーチャルスクリーン 53
ハードディスク 36
ハードディスクのパスワード 96, 212
ハードディスクのメンテナンス 45
ハイバネーション 66, 70
パスワード 93
バッテリアンロック 18, 64
バッテリ残量 59
バッテリ充電ランプ 20, 59
バッテリのメモリ効果 60
バッテリパック 18, 64
バッテリパックの交換 62
バッテリリフレッシュ 60
パラレルコネクタ 17, 139, 146, 201
パワーマネージメント 82, 86
非常時ディスク取り出し穴 48
ビデオ変換ケーブル 157
表示色 51
表示ランプ 16, 17, 19
フォーマット 38, 39, 41, 44
復帰 66, 72
プラグ＆プレイ 143
プリンタ 146
プロジェクタ 156
フロッピーディスクアクセスランプ 20
フロッピーディスクイジェクトボタン ... 46
フロッピーディスクドライブ 16, 46
ヘッドホン／オーディオ出力端子 . 16, 139
ポインタ 29
ホットキー機能 27
ボリュームコントロール 109

ま行

マウス 148
マウス／テンキーボード用コネクタ .. 17, 139, 201
マスタパスワード 97
右クリック 29
メモリ 177
メモリスロット 18, 139, 179

メール着信ランプ 20
モデム 111, 229

や行

ユーザパスワード 94, 97, 211
ユニバーサル管理アドレス 130

ら行

リソースの競合 141
リモートコントロール 131
リモートパワーオン機能 132
領域の確保 36, 44
レジューム 66, 72, 85
ロックレバー 16

わ行

ワイヤレスLAN(無線LAN)機能 136
ワイヤレスランプ 16, 21
ワイヤレスリンク 108
割り込みレベル 233
ワンタッチスタートボタン 16, 22

活用ガイド
ハードウェア編

PC98-NX SERIES

VersaPro

VA11J/DF・VA10J/DF

初版　2001年8月
NEC
P
853-810028-170-A